

縣稅戶數割納稅義務者ニ重複賦課額ヲ議決シタル場合取扱方執財第一一三五號ヲ以テ御照會ノ趣キ了承右
 ハ後住村ニ於テ賦課額議決ノ際調査ヲ誤リタルモノニ付其賦課額ヲ減額スルヲ得サルハ勿論後住村ニ於テ
 轉住者ニ誤認賦課ノ爲メ全部ノ負擔額ニ減差ヲ生スルトキハ其賦課額ノ議決ヲ更正スヘキモノト存候此段
 及回答候也

○戶口簿整理方ノ件 (明治四十一年一月九日警發第二三八號)
 (警務課長ヨリ各署長分署長へ通牒)

戶口調査ニ際シ甲地ヨリ乙地ニ轉居等ノ爲メ其受持地ヲ去リタル戶口ニ對シテハ從來戶口調査簿ヨリ其刺
 紙ヲ撤去シ廢棄致シ來リ候處右ハ將來ニ於テ身元調査其他執行務上ノ考徴ニ供スル場合可有之認メラレ候
 ニ付爾今右等ノ爲メ撤去シタル刺紙ハ他ニ混交セサル様戶口別ニ一括紙拾ヲ以テ其一端ヲ緊束シ其餘白ニ
 本籍住所行先地及其地ヲ去リタル年月日等記載シ便宜紙袋ニ納メ保管ノ上轉免等ノ場合ハ必ス引繼ノ手續
 ニ出ラレ候様御取扱相成度依命此段及通牒候也

○現在戶數調査方ノ件 (明治四十一年一月十六日地第三七五號)
 (內務部長ヨリ各署長へ通牒)

毎年十二月末日現在戶數調査上警察署ノ調査ニ照合ヲ要スル場合ニ於テ退去者ノ名刺ヲ廢棄セルモノアリ
 テ調査スルヲ得サルニ至ルモノ有之趣キヲ以テ特ニ申出ノ向モ有之候處右ニ關シ本月九日ヲ以テ各警察署
 及分署長ニ對シ別紙ノ通牒相成タル等ニ候條爲御心得及通牒候也

○戶數割每戶賦課額表様式ノ件 (明治四十三年六月九日地第四六四〇號)
 (內務部長ヨリ仙臺市長ニ通牒)

縣稅賦課細則第五條ニ依リ報告スヘキ縣稅戶數割每戶賦課額表ハ別紙様式ニ依リ報告相成度依命此段及通

候也

何年度戶數割賦課額表 年月日
議決

仙臺市

一戶常稅額區分	標準金額	稅率	課額	戶數	備考
何圓以上					
三圓以上					
二圓以上					
一圓以上					
九十錢以上					
八十錢以上					
七十錢以上					
六十錢以上					
五十錢以上					
四十錢以上					

三十錢以上					
二十一錢以上					
十錢以上					
十錢未滿					
不賦課戸數					
計					

右別紙賦課方法ヲ添へ及報告候也

年月日

市長

知事宛

○二ヶ所以上ニ戸ヲ構フルモノニ課税スルノ件 (明治四十三年十月十日地第七二二一號) (内務部長ヨリ仙臺市長ニ回答)

仙財第五〇四〇號ヲ以テ一戸籍内ノ者ニシテ二郡市以上ニ別居シ各戸數割ノ賦課ヲ受ケタル後住居ヲ合併シタル場合ニ於ケル戸數割賦課方ニ關シ御照會相成候處右ハ事實戸ヲ廢シタルモノヲ納稅義務消滅者トシテ取扱ヘキ義ト存候條此段及回答候也

○増加恩給ヲ戸數割賦課標準ニ算入セサル件 (明治四十四年一月廿三日地第一六〇號) (内務部長ヨリ仙臺市長ニ回答)

一四〇

一四一

仙財第六九二五號ヲ以テ軍人恩給法第四條第一項ニ依リ免除恩給ヲ受ケタルモノ戰役ニ際シ召集從軍中傷病ヲ受ケ同法第九條第三項ニ該當シ増加恩給ヲ受ケ且ツ召集中官等昇進シ退職恩給ヲ受ケタルモノ退職恩給ハ縣稅戸數割ノ標準ニ算入スルヲ得ルヤ否ノ件伺出相成候處右ノ場合ニ於ケル退職恩給ハ軍人恩給法第四條第二號ニ依リ給與セラレタルモノナルヲ以テ本年度仙臺市戸數割賦課方法第二條ニ依リ戸數割賦課ノ標準ニ算入スルヲ得サル義ト存候條御承知相成度依命此段及回答候也

追テ參考ノタメ添付ノ關係書類一括返戻候也

○別荘ニ戸數割ヲ課税スル件 (大正元年九月廿一日地第七二二號) (宮城縣ヨリ長野縣ニ回答)

地甲發第一六號ヲ以テ縣内ニ別荘ヲ有シ甲乙兩住ノ實アルモノ等ニ對スル戸數割賦課ニ關シ照會相成候處右ハ甲乙兩住ノ實アルモノニ對シテハ各別ニ戸數割ヲ賦課シ又避暑避寒等ノ爲一時別荘ニ滞在スルモノ、如キハ戸數割ヲ賦課セサル例ニ有之候條此段及回答候也

○縣稅戸數割追加賦課方ノ件 (大正五年十月四日地第五三三六號) (内務部長ヨリ各郡市長ニ通牒)

本年度縣稅戸數割追加ノ賦課ニ關シ市町村負擔額ヲ定ムル標準戸數ハ前年末現在ナルヤ將タ又徵收期ノ屬スル月ノ初日(十月一日)ノ現在ナルヤ疑義ヲ生シ問合セノ向モ有之候處右ハ前年末現在ノ戸數ヲ標準トシ負擔額ヲ定ムヘキ儀ニ有之候條此段及通牒候也

追テ各納稅義務者ニ對スル該追加ノ賦課額ハ徵收期日ノ初日即チ十月一日現在者ノ既ニ定リタル戸數割ノ賦課額ニ比例シテ算定シ(錢位未滿ノ端數ハ之ヲ切捨テ全額一錢未滿ノモノハ一錢トシ)然ル後下半年期ニ合算スヘキ儀ニ有之候條爲念申添

候也

三一〇

○戸數割賦課取扱ニ關スル件 (大正七年一月十五日地第三〇四號)

(内務部長ヨリ各郡長ニ通牒)

縣稅戶數割賦課方法ノ制定ニ關シテハ明治三十六年一月訓令第二號ヲ以テ訓令相成爾來其改善ニ關シ指導獎勵ヲ加ヘラレタル結果各町村殆ント相當ノ標準ニ依リ賦課額ヲ定ムル規程ヲ設クルニ至リ候ヘ共實際賦課ノ内容ヲ調査スルニ町村會議決ノ賦課方法ニ準據セス漫然會議ノ見込ヲ以テ各戸ノ等級ヲ定メ專ラ之ニ基ツキ賦課額ヲ定ムルモノ有之右ハ不適當ノ取扱ナルノミナラス其間種々ノ弊害ヲ醸成シ縣稅賦課上誠ニ遺憾ノ次第ニ有之候條此際主任郡書記ヲシテ各町村賦課事務ノ實查ヲ行ハシメ苟モ以上ノ如キ取扱ヲナシ居ル向ニ對シテ嚴ニ戒告ヲ加ヘ大正七年度賦課方法制定ノ資料ニ供スヘキ標準ノ調査ニ着手セシメ且郡役所ニ於テモ亦充分指導監督ヲ加ヘ町村會議ノ賦課方法ニ基ツキ賦課額ヲ定メシメ一層賦課事務ノ改善ヲ期セラレ度尙從來賦課方法議決ノ際納稅義務者一人別等級表ヲ添付スル向有之候ニ付將來之ヲ添付セシメサル様特ニ御監督相成度此段及通牒候也

○戸數割納稅ニ關スル件 (七年十一月廿六日照會稅第二四六五號)

(内務部長宛仙臺市長ヨリ)

縣稅戶數割納稅者中官私ヨリ俸給、報酬、手當、及勳章年金等ヲ受クルモノニシテ上半期ニ於テ賦課ヲ受

ケタルモノ下半年賦課期日以前縣外ニ轉勤シ現住地ニ於テ戸數割ヲ納稅シアルモノ家族ニ對スル賦課ハ本縣賦課規則第四條ノ一ニ依リ一家内ノ者ニ於テ世帯ヲ繼承シタルモノト見做シ最初決定ノ儘之レヲ變更セス賦課致シ來リ候處(假令縣ヲ異ニスルモノト雖)斯クテハ同一人ニ對シ同期間ニ於テ重複賦課ノ嫌アルヲ以テ爾今右様ノ場合ハ其俸給、報酬、手當及勳章年金ニ對スル賦課標準ヲ除キ家族ノ生活狀態ニ依リ賦課更訂相成様致度此段及内照候也

○右 回 答 (大正七年十二月二日地第六三六八號)

(内務部長ヨリ仙臺市長ヘ回答)

稅第三四六號ヲ以テ御内照相成候件御見込ノ通御取扱相成可然右及回答候也

○戸數割追加賦課方ノ件 (大正八年一月十三日地第二〇七號)

(ヲ以テ各郡市長ニ通知)

縣稅戶數割ノ追加賦課方ニ關シ市町村負擔額ヲ定ムル標準戶數ハ前年末現在ナルヤ將タ又徵收期ノ屬スル月ノ現在ナルヤ疑義ヲ生シ間合セノ向モ有之候處右ハ前年末(六年)現在戶數ヲ標準トシテ負擔額ヲ定ムル儀ニ有之候而シテ其負擔額ハ徵收期月初日ノ現在者ニ對シ既ニ定マリタル納稅額ニ比例シ各納稅者ノ賦課額ヲ算定スル儀ニ有之候條右ニ御承知相成度此段及通牒候也

○追加戸數割賦課ニ關スル件 (大正八年一月二十一日地第二〇七號)

(内務部長ヨリ仙臺市長ニ通知)

フ第一五八號ヲ以テ戸數割追加賦課ニ關スル件御照會相成候處右ハ御見込ノ通御取扱相成可然候條此段及回答候也

○同上ノ件 (大正八年一月十五日フ第一五八號)

(仙臺市長ヨリ内務部長ニ照會)

本月十三日地第二〇七號ヲ以大正七年度縣稅戶數割追加賦課方ノ件御通牒相成候處該通牒ニ依レハ既定納稅額ニ比例シ各納稅ニ賦課可致儀ト被存候ヘ共左記事項ニ對シ聊疑議相生候條至急何分ノ御回報得度此段及照會候也

左記

大正七年四月一日現在ニ於テ賦課シタルモノニシテ二月一日現在(轉出者ヲ除ク)者ニ賦課シヘキモノナルヤ

本縣郡部ニ於テ納稅年額確定シ本市ヘ轉入シタルモノニ對シテハ該確定額ニ依リ課稅シヘキモノナルヤ
下半年分ノミ賦課シタルモノ又ハ賦課シヘキモノニ對シテハ本市賦課方法ニ基キ算出シタル其ノ年額ニ賦課シヘキモノナルヤ

○新規營業開始又ハ納稅義務發生者ニ對スル縣稅賦課ニ關スル件 (大正六年九月各郡市財務主任書記會ニ於テ指示)
市町村負擔額ニ屬スル營業者又ハ戶數割等ノ納稅者ニシテ年度開始後上半年賦課マテノ間ニ於テ新ニ營業ヲ開始シ又ハ納稅義務發生者ヲ四月一日現在ニ算入シ其ノ年度ノ負擔額ヲ分配シ又ハ下半年賦課後ニ於ケル納稅義務發生者ニ對シ其期ノ隨時賦課ヲ爲サ、ルモノアリ前者ハ商工業ニ多ク後者ハ戶數割ニ最モ多キカ如シ如斯ハ管ニ規定ニ反スル取扱ナルノミナラス縣經濟ニ及ホス影響甚大ナルヲ以テ今後ハ深ク此點ニ留意シ年度開始後ノ義務發生者ハ相當規定ニ基キ其ノ都度賦課ヲ行ヒ遺漏ナキヲ期セラルヘシ

○戶數臺帳ノ設備ニ關スル件 (大正六年九月各郡市財務主任書記會ニ於テ指示)

戶數臺帳ハ規定ノ様式ニ依リ調製シ平素其異動ヲ加除シ置クヘキ筋ナルニ往々其ノ整理ヲ怠リ甚キハ更ニ設備セサル向アリテ毎年十二月末ノ現在戶數調査ニ際シ支障ヲ見タルノ例少ナカラサルヲ以テ不整理又ハ設備ナキ向ニハ此際精々督勵ヲ加ヘ其ノ完備ヲ期セラルヘシ

○戶數調査ニ關スル件 (大正六年九月各郡市財務主任書記會ニ於テ指示)

戶數割賦課戶數調査ニ關シテハ每年次調査期ニ於テ注意セラレタル處ナルモ其ノ調査疎略ニシテ遺漏重複計算等ノ誤謬ノ發見スルコトアルノミナラス下宿者又ハ貧困者ノ故ヲ以テ特ニ之ヲ計算セサル向アリテ數々照會往復ヲ重ネ爲メニ賦課戶數ノ確定ニ支障ヲ生スル場合不尠ヲ以テ今後一層此調査ニ注意シ明治二十八年訓令第四一號該當者ハ漏レナク調査シ誤謬ナキヲ期セラルヘシ

○實例

(三ヶ月以上府縣内ニ滞在スルモノ、意義)
「三ヶ月以上府縣内ニ滞在スルモノ」云々トアルカ右ニ所謂三ヶ月以上ハ引續クコトヲ要スル義ニシテ一月二月ニ一ヶ月半ノ滞在ヲ爲シ更ニ五、六月ニ涉リ滞在シタルモノ、如キハ前後二回ノ滞在月數ヲ通算シ三ヶ月以上ニ亘ルモノ、如キハ本條ニ該當セサルモノトス
(町村ノ住民ト滞在人)
屯營、病院學校等ノ構内ニ在ル官吏ニシテ其ノ所ニ常住居ヲ構フルモノ、如キハ住民ト看做スヘク又兵

卒、患者、生徒ハ滞在人ト看做スヘキモノトス
(本邦駐在ノ外國領事ト市町村税ノ賦課)

條約ニ別段ノ規定無之ニ於テハ課税ニ差支無之モ彼國駐在帝國ノ領事ニ課税セサルニ於テハ双互國際的好意ヲ以テ課税セサル方然ルヘキモノトス

(法人ト府縣稅戶數割賦課)

法人タル銀行ヲ一戶ノ現住者トシ其ノ納税金地租所得稅營業稅其ノ他土地等ヲ府縣稅戶數割等差標準トシ個數ヲ定メ之ニ戶數割ヲ賦課スルコト得ス

(戶數割賦課)

官廳ニ奉職ノ爲メ單獨任地ニ赴キ下宿セル官吏ニ對シ賦課規則ノ定ムル所ニ依リ府縣稅戶數割ヲ賦課スルハ法律上差支ナキコトニ屬セリ

(戶主ト同居セル家族ニ對シテハ戶數割ノ賦課)

戶主ト同居セル家族ト雖戶主ト全ク生計ヲ異ニシ獨立ノ生活ヲ營ム者ニ對シテ府縣稅戶數割ヲ賦課スルハ府縣ノ賦課規則中別ニ抵觸ノ規定無キ場合ニ於テノミ賦課スルコトヲ得ヘキモノトス

(師團ニ在學セル外國軍人ト地方稅ノ賦課)

所在師團ニ在學セル佛獨等ノ陸軍々人ニ對シ其師團所在地ニ假令一戶ヲ構フル者ト雖トモ府縣稅戶數割ヲ賦課スルモノニアラス之レ各國カ在外帝國軍人ニ對シテ地方稅ヲ賦課セサルヲ以テ我國ニ於テモ同様

ニ取扱フモノトス

(府縣賦課規則ト何月何日ノ現在意義)

府縣稅賦課規則中「四月一日十一月一日ノ」現在戶數ニ依リ之ヲ賦課ス云々ノ何月何日ノ現在トハ其ノ日ノ午後十二時ニ現在スル戶數ノ意義ニ解スルモノトス

(豫審判事檢事正ノ官舎ト課稅)

豫審判事檢事正ノ官舎直接公用ニ供スルト否トヲ問ハス國ニ對シ市町村稅ヲ課稅スルヲ得ス但シ戶別割ノ如キ其ノ人ニ課スルモノハ素ヨリ賦課徵收スルヲ得ルモノトス

(知事警察部長ノ官舎ト課稅)

府縣知事警察部長等ノ官舎ハ直接公用ニ供スルト否トヲ問ハス國ニ對シ市町村稅ヲ課稅スルヲ得ス但シ戶別割ノ如キ其ノ人ニ課スルモノハ素ヨリ賦課徵收スルヲ得ルモノトス

(減免ト或關係)

府縣稅ノ減免若ハ納稅延期ハ納稅ノ義務ヲ盡スコト能ハサル特別事情ノ有スル輕重ニ從ヒ與フヘキモノニテ或產物ノ保護又ハ發達ヲ期シ殊ニ課稅ヲ減免スルカ如キハ本條ノ範圍外ニ屬ス但營業稅雜種稅ニ在テハ同規則第四條ニ依リ適宜取捨スルコトヲ妨ケス

(在留外人ト租稅賦課ニ對スル異議申立)

本邦在留ノ外國人ニシテ本邦人ト同シク納稅ノ義務アルモノハ租稅ノ賦課ニ關シ本邦人ト同シク異議ノ

申立ヲ爲シ又ハ訴願ノ提起ヲ爲シ得ルモノトス

(府縣稅戶數割ノ賦課ト異議)

府縣稅戶數割ノ賦課ニ關シ國稅又ハ建物坪數等ヲ標準トシ等級ヲ定メタル場合ニ於テ右ノ標準ト事實トノ間ニ誤謬ヲ受ケタルモノハ賦課ノ錯誤トシテ府縣制第百十五條ニ依リ異議ノ申立ヲ爲スヲ得ルト雖市町村會カ何等ノ標準ヲ設ケスシテ等級ヲ定メタル場合ニ於テハ其課額カ如何ニ不相當ナルモ賦課ノ錯誤ト云フヲ得サルニ付此場合ニ於テハ異議ノ申立ニ依リ之カ救正ヲ求ムルコトヲ得サルモノトス

(戶別割ニ關スル訴願)

戶別割ニ關スル訴願ハ稅則ニ背キ若ハ課率ニ誤リテ賦課スルカ如キ場合ヲ提起スルヲ得ルモノニシテ等級ニ關シテハ特別稅ト雖モ訴願スルコトヲ得サルモノトス

○判例

(既納稅返還ニ關スル知事ノ命令ト訴願)

既納稅金ヲ返還スルニ及ハサル旨知事カ村長ニ命シタルヲ不當トシテ之カ取消ヲ要求スルノ件ニ就テハ行政訴訟ヲ許ス條定ナシ(明治二四、二、二七判決)

(三ヶ月ノ起算)

本條第一項ニ所謂三月トハ徵稅令書ノ交付ヲ受ケタル期日ヨリ起算スヘキモノトス(明二九、五、二六判決)

(戶數割賦課取消ノ件)

寺院ノ住職トシテ單身起臥スルニ過キスシテ自ラ炊爨ヲ爲スモノト認ムヘカラサル場合ニ於テハ一戶ヲ構フルモノト云フヲ得ス從テ之ニ對シ戶數割ヲ賦課スルハ違法ナリ

(市町村會カ府縣稅賦課ノ細目ヲ議決スル方法ニ關シテハ市町村制中何等ノ制限ヲ設クルコトナシ)

原告ハ明治三十年度及三十一年度共ニ納稅資格ニ毫モ變更ナク又本縣ニ於テ一般賦課稅率ヲ増加シタルコトナキニ原告ニ對シ前年度ニ比シ二十七倍ノ加重ヲ爲シタル定率ヲ以テ戶數割ヲ賦課シタルハ全ク錯誤ニ出テ爾不當ノ課稅ナリ而シテ被告主張ノ如ク單ニ町會ノ意見ニ依リ之ヲ定ムルモノトセハ町會ハ數百萬圓ノ資産ヲ有スル者ト雖モ納稅ノ資格ナシトス又赤貧洗フカ如キ者ト雖モ多額ノ納稅資格アリト議定スルコトヲ得ルニ至ルヘシ如此ハ獨リ租稅徵收ノ原理ニ反シ遂ニ府縣制第六十八條(本制第百十五條第一項ニ該當ス)ハ空文徒法ニ屬スルナラン故ニ町會カ納稅者各自ノ等級課額ヲ定ムルニ必ス納稅者ノ現實ノ資格ヲ基本ト爲サルヘカラス町會ト雖モ本件ノ如キ現實ノ資格ニ符合セサル等級課額ヲ議定スルノ權限ハアルモノニアラスト主張スルニ在レトモ府縣稅賦課ノ細目ニ係ル事項ヲ市町村會ノ議決ニ付スルコトヲ得ヘキハ府縣制第六十一條(即チ本條)ノ示ス所ニシテ其市町村會ニ於テ議決スル場合ニ關スル方法ハ同制中何等規定スルモノナキヲ以テ原告主張ノ如ク課稅ノ原理ニ反シ穩當ナラサルモノトスルモ之ヲ違法トシ賦課額ヲ更正シ得サルモノトス(明治三二、一一、二七判決)

(町村會カ納稅者ノ貧富ニ應シ等差ヲ設ケ府縣稅ヲ賦課スルノ議決ヲ爲シタルハ違法ニ非ス)

原告ニ於テ村會カ縣稅戶數割ノ賦課額ヲ議定スルハ平均戶數割家屋坪割ノ額ニテ明確不動產ノ財源ヲ認
メサルヘカラス各自ノ財產ニ就キ豫想上ヨリ標準ヲ貧富ノ程度ニ取ルハ錯誤ト云ハンヨリ寧ロ不法ナリ
ト云フト雖モ府縣稅賦課ノ細目ニ係ル事項ヲ市町村會ノ議決ニ付スルコトヲ得ヘキハ府縣制第六十一條
(即チ本條百九條ニ該當ス)ノ示ス所ニシテ市町村會ニ於テ之ヲ議決スヘキ方法ニ關シテハ同制中何等ノ
規定ナシ又縣令ノ規定アリ故ニ每戶ノ賦課額ヲ議決スルニ方リ町村會カ納稅者ノ貧富ニ應シ等差ヲ設ケ
タルモ該等差ハ違法ノモノナリト謂フヲ得ス隨テ該等差ニ據リ賦課シタル戶數割モ亦不法ノ課稅ナリト
謂フヲ得ス(明治三二、二二、一五判決)

(戶數割賦課ノ標準)

戶數割ハ一府縣内甲乙兩村ニ於テ同時ニ同一府縣稅ノ目的タルヲ得ス(三四、一〇、一四判決)

(縣稅戶數割ノ賦課ト其賦課ノ標準ニ付規定ヲ設ケサルトキ)

縣會ニ於テ府縣制第九條ニ依リ縣稅戶數割賦課ニ係ル事項ヲ村會ノ議決ニ付シタル場合ニ於テ其賦課
ノ標準ニ付キ何等ノ規定ヲ設ケサルトキハ總テ村會ノ議決ニ一任シタルモノトス從テ縱令村會カ其標準
ノ適用ヲ誤マリタルコトアリトスルモ之ヲ以テ村會カ委任ノ權限内ニ於テ議決シタル各戶ノ賦課額ヲ違
法ナリト謂フヲ得ス(明治三五、三三、二〇判決)

(戶數割各戶ノ賦課額)

縣會ニ於テ府縣制第九條ニ依リ縣稅戶數割賦課ニ係ル事項ヲ村會ノ議決ニ付シタル場合ニ於テ村會カ

委任ノ權限ヲ以テ議決シタル各戶ノ賦課額ヲ違法ナリト謂フヲ得ス(三五、三三、二〇判決)

(戶數割賦課)

隨時作製シ得ヘキ私人ノ證明ヲ以テ住居移轉ノ反證ト爲スニ足ラス(三六、一一、三〇判決)

(戶數割ノ賦課)

出寄留ノ届出ヲ爲シタルニ拘ハラズ依然前住地ニ一戶ヲ構フル者ニハ縣稅ヲ賦課スルハ妨ケヌ(三七、一、
二二判決)

(戶數割ノ賦課)

他人ノ家屋ヲ區割シテ其ノ一部ヲ借受ケ自己ノ業務ヲ取扱フ場所トシ同所ニ於テ寢食ヲ爲シ現ニ竈ヲ備
付ケタル者ハ縣稅戶數割ノ賦課ヲ免レヌ(三九、三三、五五判決)

(戶數割賦課ノ標準)

戶數割賦課ノ標準トシテ漁業稅賦課ノ物件ニ課稅スルモ不當ニ非ス(三九、三三、二三判決)

(戶數割ノ賦課)

多數ノ雇傭ヲ使役シテ酒類ヲ製造シ日夜之ヲ販賣スル酒造釀造業ノ如キ者ハ反對ノ證據ナキ限り營業主
カ其營業場所在地ニ於テ一戶ヲ構フルモノト認定スルヲ當然トス
一戶ヲ構フルモノトシテ戶數割ヲ課賦セラル、ニハ必スシモ引續キ其地ニ住居スルコトヲ要セス(四一、
四、一三判決)

(戸數割ノ賦課)

戸數割ノ賦課額カ單ニ前年度ノ率ニ依ラサルノ理由ヲ以テ其賦課ニ違法アリト謂フヲ得ス
(縣稅戶數割賦課ノ細目ト村會ノ議決ニ一任)

縣會ニ於テ府縣制第百九條ニ依リ縣稅戶數割賦課ノ細目ニ係ル事項ヲ村會ノ議決ニ付シ又ハ縣稅賦課徵收規則ヲ以テ村會ヲシテ適宜標準ヲ設ケシムル場合ニハ戶數割賦課ノ標準ニ付テハ總テ之ヲ村會ノ議決ニ一任シタルモノトス(明治四二、一一、二五列決)

(同一縣内ニ於ケル住民ノ轉籍)

甲村ノ住民カ全戸同一縣内ノ乙市ニ轉籍シタルニ拘ハラヌ其家族ノ一部カ依然甲村ニ於ケル從來ノ家屋ニ常住シテ世帯ヲ立ツルトキハ該住民ハ甲乙兩地ニ於テ各一戸ヲ構フルモノトス(明治四三、一、二九列決)

(縣稅賦課ノ細目ト町村會ノ議決方法)

縣稅賦課ノ細目ニ付町村會カ之ヲ議決スル方法ニ關シテ何等ノ制限ナキトキハ其等級ヲ議定スルニ當リ特別査定ノ事由及ヒ查覈ノ理由ヲ特ニ明示セサルモ該議決ヲ目シテ違法ナリト云フヲ得ス(明治四三、一一、二九列決)

(熊本縣稅賦課規則ト戸數割賦課等級)

熊本縣稅賦課規則第二十六條ハ戶數割賦課等級ノ決定ニ關シ何等ノ制限ヲ設ケサレハ村會カ其見込ヲ以テ各戸ノ負擔額ヲ定ムルモ違法ニアラス(明治四三、二、五列決)

(市ニ現住セサル者ト縣稅ノ賦課)

市ニ現住セサル者ニ對シ縣稅戶數割ヲ賦課スルハ違法ナリ(明治四三、五、一四列決)
(縣會ノ議決ヲ經テ規定セラレタル縣稅賦課規則ト關係町村會ノ議決)

(府縣制第百九條ニ依リ縣會ノ議決ヲ經テ規定セラレタル縣稅賦課規則ニ基キ關係町村會ノ議決ニ從ヒテ)

府縣制第百九條ニ依リ縣會ノ議決ヲ經テ規定セラレタル縣稅賦課規則ニ基キ關係町村會ノ議決ニ從ヒテ戶數割ヲ賦課シタル以上ハ假令課稅ノ權衡ヲ得サル點アレハトテ違法ナリト云フヲ得ス(明治四三、六、二五列決)

(縣稅賦課規則ト課稅ノ權衡)

府縣制第百九條ニ依リ縣會ノ議決ヲ經テ規定セラレタル縣稅賦課規則ニ基キ關係町村會ノ議決ニ從ヒテ戶數割ヲ賦課シタル以上ハ假令課稅ノ權衡ヲ得サル點アレハトテ違法ナリト云フヲ得ス(明治四三、一一、二〇列決)

(府縣内ニ一戸ヲ構ヘサル者ト戸數割)

府縣内ニ一戸ヲ構ヘサル者ニ對シ戶數割ヲ賦課スルハ失當ナリ(明治四三、一一、二〇列決)

(地方稅規則ト旅行者ノ留守居)

明治十三年太政官布告第十六號地方稅規則ニ所謂戶數割ハ戶ヲ基礎トスルモノナレハ之ヲ賦課スルニハ必スヤ一戸ヲ構フルノ事實アルヲ要ス從テ旅行者ノ一時留守居ヲ爲シタル者ニ對シ之ヲ賦課スルハ違法ナリ(明治四四、四、二〇列決)

(縣稅戶數割賦課處分取消)

縣稅賦課徵收規則カ單ニ「戶數割ハ市町村會ノ議決ヲ以テ各人ノ納額ヲ定ム」ト規定セル場合ニ於テハ納額ノ決定ハ市町村會ノ議決ニ一任シ其決定ニ付一定ノ根據標準ヲ設クルコトヲ要セサルモノト云ハサルヘカラス而シテ市町村會ニ於テ其見ル所ニ從ヒ各人ノ納額ヲ決定シ得ヘキ以上納額ノ不權衡ヲ理由トシテ其議決ヲ違法ナリト云フコトヲ得ス(明治四五、一、三二判決)

(戶數割賦課方法ト戶主他ニ寄留シ家族ニ於テ戶主ノ財産ヲ處理シアルトキハ戶主ノ財産ヲ家族ノ分限ニ合算賦課)

某村縣稅戶數割每戶賦課方法中「戶主他ニ寄留シ家族ニ於テ戶主ノ財産ヲ處理シアルトキハ戶主ノ財産ヲ家族ノ分限ニ合算賦課スルモノトス」トアルハ戶主ノ財産ヲ處理スル場合ヲ謂フモノニシテ況ク家政ヲ處理スル場合ヲ謂フモノニアラサレハ戶主ノ財産ヲ處理セサル家族ニ對シ戶主ノ所得稅ヲ標準トシテ戶數割金額ヲ算出シタルハ不當ナリ(明治四五、六、二八判決)

(稅務署ニ於テ決定シタル最近所得)

某町ノ縣稅賦課細目第二條ニ「稅務署ニ於テ決定シタル最近所得」トアルハ第二期分戶數割ニ付テハ其賦課期ノ前々末日ニ於テ現ニ決定セラレアル最近所得額ヲ謂フモノトス(明治四五、六、六判決)

(縣稅戶數割賦課)

府縣制第九條及ヒ之ニ基キタル山梨縣々稅賦課規則第十二條第二項ノ規定ニ依レハ等差ヲ付シ賦課額ヲ決定スルコトハ市町村會ノ議決ニ一任シ其決定ニ付キ必スシモ一定ノ標準ヲ設クルコトヲ要セサルモ

ノトス(明治四五、七、一〇判決)

(縣令所定ノ期限後ノ議決ト賦課)

縣令所定ノ期限後ニ於テ爲シタル議決ニ基ク戶數割ノ賦課ハ不法ナリ(大正一、二、四判決)

(縣稅戶數割ノ賦課ト貧富ノ程度ヲ參酌シタル町村會ノ議決)

府縣制第九條第一項ニ依リ縣稅戶數割ノ賦課方法ヲ市町村會ノ議決ニ一任シ之ニ基キ町會ノ議決ヲ以テ其賦課ニ付キ各納稅者ノ諸收入ヲ調査シ貧富ノ程度ヲ參酌シ等級ヲ五十等ニ分テテ戶々ニ賦課スト定メタル場合ニ在リテハ各納稅者其收入及貧富ノ程度ニ依リ町會ノ見ル所ヲ以テ相當トスル等級ニ編入スヘク從テ同一等級ニ編入セラル者ノ間ニ於テモ收入及貧富ノ程度ニ差アルコトヲ免レス(大正一、〇、一九判決)

(收入及貧富ノ程度前年度ヨリ低減セル場合ト町村會ノ議決ニヨリ等級ヲ昇シタル賦課)

府縣會ノ議決ヲ以テ戶數割ノ賦課方法ハ每年市町村會ニ於テ議決スヘキモノト定メタル以上ハ縱令納稅者ノ收入及貧富ノ程度前年ヨリ低減セル場合ト雖モ其年度ニ於テ町會カ新ニ議決セル賦課方法ニ依リ等級ヲ昇セ賦課額ヲ増加セル點ノミヲ以テ其賦課ヲ相當ナリト云フヲ得ス(大正一、〇、一九判決)

(戶數割等級ノ件)

縣稅戶數割賦課等級方法第六條第二條所定ノ標準ノミニヨリテ公平適當ニ資力ニ應スル賦課ノ標準ヲ定メ難キ場合ニ於テハ各人生活ノ程度ヲ參酌シテ之ヲ定ムルコトヲ得ヘキ旨趣ト解スヘキモノトス(六年五

(参照)

徳島縣坂野郡大山村規程第六條第二條ノ標準額ヲ以テ等級ヲ組織スルコト能ハサル者ハ生活ノ度合ヲ酌シ特ニ等級ヲ昇降スルコトヲ得

(構戸ノ事實)

家計カ他人ノ補助又ハ給與ニ依ルノ事實ハ戸ヲ構フル者タルヲ妨ケス(六、一〇、三判決)

(構戸ノ事實)

現行地方税規則所定ノ戸數割ノ實体ハ構戸ニシテ構戸トハ通俗ニ所謂家又ハ世帯ヲ持ツノ謂ナリト解スヘク家又ハ世帯ヲ持ツトハ家事ノ經濟ヲ營ムコトヲ意味スルカ故ニ獨立生計ヲ營マサルモ一時的ニアラス獨立ノ住居ヲ占メ又ハ獨立ノ住居ヲ占メサルモ自ラ炊爨ヲ爲ス者ノ如キハ構戸ヲ構ヘルモノト認ムヘク之ニ反シ獨立ノ生計ヲ營ムモ他人ノ家ニ寄宿シ食事ノ供給ヲ受クル者ハ戸ヲ構フルモノニアラスト謂ハサルヘカラス

構戸ノ意義ハ現行地方税規則實施以來變更ナシ(七年三月十三日判決)

(村會ノ賦課等級編制)

一、略ス

二、町村制第一百一條第一項ノ規定ハ傷痍疾病者ノ恩給ニ對シテハ町村税ヲ賦課スルコトヲ得サル旨ヲ規

定シタルニ止マリ之ヲ戸數割ノ等級ヲ受ケル如キ生活狀態ヲ斟酌スル資料ト爲スコトヲ禁止スルノ法意ニ非ス(大正七、四、二九判決)

第四章 營業稅雜種稅

第十二條 營業稅ヲ課スヘキ業別左ノ如シ

商業

一 物品販賣業

○營業稅雜種稅科目業名及標準區別拔萃

(明治三十年十二月二十八日 縣訓令第五五號)

物品販賣業

- 一定ノ店舗其他ノ營業場ヲ設クルト否トニ拘ラス物品ノ卸賣小賣ヲ爲ス者ヲ云フ行商モ亦同シ
- 左ニ列記スル諸業ハ物品販賣業ト見做ス
 - 一 一定ノ製造場ヲ設ケス職工ヲ使役スルコトナク原料ヲ供給シ工錢ヲ支拂ヒ物品ヲ製造セシメテ販賣スル者
 - 二 一定ノ製造場ヲ設ケス店頭又ハ路傍等ニ於テ物品ヲ製造シテ販賣スル者
 - 三 飼料ヲ購求シ家畜又ハ家禽ヲ飼養シ之ヲ販賣シ又ハ卵乳等其產物ヲ販賣スル者

四 魚介類ヲ養殖シテ販賣スル者
五 勸殖物其他普通物品ト稱セサルモノヲ販賣スル者

製造業者其製造場區域内ニ於テ製造品ヲ販賣シ及別ニ營業場ヲ設ケ其製造品ノ卸賣ノミヲ爲スモ物品販賣業トセス寫真業者其營業場區域内ニ於テ撮取シタル寫真ヲ販賣スルモ物品販賣業トセス

○縣稅賦課取扱方ノ件拔萃 (明治三十年五月十九日地第一六八二號)
(ヲ以テ内務部長ヨリ各郡市長ヘ通牒)

稅務主任書記協議會ヲ開キ候際主任ヨリ及御答候事項別紙ノ通り應議決定候條右ニ依リ御取扱相成度此段及通牒候也

記

- 一、鍋釜類ノ鑄掛、靴屋、煙管替、足駄ノ齒入、箆屋ノ類ニシテ一定ノ製造場ヲ設ケス材料道具ヲ携帯シ途上依頼者ノ需ニ應シ修理ヲ以テ業トスルモノハ賦課規則第九條ノ所謂器具器械ヲ修繕云々ニ該當スルヲ以テ製造業稅ヲ賦課スル事
- 二、(消滅ニ付除ク)
- 三、梨園ヲ所有シ店舗ヲ設ケ梨ヲ販賣スルモノハ物品販賣業稅ヲ賦課スルコト
- 七、炭燒、莫産織業等ハ他ヨリ原料ヲ買入レ供用スルト否トニ拘ハラヌ人工ヲ加ヘ物質ヲ變換シテ販賣スルヲ業トスルモノニハ製造業稅ヲ賦課スル事
- 八、鍛冶職ハ店舗ヲ設ケス製作ヲ專業トスルモノニ限リ製造業稅ヲ賦課シ店舗ノ設ケアルモノハ物品販賣

業稅ヲ賦課スルコト

九、公立ト私立トヲ問ヘヌ學校又ハ病院ノ賄請人ハ物品販賣業賦課スル事

氷水、心太(俗稱ランヨ)ノ類ヲ行商スルモノハ物品販賣業稅ヲ賦課スル事

○醬油、酒造、混成酒、造營業者ニシテ營業稅法ノ課稅要件ヲ備ヘサルモノニハ

縣稅賦課ノ件 (明治三十年二月二十七日縣甲第二八號内)
(内務省縣治局長通牒)

地方稅營業稅賦課ニ關スル件ニ付別紙ノ通岡山縣照會ニ對シ大藏省協議ノ上及回答候條爲御心得此段及通牒候也

(別紙)

岡山縣照會

明治三十年一月二十九日

當縣ニ於テ營業稅法ノ課稅要件ヲ備ヘサル營業者ハ總テ地方稅營業稅ヲ課スヘキ筈 (明治二十九年地方稅ハ賦課)ニ有之候得共醬油稅則酒造稅法及混成酒造稅法ニ依リ造石稅ヲ納ム營業者ハ營業稅法ノ課稅要件ヲ備ヘサルモ營業稅雜種稅規則第一條但書ニ依リ地方稅營業稅ヲ課スルコト能ハサルヘクト存居候處右之場合ニ於テ醬油營業者ニ地方稅營業稅ヲ課スヘキ向有之哉ニ承知致候右ハ果シテ造石稅ヲ納ムル營業者ニモ地方稅ヲ課スルコトヲ得ル義ト心得可然哉折返シ電信ヲ以テ何分ノ御答相煩度爲念此段及照會候也

縣治局回答

明治三十年二月二十三日 (電信)

二十九日付議乙第六號問合ノ件ハ地方稅ヲ得經伺ノ上回答ス

○醬油、酒造、混成酒造營業者ニシテ營業稅法ノ課稅要件ヲ備ヘサルモノニハ
縣稅賦課ノ件 (明治三十年三月三日內第一五三號)
(內務部長ヨリ各郡市長ヘ通牒)

醬油稅則、酒造稅法及混成酒造稅法ニ依リ造石稅ヲ納ムル營業者ト雖モ營業稅法ノ課稅要件ヲ備ヘサルモノニハ縣稅營業稅ヲ課スルヲ得ルコトニ其筋ニ於テ省議決定ノ旨通牒有之候條酒造及混成酒造ハ二十九年十月ヨリ醬油ハ三十年一月ヨリ課稅方可被取計候依命此段及御通牒候也

○度量衡ノ販賣製作ニ對シ縣稅ヲ課スル件 (明治三十一年十月縣甲第九六號)
(主稅局長地方局長通牒)

營業稅法第十一條ニ掲クル營業ニ對シテハ府縣稅營業稅ヲ賦課スルヲ得サルノ例ニ有之候處右ノ内度量衡ノ販賣、製作ニ對シテハ府縣稅ヲ賦課シ得ルコトニ今般決定相成候條右ニ御承知有之度此段及通牒候也

○通稅脫稅ノ取締ニ關スル件拔萃 (明治三十八年四月十一日內一地第二四五八號)
(內務部長ヨリ各郡市長ヘ通牒)

縣稅營業稅雜種稅ノ通稅取締ニ關シテハ縣稅檢査ノ結果ニ依リ其都度及通牒尙稅務主任會同ノ際主務課ヨリ及協議置候次第ニ有之候ニ付(略ス)課稅ニ關シテ夫々注意相成居候事ト被存候處尙一般通稅脫稅者ヲ生セシメサルハ勿論左ノ各項ニ關シテハ一層御注意相成候致度爲念此段及通牒候也

記

一、他府縣ヨリ行商者中(縣內ノ滞在三ヶ月以上ニ涉ルモノ)賣藥者以外ノモノニハ脫稅者多キ嫌ヒアルヲ以テ此等ノ者ヲ取調課稅スルコト

○縣稅賦課上取扱ノ件 (明治三十九年四月十九日訓第四七號)
(仙臺市長ヘ訓令)

縣稅賦課ニ關シ諸營業又ハ物件ニシテ届出後納稅義務者又ハ納稅義務者ト課稅物件ト併セ所在不明ノモノアル場合ニ於テハ左記各項ニ依リ取扱フヘシ

右訓令ス

一、納稅義務者又ハ納稅義務者ト課稅物件ト併セ所在不明ノモノアルトキハ臺帳中現在ノモノト分離シ別口座ヲ設ケ之ヲ整理シ所在發見ニ至ル迄課稅ノ手續ヲ停止スヘシ但其所在ヲ發見シタルトキハ現在ノ部ニ移記シ遡リテ課稅ノ手續ヲナスヘシ

二、前項所在不明ノモノアルトキハ市長ハ其稅目、課稅標準、稅額、納稅義務者ノ住所氏名ヲ明記シ知事ニ報告スヘシ而シテ減額合書其他當應ノ通知ニ依リ前項本文ノ手續ヲ爲スヘシ

三、所在不明ノ爲別口座ニ整理シタルモノ、所在ヲ發見シタルトキハ市長ハ第一項俱書ニ依リ臺帳ヲ整理シ稅目、課稅標準、稅額(賦課見込)納稅義務者ノ住所氏名並ニ臺帳登錄濟ノ旨等ヲ明記シ知事ニ報告スヘシ

○納稅義務者中現在不明ノモノ發見報告方ノ件 (明治三十九年六月十九日仙臺第一二七九號)
(仙臺市長ヨリ第一部長ヘ照會)

納稅事務整理上必要ニ有之候間御部内ニ於テ縣稅納稅者現住不明ノモノ發見相成候節ハ其都度御通報有之候様御取計相成度此段及照會候也

○同上ノ件 (明治三十九年八月十八日地第一〇〇二一號)
(第一部長ヨリ仙臺市長ヘ回答)

仙臺第一二七九號ヲ以テ縣稅納稅義務者現住不明ノモノ發見ノ場合通報方ノ件御照會ノ處右ハ當應ニ於

テ發見シタルモノハ夫々可及御通報候條貴市ニ於テ發見シタルモノハ其時々御申報相成度此段及通牒候也
追テ納稅義務者届出規則ニ依リ住所移轉ノ届出ヲ要スルモノハ其發見ノ都度ニ届出セシムル様御取扱相
成度爲念申添候也

○蠶種販賣業者及生繭賣買業者住所氏名報告方ノ件

(大正四年七月地第四三三七號
内務部長ヨリ蠶業取締支所へ通牒)

課稅上調査資料トシテ必要有之候ニ付貴所ニ於テ鑑札ヲ交付セラレ居ル蠶種販賣業者及生繭賣買業者ノ住
所氏名等左記様式ニ依リ鑑札交付ノ都度所轄部長へ御通知相成度此段及通牒候也

追テ該營業ハ季節ニ於テノミ營業スルモノニシテ課稅上時季ヲ失スル虞レ有之候ニ付交付濟ニ係ル分ハ
此際全部御通知相成度申添候

様式

鑑札交付ノ 年月日	業名	摘要	住所	氏名

備考

蠶種販賣業者ニシテ自家製造ニ係ル蠶種ノミヲ販賣スルモノハ摘要欄ニ「自家製造ノモノ」ト記載
スヘシ

生繭賣買業者ノ從業者ハ何某從業者ト肩書スヘシ

○縣稅營業稅賦課ニ關スル件

(大正五年十二月一日和地第二二〇號
地方局長ヨリ知事へ通牒)

營業稅法第二十一條第二項ノ營業者ニ對シ縣稅營業稅ヲ賦課シ得ルヤ否ヤノ件和歌山縣知事ノ問合ニ對シ
賦課差支無之旨回答候條右御承知相成度

追テ右賦課ニ關シ資本金ヲ課稅標準トセラル、ニ於テハ自然重課ト相成國稅徵收猶豫ノ旨趣ニモ反スル
次第ニ付課稅ヲ爲ス場合ニ於テハ收益ノ有無等ヲ充分御調査ノ上取捨相成候様御注意相成度

○實例

(些少物品販賣ノ意義)

些少物品トハ容積ノ大、小、輕重數ノ多少又ハ小ニシテ高價大ニシテ安價ノモノヲ云フニアラスシテ一ケ
年間ニ於ケル賣上金額ノ僅少ナルモノニシテ戶數割及市町村稅ノ免除者ノ販賣スル物品ヲ云フ意ナリ
免稅者ヲアラサルモ檐下ニ草履、草鞋類ノ一品ヲ釣シ販賣スルモノ、如キハ本項ニ準シテ取扱フヘキモ
ノトス

(豆芽シト製造業)

自家收得ノ原料タルト他ノ供給原料タルトヲ問ハヌ豆芽シト製造シテ卸賣スルモノニ對シテハ製造業稅
ヲ課稅スヘキモノトス又店舗ヲ設ケ小賣ヲ兼スル者ハ物品販賣業稅ヲモ併課スヘキモノトス

附記 豆芽ハ栽培ニ屬スルモノト云フ論者アルモ現今ノ學說トシテハ製造ニ屬スルモノトセリ

(販賣營業ヲ爲スニアラサルトキハ營業稅ナク又附加稅ナルモノアルコトナシ)
 營業稅法第十五條第一項營業者ニシテ甲府縣ニ於テ店舗ヲ設ケ物品販賣ヲ爲シ乙府縣ニ於テハ其販賣スヘキ物品ノ仕入ヲ爲ス場所及從業者ノミアリテ賣上ナキ場合ニ於テハ乙府縣ニ於テ仕入ヲ爲ス者ハ販賣營業ヲ爲スモノニアラサルヲ以テ販賣營業ニ課スル營業稅ナルモノナキニ依リ隨テ其附加稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

(仕入業ヲ爲ス外國人ト府縣稅賦課)

府縣内ニ店舗ヲ有シ仕入業ヲ爲ス販賣行爲ハ本國ニ於テノミ行フ外國人ニ對シテハ國稅營業稅ヲ賦課セザルカ故ニ府縣ニ於テハ適宜營業稅ヲ賦課スルコトヲ得ルモノトス

(賦課年度區分)

大正六年三月中ニ於ケル縣稅營業稅雜種稅ノ月稅又ハ隨時收入ヲ課スヘキ事實ニ對シ大正六年四月ニ於テ縣稅ヲ賦課スルハ五年度所屬トシテ賦課スルハ然ルヘカラス而シテ其ノ縣稅ニ對スル附加稅(市町村稅)ハ大正六年度ノ賦課ナレハ同年度ノ課率ニ依ルヘキモノナリ

○判例

(營業稅徵收處分取消)

一、營業稅雜種稅規則第一條ニ所謂商業トハ自己ノ利益ノ爲メ其業ヲ營ム者ヲ指シ他人ノ爲メ勞役ニ服

スル者ヲ包含ス

二、商事會社ノ取締役ニ商業稅ヲ賦課シタルハ違法ノ處分ナリ(二六年十二月七日宣言)

(縣稅賦課取消請求ノ所)

一、店舗ヲ定メ營業ヲ爲ス者ハ縣稅ノ賦課ヲ受クヘキモノトス

二、國稅徵收法第十八條ニ依ル犯罪ハ時効ニ罹レルモ爲メニ縣稅ノ納稅義務ヲ免ル、ヲ得ス(二十九年二月七日宣言)

(營業稅ノ課稅標準)

一、營業場トハ不斷公衆ノ自由ニ出入シテ營業上ノ取引ヲ爲ス場所ヲ謂フ

二、金錢貸付ノ業ヲ營ム者トハ親戚故舊ノ如キ特殊ノ事情アル者ニ限ラス汎ク公衆ニ對シ信用ヲ開始シ之ヲ繼續スル者ヲ謂フ

三、從業トハ營業主ヲ始メ直接ニ營業ニ從事スル者ヲ謂フ(三四、一〇、一一判例)

(一定ノ場所ニ於ケル營業ト賦課)

一定ノ場所ニ於テ營業ヲ爲ス者即チ行商ニアラサル者ニハ其ノ場所カ營業者ノ本據タルト否トヲ論セス總テ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得(明治四三、一一、一三判例)

(營業稅ノ賦課)

二會社ヲ合併シ其營業ヲ繼續シタル會社ハ營業稅法第二十三條ニ依リ前營業者タル二會社ニ依リテ納稅

ノ義務ヲ有ス(三七、二二、二八判決)

(支店ニ對スル村税賦課)

- 一、營業税法第十五條ノ規定ハ國税ヲ徵スル便宜法ニ過キサレハ他ニ法令ノ規定アラサル限りハ之ノミヲ以テ營業税ノ所在ハ本店所在地ナリト謂フヲ得ス
- 二、支店ノ營業税ヲ合算シ本店ニ於テ納付スルモ此營業税ノ所在ハ支店、所在地ナルヲ以テ之ニ賦課セラレタル附加税ヲ拒ムコトヲ得ス

(附加税賦課)

- 一、株式會社ノ支店ハ反證ナキ限り本店ト同一ノ業務ヲ取扱フ場所ト認ム
- 二、本支店間資本ヲ區分セサル法人ハ縱令本店所在地ニ於テ營業税又ハ所得税ノ全部ニ對スル附加税ヲ納付シタル場合ト雖モ之ヲ以テ支店所在地ノ町村ニ於ケル附加税ノ賦課ヲ拒ムノ理由ト爲ヌヲ得ス
- 三、公文書ハ當事者ノ不認ニ依リテ其證據力ヲ失フヘキモノニ非ラス(四一、二、二八判決)

(委託販賣ト課税)

米穀取引所ニ於ケル定期賣買ハ單ニ轉賣又ハ買戻ニ依リテ損益ヲ決算スルヲ通例トスルヲ以テ止ムヲ得ス現米ヲ引取り商店ニ委託販賣スルモ初メヨリ販賣ノ意志ナキモノナレハ物品販賣業ニ非ス(四四、二、二〇判決)

(營業税法第二十一條ノ主意)

營業税法第二十一條國税營業税ヲ徵收セサルニ止マリ其ノ不徵收期間内ニ於テ其ノ營業者ノ營業ニ對シ地方税ヲ賦課スルコトヲ爲シタル旨趣ニ非ス(大三、六、三〇判決)

(營業税ノ賦課)

物品ヲ製造シテ販賣スルヲ業トスルモノヲ以テ必スシモ製造業又ハ販賣業ノ何レカ一ヲ營ムモノト爲スヘキニアラス製造業ト販賣業トヲ併セ營ムモノト認ムヘキ場合アリ(六年十二月四日判決)

(物品ノ製造販賣業ヲ常トスル者)

物品ヲ製造販賣スルヲ業トスルモノヲ以テ必スシモ製造業(精白業)又ハ販賣業(白米)ノ何レカ一ヲ營ムモノト爲スヘキニサラス製造業ト販賣業トヲ併セ營ムモノト認ムヘキ場合アリ(六年十月判決)

○國税例

(從業者)

料理ノ仕出ノミヲ專業トスル者ハ物品販賣等トシテ課税ス(明二八、九、一八大藏省主税局ヨリ縣治局ニ回答)註記

本縣ニ於テハ本項ニ該當ノ行爲ハ料理店業税ヲ賦課スニキ規定ナリ

(飲食物ノ販賣)

客室ヲ設ケ飲食物ヲ販賣スル者其ノ條件ニ違セサルカ爲必シモ更ニ之ヲ物品販賣業ト見做サス(明二九、八

大藏省決議

(酒造家ノ原料買入ト課税)

酒造家ニシテ事實上製造ノ原料ト爲スニアラスシテ他ヨリ酒ヲ買入レ販賣スル者ハ製造兼物品販賣業トシテ課税ス(明二九、八、大藏省課決定)

(製造業ト販賣業)

印刷屋、足袋屋ノ類ニシテ一定ノ製造場ヲ設ケス店頭ニテ製造スルモノハ職工ヲ使用スルト否トヲ問ハス物品販賣業トシテ課税ス(明二九、九、主税局ヨリ三重縣ニ通牒)

(所有地ヨリ採取ノ原料ト販賣業)

自己ノ所有地ヨリ陶磁器ノ原料タル石土ヲ採取シ一定ノ店舗若クハ營業場ヲ設備スルモノハ物品販賣業トシテ課税ス(明二九、九、九、主税局ヨリ佐賀縣ニ通牒)

(鐵道停車場構内ノ店舗ト課税)

鐵道停車場構内ニ於テ常ニ店舗ヲ設ケ物品ヲ販賣スルモノハ物品販賣業トス(明二九、九、九、主税局ヨリ岩手縣ニ通牒)

(有價證券ノ販賣)

有價證券、株券、債券等ヲ賣買スルノ類ハ營業税法第二條(物品販賣業)第二項第五項(動植物其他普通ニ物品ト稱セサルモノヲ販賣スルモノ)ニ該當スルモノトス(明二九、九、九、主税局ヨリ大阪府ニ通牒)

(營業税法第二條ノ意義)

營業税法第二條第二項ハ店舗其ノ他ノ營業場ヲ有セサルモノハ包含セス(明二九、九、一八、大藏省主税局ヨリ福岡縣ニ回答)

(出賣子ト從業者)

菓子煙草ノ出賣子モ從業者トス(明二九、九、主税局通牒)

(屠畜業者ノ賣肉ト課税)

屠畜業即チ生牛馬ヲ買入之ヲ屠殺シ牛馬肉商へ販賣スルモノハ營業税法第二條ノ要件(一定ノ店舗其他營業場小賣ヲ爲ス)ヲ具ヘタルモノハ物品販賣業トス(明二九、一〇、五、主税局ヨリ福岡縣ニ回答)

(製造業ト販賣業)

製造場ニ於テ販賣セス別ニ店舗ヲ設ケテ卸賣ヲ爲スモノモ製造業ノ範圍内ナリ(二九、一〇、主税局ヨリ静岡縣ニ回答)

(飲食物ノ陳列ト課税)

蕎麥、饅頭、或ハ餅、團子ノ類ヲ店頭ニ陳列販賣スルノ外客室ヲ設ケ之ヲ喫食セシムルモノ、如キハ客室ヲ設ケテ販賣スルヲ主ト爲スモノハ料理店業トシ店頭ニ陳列販賣ヲ主ト爲スモノハ物品販賣業トシテ課税ス(明二九、一〇、八、主税局ヨリ福井縣ニ回答)

(卸賣ト小賣)

一定ノ製造場ヲ設ケタル製造業者別個ノ店舗其ノ他ノ營業場ニ於テ製造品ノ卸賣又小賣ヲ爲ストキハ小賣ノミ物品販賣業トシテ課税ス(明二九、一〇、一〇、大藏省主税局ヨリ福岡縣ニ回答)

(營業ノ繼承)

同一ノ營業トハ吳服店ノ跡ニ吳服店ヲ開ク如キ種類ノ營業ヲ云フ(明二九、一〇、主税局回答静岡縣)

(會社ノ資金募集ト營業開始)

會社ノ資金募集ハ開始ニ非ラス實際營業ヲ開始シタルトキヲ以テ開始トス(明二九、一〇、主税局ヨリ静岡縣ニ回答)

(賣藥請賣)

賣藥請賣業ハ物品販賣業トス(明二九、一、一、九、主税局ヨリ滋賀縣ニ回答)

(天然氷ト販賣業)

天然氷營業者ハ物品販賣業トシテ課税ス(明二九、一、二、一八、主税局ヨリ北海道ニ回答)

(茶園ト課税)

茶園ヲ所有シ一定ノ製造場ナク茶葉ヲ摘採シ工錢ヲ支拂ヒ茶ヲ製造セシメテ販賣スル者一定ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ有スルトキハ物品販賣業トシテ課税ス(明二九、一、二、一八、主税局ヨリ農務局ニ回答)

(店舗ト行商トノ收入)

一定ノ店舗アル物品販賣業ニシテ行商ヲ營ムトキハ其賣上金額ヲ併算ス(明二十九年主税局ヨリ廣島縣ニ通牒)

(貨座業ト課税)

貨座業者カ普通ノ集會ニモ客室ヲ供シ又ハ飲食物ヲ販賣スルトキハ席貸業又ハ販賣業トシテ課税スルモ其貨座敷業ニ附随セル業務ヲ營ムコトアルモ席貸業又ハ料理業トシテ課税セス(明三〇、四、主税局通牒)

(藥劑師ト販賣業)

藥劑師カ醫師ノ處方箋ニノミ依リ調劑販賣スルモノハ物品販賣業トセス(明三九、六、七、主税局ヨリ名古屋局ニ回答)

(有價證券ト問屋業)

無記名有價證券ノ賣買ニシテ他ノ營業(問屋業)トナラサル場合ニ於テハ營業税法上物品販賣業タルコトハ勿論ナリトス(明四一、七、一五大藏省議決定)

(營業場ノ收入ト行商收入)

税法ニ營業場外ニ於ケル賣上金額ヲ除算スヘキ規定ナキヲ以テ行商ニ係ル分ヲ併算スルハ相當ナリ(明四三、二、大藏大臣裁決)

(新聞紙ノ販賣ト課税)

新聞紙ノ販賣及其ノ取次行爲ニ對シテハ營業稅ヲ課セス(明四三、三、二九、主税局ヨリ各稅務監督局ニ通牒)

(巡航販賣ト課税)

一、本店ヲ有スル者カ船舶ヲ以テ販賣行爲ヲ爲ストキハ本店ノ賣上額ニ合算課税ス、時ニ巡航スルコトア

ルモ主トシテ一定ノ場所ニ在ルモノハ課税ス

一、巡航販賣ノミスル者ハ課税セス(明四三、五、一九、主税局長通牒)

(電氣ノ買入ト製造ノ範圍)

電氣ノ供給ヲ爲ス會社ニシテ製造力不足ノ爲他ヨリ買入レ需用者ニ送電スルモ製造業ノ範圍内ニ於テ爲シ得ヘキ行爲ナリ(明四四、二、主税局ヨリ廣島縣ニ回答)

(官報販賣所ト課税)

官報販賣所ニハ營業稅ヲ課セス(明四四、三、二九、主税局通牒)

(銀行業ノ範圍ト課税)

銀行業カ有價證券ノ買入販賣ヲ爲スモ銀行業ノ範圍内ニシテ物品販賣トシテ課税スヘキモノニアラス(明四四、五、二、會計検査ニ回答主税局)

(蠶種製造ト課税)

自ラ養蠶ヲ爲シ蠶種ヲ製造シテ販賣スル者ニ對シテハ卸賣ト小賣トヲ問ハス又店舖ノ有無ニ不拘課税セス(大正二、二、二七、主税局通牒)

二 牛馬賣買業

○牛馬商ニ關スル件

(明治四十四年四月廿一日地第五〇九七號)
(内務部長ヨリ栗原郡長ニ回答)

從來牛馬商ヲ營ムモノニシテ牛馬商取締規則發付後同則ニ依ル地方長官ノ免許鑑札ヲ受サルモノハ廢業者トシテ縣稅納稅義務者届出規則ニ依リ廢業届ヲ徵シ處理スヘキヤ否ヤノ件ニ付栗財第二九一九號ヲ以テ照會相成候處右ハ事實營業スルモノナル以上ハ廢業届ヲ徵セス引續キ課税相成可然ト存候此段及回答候也

三 繭生絲屑物賣買業

○蠶種販賣業者及生繭賣買業者住所氏名報告方ノ件

(大正四年七月地第四三八七號)
(内務部長ヨリ蠶業取締支所ヘ通牒)

課税上調査資料トシテ必要有之候ニ付貴所ニ於テ鑑札ヲ交付セラレ居ル蠶種販賣業者及生繭賣買業者ノ住所氏名等左記様式ニ依リ鑑札交付ノ都度所轄郡長ヘ御通知相成度此段及通牒候也

追テ該營業ハ季節ニ於テノミ營業スルモノニシテ課税上時季ヲ失スル虞レ有之候ニ付交付濟ニ係ル分ハ此際全部御通知相成度申添候様式

鑑札交付ノ年月日	業名	摘要	住所	氏名

備考 蠶種販賣業者ニシテ自家製造ニ係ル蠶種ノミヲ販賣スルモノハ摘要欄ニ「自家製造ノモノ」ト記

載スヘシ

生商買業者ノ從業者ハ何某ノ從業者ト肩スヘシ

○國稅ノ例

(廢業ノ意義)

季節向營業ニシテ他ノ季節中休業スルモ事實廢業ト認ム可カラサルモノハ廢業トシテ取扱フモノニアラス(明二九、八大藏省議決定)

(廢業ノ意義トノ日時)

廢業ハ其ノ業務ヲ全ク廢止シタルトキヲ以テ之ヲ認ムルハ勿論ナルモ該事實ヲ確認シ能ハサルトキハ屆書收受ノ日ヲ以テ處理ス(明三〇、一〇、主稅局ヨリ東京局ニ回答)

四 質屋業

○判例

(營業稅ノ課稅標準)

一、營業場トハ不斷公衆ノ自由ニ出入シテ營業上ノ取引ヲ爲ス場所ヲ謂フ

二、金錢貸付ノ業ヲ營ム者トハ親戚故舊ノ如キ特殊ノ事情アル者ニ限ラス凡ク公衆ニ對シ信用ヲ開始シ之ヲ繼續スル者ヲ謂フ

三、從業トハ營業主ヲ始メ直接ニ營業ニ從事スル者ヲ謂フ(三四、一〇、一一、判決)

(營業稅課稅)

金錢貸付ノ營業場ハ特別ノ設備ヲ要スルモノニ非サレハ苟モ一定ノ場所ニ於テ引續キ金錢貸付ヲ爲ス以上ハ營業稅法第二條ノ所謂營業場ニ該當ス(四〇、六、一九判決)

(營業稅賦課)

營利ノ目的ヲ以テ金錢貸付ヲ爲シタリト認ムル事實アル者ニ對シ營業稅ヲ賦課スヘキハ當然ナリ(四二、二、二九、判決)

(金錢貸付ト營業場)

一定ノ營業所ヲ有シ金錢貸附業ヲ爲シタル事實アル者ハ營業稅ノ賦課ヲ拒ムヲ得ス

五 物品貸付業

(營業稅法第二條ノ意義)

有價證券、株券、債券等ヲ賣買スルノ類ハ營業稅法第二條(物品販賣業)第二項第五項(動植物其他普通ニ物品ト稱セサルモノ)ニ該當スルモノトス(明二九、九、主稅局ヨリ大阪府ニ通牒)

六 運 送 業

六六四

○營業稅雜種稅科目業名及標準區別拔萃

(明治三十年十二月二十八日)
(縣訓令第五五號)

運送業

運賃又ハ手数料ヲ受ケテ人又ハ貨物ヲ輸送シ又ハ其取扱ヲ爲ス者ヲ謂フ車夫、車力、舟子ハ運送業トセ

○郡市長委任條件拔萃

(大正三年四月十七日)
(訓令甲第十九號)

郡市長委任條件左ノ通改正ス

郡長委任條件

第四、渡船營業願處分ノ事但海面縣負擔ノ河川及補助河川ニ屬スルモノハ除ク

○郡市長ノ委任條件ニ關スル願屆差出方

(大正三年四月十七日)
(縣令第二十二號)

左ニ記載スル一乃至二十一ノ事件ハ郡長ニ其五、九、十五、十七ノ事件ハ市長ニ委任セシニ依リ該件ニ關スル願屆等ハ郡長市長ニ差出スヘシ

第四、渡船營業願處分ノ事但海面縣負擔ノ河川及補助河川ニ屬スルモノハ除ク

○渡船業又渡橋業ニ對シ縣稅ヲ課スル件

(明治二十七年八月九日第二〇三〇號)
(內務部長ヨリ社慶郡長ニ回答)

渡船又ハ渡橋業者ニ對シ縣稅賦課ノ儀ニ付御照會ノ趣了承右ハ橋梁ノ架設渡船業ノ目的營利ニ出ルモノニ

一七六

一七七

シテ即チ商業者ト認ムヘキモノニハ御見込ノ通り課稅スルヲ得ル義ト存候此段及御答候也

(明治二十七年八月三日社財第二二一八號)
(社慶郡長照會)

渡船業又ハ渡橋業ニ對シ縣稅商業稅ヲ課シ差支無之義ト存候へ共一應及御問合候也

○國稅ノ例

(運送業ト店舗)

運送業ハ一定ノ店舗其ノ他ノ營業場アルコトヲ要セヌ(明四一、七、大藏大臣判決)

(仲仕ト從業者)

運送業、棧橋業等ニ附屬シ仲仕ト唱ヒ貨物ノ集散配達等ヲ掌ルモノニシテ必要ノ時ニ臨ミ賃錢ヲ給シテ使役スル一定ノ傭人ニアラサルモノハ從業者ニ計算セヌ(明二九、九、主稅局ヨリ京都府ニ通牒)

(碇泊船ト波止場ノ運送ト課稅)

小舟ヲ以テ波止場ト碇泊中ノ蒸汽船トノ間ヲ往復シ旅客送迎貨物運搬ヲ爲ス者ハ運送業トス(明二九、九、主稅局通牒)

(鐵道業ト收入金)

鐵道業ニ課稅スヘキ收入金額ハ鐵道業ニ依リ直接收入ニ係ルモノヲ算入シ該業ヲ營ム爲メ間接ニ收入セ

（鐵道業ト收入種目）

鐵道業收入中左記種目ハ大体ニ於テ鐵道業ニ依リ直接ニ生スルモノト認メ課稅標準ニ計算ス（明三八、六、主稅局ヨリ各稅務監督局ニ通牒）

客車收入、貨車收入、貨物保管料、入場切符料、客貨車使用料、車類通過料、停車場割合料、停車場使用料、貨車留置料、倉庫使用料、器具機械貸渡料

七 請 負 業

○營業稅雜種稅科目業名及標準區別拔萃

（明治三十年十二月二十八日）
（縣訓令第五五號）

請負業

土木建築工事、土方、爲人足、小揚、撒水、點火其他總テノ請負ヲ業トスル者ヲ謂フ

○縣稅賦課取扱方ノ件

（明治三十年五月十九日地第一六八二號）
（ヲ以テ內務部長ヨリ各郡市長ニ通牒）

稅務主任書記協議會ヲ開キ候際主任ヨリ及御答候事項別紙ノ通り應議決定候條右ニ依リ御取扱相成度此段及通牒候也

記

一、鍋釜類ノ鑄掛、靴屋、煙管替、足駄ノ齒入、繩屋ノ類ニシテ一定ノ製造場ヲ設ケス材料道具ヲ携帶シ途上依頼者ノ需ニ應シ修理ヲ以テ業トスルモノハ賦課規則第九條ノ所謂器具器械ヲ修繕云々ニ該當スルヲ以テ製造業ヲ賦課スル事

九、公立ト私立トヲ問ハス學校又ハ病院ノ賄請人ハ物品販賣業ヲ賦課スル事

十三、土木請負勞力請負業者ニシテ一定ノ營業場ヲ設ケサルモノハ居室ヲ以テ營業場トナス事

○判 例

（土木請負業）

鐵道工事ニ關スル作業ノミヲ請負フモ之ヲ土木請負業ト謂フヘク其業務ノ爲ニ設ケタル各事務所ハ就レモ營業場ト謂フヲ得ヘシ依テ營業稅法第十五條ニ依リ營業場毎ニ課稅スヘキハ當然ナリ（三七、四、一三判決）

○參 考

（請負業ノ意義）

- 一、他ノ爲メニ或仕事ノ完成ヲ約スルコトヲ要ス
- 二、相手方ヨリ仕事ノ結果ニ對シテ報酬ヲ受クルヲ要ス
- 三、營利ノ目的ヲ以テ請負ヲ業トスルコトヲ要ス

○國稅ノ例

（他人ニ雇入レ給料ト請負業）

大工、左官、石工、手傳人等他人ニ雇ハレ日當ヲ受クル者ハ請負業ノ範圍外ナリ（明二九、五、主稅局ヨリ奈良縣ニ回答）

(大工、左官等ノ請負トナル場合)

大工、左官、仕事師ノ類ニシテ弟子ヲ抱ヘ置キ人ノ依頼ヲ受ケ豫メ一定ノ額ヲ定メ工事ヲ請負フ者ハ請負業トス(明二九、九、主税局ヨリ茨城縣ニ通牒)

(請負業ト營業場)

請負業者カ居宅ニ於テ請負スルモノト雖モ店舖若ハ營業場ト認ムヘキ設備アレハ課税ノ範圍内タルヘシ(明治三九、一一、主税局ヨリ大阪局ニ回答)

(胞衣火葬ト課税)

市ニ於テ胞衣ノ取除並火葬ノ業ヲ營ムモ課税ノ限ニアラス(明四〇、五、主税局ヨリ大阪局ニ回答)

(請負業ト請負金額)

請負業ノ請負金額ハ前年中收入シタル及收入スヘキ權利ノ確定シタル金額ニ依ルモノトス(明四二、二、主税局ヨリ各稅務監督局ニ通牒)

(生繭乾燥ト課税)

他人ノ依頼ヲ受ケテ生繭ノ乾燥ヲ業トスルモノニ對シテハ勞力請負業トシテ課税ス(明四二、三、大藏會議決定)

(人畜死体火葬ノ請負ト課税)

人畜ノ死体火葬ノ請負業ニ對シテハ課税セス(明四二、五、會計検査院ニ回答明四四、三、主税局仙臺局ニ回答)

(製板行爲ト請負)

製板行爲ヲ請負フ者ハ請負業ナリ(明四四、一、主税局通牒)

(請負業ノ性質ヲ有スル業体ト課税)

請負業ノ性質ヲ有スルモノニシテ税法上ノ製造業其ノ他ノ業体ニ該當スルモノハ其ノ業体ニ依リ他ハ請負業トス(明四四、七、主税局通牒)

(賃織業ト請負業)

織物賃織業ハ請負業トシテ課税ス(明四四、七、主税局通牒)

(請負業ノ營業場ノ意義)

請負業ノ營業場ハ請負契約締結ノ本據トシテ廣ク契約ノ申込ヲ受クル場所ニ限リ其ノ他ノ場所ハ營業場ト看做サス(明四四、七、主税局通牒)

(請負業ニ屬スル種目)

左記ノ業ハ請負業トシテ課税ス(大正三、六、主税局通牒)

起毛、晒、洗張、上繪、下繪、織物整理、陶器ノ繪付、和洋裁縫、製本

八宿業

宿業

○營業稅雜種稅科目業名及標準區別拔萃

(明治三十年十二月廿八日) 縣訓令第五五號

飲食物ヲ供スルト否トニ拘ラス旅客ヲ宿泊セシメ又ハ温泉宿下宿木賃宿其他總テ人ヲ宿泊セシメ宿泊料
飲食料木賃等ヲ受クル者ヲ謂フ

○判例

(木賃宿ト課税)

- 一、營業税法第九條但書ノ木賃宿トハ其ノ營業カ木賃方法ニ依ルモノニシテ普通貧民ヲ宿泊セシムルコトヲ目的トシ旅人宿ニ比シテ其規模少ナルモノヲ指稱ス
- 二、所轄警察署カ府縣令ニ依リ木賃宿ト認定シ許可セシモ其ノ實態ニシテ旅人宿ナル以上ハ府縣令ノ如何ニ拘ハラス營業税ヲ賦課スルヲ得(四一、二二、九判決)

○國稅ノ例

(宿屋、料理店ノ從業者)

宿屋、料理屋等ニ於テハ炊事ノミヲ掌ル下婢モ從業者トス(明二九、九、主稅局ヨリ京都府ニ通牒)

九兩	替業
十兩	旋業

○營業稅雜種稅科目業名及標準區別拔萃

(明治三十年十二月二十八日) (縣訓令第五五號)

公ナル周旋業

一定ノ店舗其他ノ營業場ヲ設クルト否トニ拘ハラス公ニ他人ノ依頼ヲ受ケテ土地建物有價證券其他物ノ賣買貸借交換等ヲ周旋シ又ハ貸金ノ取立就業雇傭其他ノ取次ヲ爲シ手數料其他ノ報酬ヲ受クル者ヲ謂フ

○縣稅賦課取扱方ノ件

(明治三十年五月十九日地第一六八二號) (ヲ以テ內務部長ハ各郡市長ニ通牒)

稅務主任書記協議會ヲ開キ候際主任ヨリ及御答候事項別紙ノ通り應議決定候條右ニ依リ御取扱相成度此段通牒候也

四、雇人受宿ハ公ナル周旋業トシテ國稅ノ賦課ヲ受ケサルモノニ限リ賦課スルコト

○國稅ノ例

(家屋ノ貸付媒介ト周旋業)

家屋、貸付ノ媒介家賃ノ取立ヲ爲スモノハ周旋業ナリ(明四四、五、三、主稅局ヨリ大阪局ニ回答)

(移民取扱ト周旋業)

移民取扱ハ營業法中周旋業トシテ課稅スヘキモノトス(明三五、九、六、主稅局ヨリ通商局ニ回答)

十一兩	仲立業
-----	-----

○營業稅雜種稅科目業名及標準區別拔萃

(明治三十年十二月二十八日) (縣訓令第五五號)

他人間ノ商行爲ノ媒介ヲ爲シ口錢其他ノ報酬ヲ受クル者ヲ謂フ

○國稅ノ例

(取引所ト仲立業)

取引所ハ仲立業ニアラス(明二九、九、九、主稅局ヨリ三重縣ニ回答)

(市場ノ商取引ト課稅)

市場ニテ商取引ノ媒介ヲ爲スモノハ仲立業ナリ(明二九、一〇、八、主稅局ヨリ福井縣ニ回答)

十二 問屋業

○營業稅雜種稅科目業名及標準區別拔萃

(明治三十年十二月二十八日 縣訓令第五五號)

問屋業

自己ノ名義ヲ用ヒ他人ノ計算ヲ以テ賣買其他ノ商取引ヲ爲シ口錢其他ノ報酬ヲ受クル者ヲ謂フ

○國稅ノ例

(有價證券ノ賣買ト問屋業)

無證名有價證券ノ賣買ニシテ他ノ營業(問屋業)トナラサル場合ニ於テハ營業稅法上物品販賣業タルコトハ勿論ナリトス(明四一、七、一五、大藏省議決定)

(問屋業等ノ資金貸與ト課稅)

問屋業又倉庫業者ニシテ賣買當事者又ハ寄托主ノ爲メニ資金ヲ貸與シ立替金ヲ爲シテ一定ノ金利ヲ取得スルヲ營業トスルモノハ金錢貸付業ヲ兼業スルモノトシテ課稅ス但シ前渡金又ハ手附金ノ性質ヲ有スル者ハ此ノ限ニアラス(明四四、八、主稅局通牒)

十三 代理業

○營業稅雜種稅科目業名及標準區別拔萃

(明治三十年十二月廿八日 訓令第五五號)

他人ノ名義ト計算トヲ以テ商業上ノ代理ヲ爲シ手数料其他ノ報酬ヲ受クルモノヲ謂フ

○國稅ノ例

(代理店ト課稅)

銀行若ハ生命保險會社等ノ代理店ト稱シ其ノ本社ヨリ相當ノ報酬ヲ受クルモノ、如キハ代辦業(代理業ト業名變更)トシテ課稅ス(明二九、九、九、主稅局ヨリ神奈川縣ニ回答)

(銀行業者ト勸業銀行ノ代理)

銀行業者カ日本勸業銀行ノ代理店トシテ勸業債券取扱ノ事務ヲ代理シ一定ノ報酬ヲ受ケ又ハ日本銀行ノ代理トシテ國債事務等ヲ處辨スルモノハ代理業者トシテ課稅セス(明四五、三、一三、主稅局ヨリ丸龜局ニ回答)

十四 信託業

○營業稅雜種稅科目業名及標準區別拔萃 (明治三十年十二月二十一日縣訓令第五五號)
他人ノ信託ニヨリ自己ノ名ヲ以テ他人ノ財産ヲ管理處分スルヲ業トスルモノヲ謂フ

○國稅ノ例

(信託業ト財産權ノ關係)
信託業ハ他人ノ委託ニ依リ自己ノ名ヲ以テ他人ノ財産ヲ管理處分スルモノニシテ財産權ハ名義上受託者ニ歸スルモ管理處分ヨリ受クル利益ハ自ラ之ヲ享有スルヲ得(明四四、一、一六六藏省廳決定)
(手形ノ代理取立及貸付ト信託業)
普通銀行カ手形ノ代理取立、代理貸付ヲ爲スカ如キハ信託業ニアラス(明四四、一、一六六主稅局ヨリ東京局ニ回答)

十五 藝妓置屋

○營業稅雜種稅科目業名及標準區別拔萃 (明治三十年十二月二十八日縣訓令第五五號)
藝妓置屋
藝妓酌婦共稼業ノ者ヲ寄寓セシムル者ヲ謂フ養女等ノ名義ニテ同居セシムル者モ亦同シ但貸座敷業ニ

シテ内藝妓ヲ置ク者ハ此限リニ在ラス

○藝妓置屋稅徵收方ノ件 (明治三十一年九月十五日地第三三三八號)
客月十日付第一九九二號ヲ御伺出ノ藝妓置屋稅徵收方ノ件ハ御見込ノ通り抱ヘタル其翌月ヨリ徵收スヘキモノト存候別ニ指令ニ及ハレス依命此段及通牒候也

○置屋稅賦課手續 (大正元年九月十一日訓令乙) (第九號郡市役所へ訓令)

藝妓置屋ノ許可ヲ受ケサルモノハ納稅義務(酌婦置屋共)藝妓(酌婦共)代書狩獵ニ對スル縣稅ハ警察署分署ノ許可又ハ異動通知並ニ縣稅檢査吏員ノ通知ニ基キ賦課ノ手續ヲ爲スヘシ

○置屋稅及藝妓稅課稅ノ件 (大正二年一月十五日第一三〇二號) (內務部長ヨリ各郡長へ通牒)

藝妓置屋稅及藝妓稅ノ課稅ニ關シテハ大正元年九月十一日訓令乙第九號ニ依リ所轄警察官署ノ通知ニヨリ取扱フモノニ有之候處藝妓ノ休業、就業、營業停止又ハ取消ノ通知ヲ受ケタル場合ハ總テ廢業又開業ノモノト同様ノ課稅ノ取扱ヲ爲スヘキ義ニ候條御承知相成度此段及通牒候也

工業
一 製造業

○營業稅雜種稅科目業名及標準區別拔萃 (明治三十年十二月二十八日縣訓令第五五號)

製造業

一定ノ製造場ヲ設クルト否トニ拘ラス注文ヲ請ケテ物品ヲ製造シ又ハ物品製造ノ一部ヲ助成スル者及製造ヲ助成シタル物品ヲ専ラ卸賣スル者ヲ謂フ其製造場ニアラサル場所ニ於テ専ラ小賣ヲ爲ス者ハ製造業トセス瓦斯電氣ノ供給ヲ爲ス者及器物器械ノ修理ヲ爲シ又ハ穀物ヲ精白、搗碎シ又ハ染物洗濯ヲ爲スモノハ製造業ト見做ス單ニ出稼ノミヲ爲ス者ハ製造業トセス

○縣稅賦課取扱方ノ件

(明治三十年五月十九日地第一六八二號) (以テ内務部長ヨリ各郡市長ヘ通牒)

稅務主任書記協議會ヲ開キ候際主任ヨリ及御答候事項別紙ノ通り應議決定候條右ニ依リ御取扱相成度此段及通牒候也

記

一、鍋釜類ノ鑄掛、靴屋、煙管替、足駄ノ齒入、簷屋ノ類ニシテ一定ノ製造場ヲ設ケヌ材料道具ヲ携帶シ途上依頼者ノ需ニ應シ修理ヲ以テ業トスルモノハ賦課規則【第九條】ノ所謂器具器械ヲ修繕云々ニ該當スルヲ以テ製造業稅ヲ賦課スル事

七、炭燒、吳座織業等ハ他ヨリ原料ヲ買入レ供用スルト否トニ拘ハラス人工ヲ加ヘ物質ヲ變換シテ販賣スルヲ業トスルモノニハ製造業稅ノ賦課スル事

鍛冶職ハ店舗ヲ設ケヌ製作ヲ專業トスルモノニ限り製造業稅ヲ賦課シ店舗ノ設ケアルモノハ物品販賣業稅ヲ賦課スルコト

○度量衡ノ販賣製作ニ對シ縣稅ヲ課スル件

(明治三十一年十月縣甲第九六號) (主稅局長、地方局長通牒)

營業法第十一條ニ掲クル營業ニ對シテハ府縣稅營業稅ヲ賦課スルヲ得サルノ例ニ有之候處右ノ内度量衡ノ販賣製作ニ對シテハ府縣稅ヲ賦課シ得ルコトニ今般決定相成候條右ニ御了知有之度此段及通牒候也

○蠶種製造販賣業者ニ對シ縣稅營業稅ヲ賦課セサル件

(大正二年五月一第三一〇五號) (内務部長ヨリ各郡市長ヘ通牒)

蠶種製造販賣業者ニ對シ縣稅營業稅ヲ課稅セサルコトニ取扱フヘキ旨内務省地方局長ヨリ通牒有之候條將來右ノ趣旨ニ依リ御取扱相成度依命此段及通牒候也

○製炭業者ニ課稅ノ件

(大正三年三月十三日) (内務部長ヨリ各郡市長通牒)

薪炭ノ製造又ハ販賣業者ニシテ縣稅ヲ課セラレサルモノ往々有之他ノ商工業者ニ比シ課稅ノ權衡ヲ失シ縣稅徵收上甚々遺憾ノ次第ニ候條此際同業ヲ營ムモノヲ調査シ其業体ニ應シ製造業又ハ物品販賣業トシテ相當課稅ヲ行ハシメ候様特ニ御注意相成度此段及通牒候也

○營業場ニ關スル件

(大正七年八月十日直第三四五號ヲ以テ) (仙臺稅務監督局ヨリ宮城縣ニ回答)

客月二十六日地第四三八二號ヲ以テ御依頼相成候製糸業者ニシテ本店所在ノ府縣以外ノ府縣ニ建物ヲ建築シ乾燥場ヲ設ケ季節ノミ出張シ購買入ヲ爲スモノ、如キハ營業稅法ノ營業場ト認ムヘキモノニ無之モ右建物ハ固定資本及建物貸賃價格トシテ計算スヘキ義ト被存候
右及回答候也

○實例

(支店出張所ノ存在ト營業稅ノ賦課)

甲府縣ニ本店ヲ有シテ乙府縣ニ支店又ハ出張所ヲ有スル營業會社ニシテ支店又ハ出張所ニテハ單ニ本店製造品ノ販賣取次ヲ爲シ本店ノ計算ニ於テ販賣行爲ヲ爲スモ支店出張所ノ存在スル以上ハ管内ニ營業所ヲ有スルモノトシ府縣制第百八條ニ依リ甲府縣ト協議ノ上相當課稅スルヲ得ルモノトス

○判例

(營業稅附加稅賦課)

鐵道株式會社カ營業用ノ車輛ヲ製作シ又ハ之ヲ修繕スルハ其ノ營業ノ準備ヲ爲スニ過キサレハ該製作所ハ會社ノ營業場ニアラス(三八、四二〇、判決)

(鐵道會社ノ車軸製作所ト營業所)

鐵道會社ニシテ旅客及貨物ヲ運搬シ利益ヲ收ムルコトヲ目的ト爲スモノカ製作所ヲ設ケ營業用ノ車軸ヲ製作シ又ハ修繕スルハ其ノ營業準備ヲ爲スニ過キサレハ製作場ハ會社ノ營業場ニ非ス(明治三八、四二一、判決)(營業ノ繼承)

製糸營業上從來使用セシ商號ヲ使用シ前營業者ノ未拂金ヲ支拂ヒタル事實等ヨリ觀レハ前營業者ノ營業ヲ繼續シタルモノト認ムルニ充分ナリトス(明治四一、六、判決)

(營業稅法第二十一條ノ法意)

營業稅法第二十一條ハ國稅營業稅ヲ徵收セサルニ止マリ其ノ不徵收期間内ニ於テ其ノ營業者ノ營業ニ對シ地方稅ヲ賦課スルコトヲ爲シタル旨趣ニ非ス(大三、六、三〇判決)

(物品ノ製造販賣業ヲ常トスル者)

物品ヲ製造販賣スルヲ業トスルモノヲ以テ必スシモ製造業(精白業)又ハ販賣業(白米)ノ何レカ一ヲ營ムモノト爲スヘキニアラス製造業ト販賣業トヲ併セ營ムモノト認ムヘキ場合アリ(六年十月判決)

○國稅ノ例

(酒道家ノ他酒買入ト課稅)

酒道家ニシテ事實上製造ノ原料ト爲スニアラスシテ他ヨリ酒ヲ買入レ販賣スル者ハ製造兼物品販賣業トシテ課稅ス(明治二九、八、大藏省議決定)

(印刷屋、足袋屋等ノ課稅種目)

印刷屋足袋屋類ニシテ一定ノ製造場ヲ設ケス店頭ニテ製造スルモノハ職工ヲ使用スルト否トヲ問ハス物品販賣業トシテ課稅ス(明治二九、九、九、主稅局ヨリ三重縣ニ應答)

(賣藥製造業者ト營業稅等)

賣藥製造業者ハ營業稅法ノ範圍外ナリ(明治二九、九、主稅局ヨリ佐賀縣ニ回答)

(製造場外ノ卸賣ト課稅)

製造場ニ於テ販賣セス別ニ店舗ヲ設ケテ卸賣ヲ爲スモノモ製造業ノ範圍内ナリ (二九、一〇、主税局ヨリ福岡縣ニ回答)

(製造場外ノ小賣ト課税)

一定ノ製造場ヲ設ケタル製造業者別個ノ店頭其ノ他ノ營業場ニ於テ製造品ノ卸賣又小賣ヲ爲ストキハ小賣ノミ物品販賣業トシテ課税ス (二九、一〇、一〇、大藏省主税局ヨリ福岡縣ニ回答)

(杜氏ト勞役者ノ區別)

酒造業ノ杜氏ハ從業者トシテ其ノ他ハ勞役者トス (明二、九、一〇、主税局ヨリ福岡縣ニ回答)

(自園製茶販賣ト課税)

茶園ヲ所有シ一定ノ製造場ナク茶葉ヲ摘採シ工鏡ヲ支拂ヒ茶ヲ製造セシメテ販賣スル者一定ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ有スルトキハ物品販賣業トシテ課税ス (明二九、一二、一八、主税局ヨリ農務局ニ回答)

(製造業ノ場外作業ト課税)

煙草製造業ノ一部ヲ擔當スル場外作業ニハ課税セス (明三八、四、主税局通牒)

(買鑛製鍊ト課税)

鑛業權者カ自己ノ採鑛ニ關スル鑛業ノタメ他ノ採鑛ヲ買入附隨事業トシテ製鍊スルモノハ製造業ニ非ス反之他ノ採鑛ヲ買入レ之ヲ製鍊スル行爲ニシテ自己ノ鑛業ト關係ナク全ク別個ノ業務ナルトキハ製造業ノ範圍内トス (明四〇、四、大藏省議決定)

(鑛業法第八十二條ノ解釋) (明四〇、四、二一、第六八三號大藏省決定)

鑛業法第八十二條ハ「鑛業權者ニハ其ノ鑛業ニ付營業稅ヲ課セス」ト規定セリ而シテ鑛物ノ製鍊ハ亦製造行爲ナルヲ以テ鑛業權者ニアラサル者ハ他ヨリ鑛物ヲ買入レ之ヲ製鍊スルヲ業トスルトキハ製造業トシテ營業稅ヲ課セラルヘキハ明カナリトス

然ラハ鑛業權者カ他ヨリ買入レタル鑛物ヲ製鍊スルトキハ如何此ノ問題ニ付テハ左ノ諸說アリ

(甲說、乙說ハ略ス)

丙說、鑛業法第一條ニ所謂「附屬スル事業」トハ重ニ鑛業權者カ自己ノ採鑛ヲ選鑛又ハ製鍊スルカ如キコトヲ指シタルモノナルヘシト雖モ鑛業權者カ自己ノ採鑛ニ關スル鑛業ノ爲メニ他人ノ採鑛ヲ製鍊スル場合モ又之レアルヘク換言スレハ他人ノ採鑛ヲ製鍊スルハ自己ノ採鑛ニ關スル鑛業ノ爲ニシテ附隨ノ行爲ナル場合ニ於テハ其ノ製鍊ハ鑛業權者ノ鑛業ナルヲ以テ鑛產稅ヲ課セラルヘキモ營業稅ヲ課スヘキモノニアラス之ニ反シテ他人ノ採鑛ヲ買入レ之ヲ製鍊スル行爲ニシテ自己ノ採鑛ニ關スル鑛業ト附隨ノ關係ナク全ク別個ノ業務ト認メ得ヘキ場合ハ其製鍊ヲ以テ鑛業法第一條ノ附屬事業ト謂フコトヲ得ス隨テ鑛業權者ノ鑛業ニアラサルヲ以テ鑛產稅ヲ課セス營業稅ヲ課スヘキハ勿論ナリトス

(電氣業者ノ買入供給ト課税)

電氣ノ供給ヲ爲ス會社ニシテ製造力不足ノ爲他ヨリ買入レ需用者ニ送電スルモ製造業ノ範圍内ニ於テ爲

シ得ヘキ行爲ナリ(明四四、二、主税局ヨリ廣島縣回答)

(請負業ノ性質ヲ有スル業体ト課稅方)

請負業ノ性質ヲ有スルモノニシテ稅法上ノ製造業其ノ他ノ業体ニ該當スルモノハ其ノ業体ニ依リ他ハ請負業トス(明四四、七主税局通牒)

(蠶種製造業者ト課稅)

自ラ養蠶ヲ爲シ、蠶種ヲ製造シテ販賣スル者ニ對シテハ卸賣ト小賣トヲ問ハヌ又店舗ノ有無ニ不拘課稅セス(大正二、二、二七、主税局通牒)

二	印刷業
三	寫真業
四	職工

○營業稅雜種稅科目業名及標準區別拔萃

(明治三十年十二月二十八日)
(縣訓令第五五號)

職工

製造場又ハ店舗等ノ設ケナク他人ノ製造其他ノ場所ニ出稼ヲ爲シ工錢賃錢ヲ受クル者ヲ謂フ些少ノ原料ヲ供スル者(鑄掛、輪替、傘繕ヒ直シ等)モ亦同シ

○蹄鐵工ニ對シ縣稅工業稅ヲ賦課シ得サルノ件

(明治三八年三月地第一九二九號)
(內務部長ヨリ各郡市長ヘ通牒)

蹄鐵工ニ對シ縣稅ヲ賦課シ得ルヤ否ヤノ件問合ノ向モ有之候處右蹄鐵行爲(蹄鐵工免許規則第一條第二項)ニ對シテハ縣稅工業稅ヲ賦課スルヲ得サルコトニ決定相成候條御承知相成度依命此段及通牒候也

○縣稅賦課取扱方ノ件

(明治三十年五月十九日地第一六八二號)
(ヲ以テ內務部長ヨリ各郡市長ヘ通牒)

稅務主任書記協議會ヲ開キ候際主任ヨリ及御答候事項別紙ノ通り應議決定候條右ニ依リ御取扱相成度此段及通牒候也

記

一、鍋釜類ノ鑄掛、靴屋、煙管替、足駄ノ齒入、箆屋ノ類ニシテ一定ノ製造場ヲ設ケス材料道具ヲ携帯シ途上依頼者ノ需ニ應シ修理ヲ以テ業トスルモノハ賦課規則【第九條】ノ所謂器具器械ヲ修繕云々ニ該當スルヲ以テ製造業稅ヲ賦課スル事

七、炭燒、莫産織業等ハ他ヨリ原料ヲ買入レ供用スルト否トニ拘ハラヌ人工ヲ加ヘ物質ヲ變換シテ販賣スルヲ業トスルモノニハ製造業稅ヲ賦課スル事

八、鍛冶職ハ店舗ヲ設ケス製作ヲ專業トスルモノニ限リ製造業稅ヲ賦課シ店舗ノ設ケアルモノハ物品販賣業稅ヲ賦課スルコト

○煙草製造職工ニ課稅ノ件

(明治三十九年七月十六日熊地第九號ノ內地方局長ヨリ知事ニ通知)
(同三十九年七月廿三日地第二五八三號本縣各郡市長ヘ通牒)

別紙熊本縣照會ニ對シ左ノ通り回答相成候條爲參考此段及通牒候也

庶第四〇四七號御照會ニ係ル官營煙草製造所ニ備ハル、職工ニ對シテ縣稅賦課ノ件ハ御見込ノ通りニ有之候條此段及回答候也

(別紙)庶第四〇七四號

煙草製造所ニ於テ煙草刻ミ其他製造作業上諸般業務ニ從事セシメラル、モノハ一ノ傭人ニシテ職工ノ名稱ヲ附シ之ヲ使役セラル、義ニ有之候處本縣ニ於テハ縣稅賦課目中ニ職工ノ課目ヲ設ケ從前民業ノ際ニ在リテハ前記ノ如キ業務ニ從事スルモノニ賦課致來候處目下官營トシテ之ヲ經營セラル、ト雖モ其職工ノ業休ニ至リテハ何等異ナル處ナク只民業ニ備ハル、ト官業ノ備ニ應スルトノ差アルノミニ有之候ニ付依然縣稅ヲ賦課スルモ差支無之候哉爲念此段及照會候也

○鑛業ニ従事者區分ノ件

(大正二年五月二十六日内務部長ヨリ栗原郡長ニ回答)

鑛山ニ於ケル鑛業用建物及工作物ノ作業ニ從事スル大工鍛冶等ノ職工ニ對シ縣稅工業稅ヲ賦課スル件ニ關シ栗財第二六號御照會相成候處右ハ鑛業法第八條ニ依ル鑛夫ナルト否トニ拘ハラズ一定ノ賃錢ヲ收得シテ勞役ニ従事スル職工ハ總テ工業稅ヲ賦課スヘキ儀ニ候條御承知相成度此段及回答候也
追テ鑛業法第八十一條第二項ノ規定ハ鑛夫鑛產物等ヲ標準トシテ鑛業權者ニ課稅スルヲ得サル旨趣ト存候條御承知相成度候也

○實例

(府縣稅ノ賦課)

府縣稅賦課課目中ニ職工ノ課目ヲ設ケ民業ニ備ハルルモノハ勿論營業ニ備ハルルモノハ例ヘハ官營煙草製造所ニ備ハルル職工ノ如キモノニ對シテ府縣稅ヲ賦課スルコトヲ得ルモノトス

(府縣稅ノ賦課)

鐵道國有ノ結果其製作工場ニ使役セラルル木工、鍛冶、其他ノ職工ニ對シテモ從前私設鐵道會社雇入當時ト同シク府縣稅營業稅ヲ賦課スルヲ得ルモノトス

(府縣ノ職工稅)

府縣ニ於テハ一定ノ賃錢ヲ得テ他人ノ工業ニ從事スル職工ニ對シ府縣稅、職工稅ヲ課スルモ妨ケナク職工稅ハ自己ノ計算ニ依リ工事ニ從事スル者タルト一定ノ賃錢ヲ得テ他人ノ工業ニ從事スルモノタルトヲ問ハズ職工タル以上ハ之レニ對シ職工稅ヲ課スルコトヲ得

(職工稅ト一定ノ給料ヲ得テ鐵道ニ從事スル者)

職工ニ對シ法律上職工稅ヲ課スルハ差支無キモノナレハ一定ノ給料ヲ得テ官設鐵道ノ作業ニ從事スル職工ニ對シテモ亦職工稅ヲ課シ差支ナキモノトス

○參考

(鑛夫ノ意義)

鑛夫トハ鑛業ニ従事スル勞役者ヲ謂フ故ニ鑛夫タルモノハ

一、鑛業ニ従事スル者タルコトヲ要ス
 鑛業トハ試掘採掘及ビ之ニ附屬スル事業ヲ云フカ故ニ坑内ニ於テ鑛物ヲ掘採スル者モ工場ニ於テ選鑛製鍊ニ従事スル者モ皆鑛夫ニシテ其範圍汎ナリト云フヘシ
 爲レトモ鑛業ニ従事セサルモノハ鑛夫ニアラス例ヘハ鑛業用工作物ノ建築ニ従事スル大工左官ノ如キ又ハ鑛業用ノ炭焼人足、製鍊鑛物、運搬夫其他雜役ニ従事スル勞働者ノ如キハ鑛夫ニアラス
 要スルニ鑛物ヲ掘採シテ經濟上ノ貨物ト爲ス業務ニ直接ニ従事スル勞役者ノミヲ鑛夫ト稱スルナリ
 二、勞役者タルコトヲ要ス

勞役者トハ體力活動ヲ本務トスル勞働者ヲ指シ智力活動ヲ中心トスル勞務者ヲ包含セス故ニ技師、設計者、製圖者ノ如キ専ラ學術應用ニ従事スル者ハ鑛夫ニアラス
 但シ實際技術者ト雖モ本務ノ外ニ鑛業權者トノ雇庸契約ニ依リ鑛夫名簿ニ記入セラレタル者ハ鑛夫トシテ法律上ノ取扱ヲ受クルモノトス
 普通觀念ヨリ云フトキハ鑛夫ナルモノハ坑内ニアリテ鑛物ノ掘採ニ従事スル者ノミヲ指スニ似タリ

○國稅ノ例

(杜氏ト從業者)

酒造業ノ杜氏ハ從業者トシテ其ノ他ハ勞役者トス(明二九・一〇、主稅局ヨリ福岡縣ニ回答)

(請負業外ノ職工種別)

大工、左官、石工、手傳人、等他人ニ雇ハレ日當ヲ受クル者ハ請負業ノ範圍外ナリ(明二九・五、主稅局ヨリ奈良縣ニ回答)

(大工左官業ハ請負業トナル場合)

大工、左官、仕事師ノ類ニシテ弟子ヲ抱ヘ置キ人ノ依頼ヲ受ケ豫メ一定ノ額ヲ定メ工事ヲ請負フ者ハ請負業トス(明二九・九、主稅局ヨリ茨城縣ニ通牒)

(製板行爲ト請負業)

製板行爲ヲ請負フ者ハ請負業ナリ(明四四・一、主稅局通牒)

(賃機業ト請負業)

織物賃機業ハ請負業トシテ課稅ス(明四四・七、主稅局通牒)

(請負業トナルベキ業体)

左記ノ業ハ請負業トシテ課稅ス(入正三・六、主稅局通牒)

起毛、晒、洗張、上繪、下繪、織物整理、陶器ノ繪付、和洋裁縫、製本

第十三條 雜種稅ハ左ニ掲クル營業又ハ行爲ヲ爲シ場所ヲ設ケ若クハ物件ヲ所有スルモノニ賦課ス

一 料理店業
二 飲食店業

○營業稅雜種稅科目業名及標準區別拔萃

(明治三十年十二月二十八日)
(縣訓令第五五號)

料理店業

客席ヲ設ケテ料理シタル飲食物ヲ販賣スル者ヲ謂フ料理ノ仕出ノミヲ爲ス者モ亦同シ
汁粉屋、蕎麥屋、醃屋、氷屋ハ客席ノ設ケアルモ料理店業トセス
飲食店業

客席ヲ設ケスシテ料理シタル飲食物ヲ販賣スル者及汁粉屋、蕎麥屋、氷屋等ヲ謂フ煎茶店抹茶店コーヒ店モ亦同シ

飲食物ノ行商ノミヲ爲ス者ハ飲食店業トセス

○縣稅賦課取扱方ノ件

(明治三十年五月十九日地第一六八二號)
(ヲ以テ內務部長ヨリ各郡市長ヘ通牒)

稅務主任書記協議會ヲ開キ候際主任ヨリ及御答候事項別紙ノ通り廳議決定候條右ニ依リ御取扱相成度此段及通牒候也

六、貸座敷又ハ料理店、飲食店內ノ女中ニシテ一時客ノ遊興ヲ助クルモ藝妓ノ質ナキモノニハ藝妓稅ヲ課稅セサルコト

○縣稅賦課取扱ノ件

(明治三十八年二月八日內一地第七一九號)
(內務部長ヨリ各郡市長ヘ通牒)

主任郡市書記會同ノ際協定未済ノ事項左記ノ通御取扱相成度經伺ノ上此段及通牒候也

一、縣稅未納ノ儘(納稅管理人ヲ置キタルモノハ除ク)他郡市町村ニ轉シタルモノ稅金ハ督促狀發布前ノモノハ轉入地ニ於テ其發布後ニ係ルモノハ轉出地ニ於テ徵收スルコトニ御取扱相成度
一、料理店業者ニシテ從來飲食店ノ届出ヲ爲シ來リタルモノ料理店業ナルコトヲ發見シタル場合ニ於テハ其發見ノ期ヨリ若シ其期ノ稅額納入後ナルトキハ次期ヨリ料理店業稅ヲ賦課スルコトニ御取扱相成度但營業者通稅ノ目的ニ出テタルモノト認メタルトキハ此限ニアラス

○連稅脫稅ノ取締ニ關スル件拔萃

(明治三十八年四月十一日內一地第二四五八號)
(內務部長ヨリ各郡市長ヘ通牒)

縣稅營業稅雜種稅ノ連稅脫稅取締ニ關シテハ縣稅檢査ノ結果ニ依リ其都度及通牒尙稅務主任會同ノ際主務課ヨリモ協議置候次第モ有之候ニ付課稅ニ關シテハ夫々御注意相成居候事ト被存候處尙一般連稅者ヲ生セシメサルハ勿論左ノ各項ニ關シテハ一層御注意相成様致度爲念此段及通牒候也
五、從來料理店又ハ飲食店ニ於テ酌婦又ハ藝妓ニ均シキ行爲ヲ爲スモノニシテ遊藝稼人ノ鑑札ヲ受ケ居ルモノ有之候處右等ハ遊藝稼人ニアラサルヲ以テ相當鑑札ヲ受ケシムルコト

○料理店業飲食店業ノ女雇人ノ異動通知方ノ件

(明治三十六年七月八日)
(內務部長ヨリ各郡市長ヘ通牒)

今般縣令第三十四號ヲ以テ料理屋待合茶屋飲食店貸席取締規則改正相成候ニ付保第四三八四號ニテ警察部ヨリ別紙ノ通各警察署長ヘ通牒相成候ニ付爲念此段及通牒候也

別紙 (明治三十六年七月七日 保安課長ヨリ各警察署長へ通牒)

今般料理屋待合茶屋貸席飲食店取締規則第十一條改正相成候ニ付テハ明治三十三年三月訓令第九號ノ料理店業飲食店業ノ女雇人ノ異動(明治三十四年六月訓令第三十二號ヲ以テ追加ノ分)ノ一項ハ酌婦ノミ通報ヲ要スル義ニ有之尙炊婦等ト届出ルニ拘ラヌ實際客席ニ侍ラシムルモノアルヤモ難計ニ付御注意ノ上果シテ酌婦ノ事實アルモノニ對シテハ明治三十一年三月縣令第七號營業稅雜種稅納稅義務者届出規則第二條ニ依リ鑑札ヲ受ケシムル等相當御取締相成度依命此段及通牒候也

追テ現在雇女ニ對シテハ此際更ニ雇入ノ目的ヲ届出シメ酌婦ニ限り所轄郡市長ニ通報相成度申添候也

料理店及旅人宿兼業ノ者ニシテ國稅營業稅ヲ納ムル者ニ對スル

縣稅賦課ニ關スル件 (明治三十八年四月地第二七八七號 內務部長ヨリ各郡市長へ通牒)

國稅營業稅ヲ納ムル料理店業又ハ旅人宿業ニシテ互ニ相兼ヌル場合ニ於テ其ノ一方ノ營業國稅ノ納稅義務ヲ有スル事項ニ當ラサルトキハ縣稅ヲ賦課スルヲ得ルハ勿論ノ義ニ候得共事實ニ於テハ右ニ該當スルモノ殆ント稀ナルヘク而シテ各稅務署ニ於テハ營業稅法第十四條ニ該當スルモノハ多クハ兼業ノ届出ナキモ其ノ重ナルモノニ付キ課稅シ居ル趣ニ付キ右兼業ノモノニシテ國稅營業稅ヲ納メ居ル者ニ向テハ假令稅務署ニ兼業ノ申告ヲ爲サ、ルモ其ノ國稅ノ納稅事項ニ該當セサル事實明確ナルモノニアラサレハ縣稅ヲ賦課スルヲ得サル義ト御承知相成度此段及通牒候也

飲食店稅ノ賦課ニ關スル件 (大正六年九月各郡市財務主任書記官ニ於テ指示)

縣稅ヲ賦課スヘキ料理店ト飲食店業ノ區分ハ營業稅雜種稅科目業名及標準區別ニ依リ明示スル所ナルモ往々其ノ區分ヲ誤リ客席ノ設ケアルニ拘ハラヌ飲食店業トシテ届出ヲ受理シ之ニ對スル課稅ヲ爲ス向アルヲ以テ今後ハ時々實地調査ヲ爲サシメ賦課上誤謬ナキヲ期セラルヘク又物品販賣業ヲ營ムノ傍ラ夏期水店業ヲ開始スルモノニ對シテハ其ノ都度飲食店業稅ヲ賦課スヘキ筋ナルニ是等ノ營業者ニハ届出洩多キカ如シ此際精細ナル調査ヲ遂ケ賦課洩ナキヲ期セラルヘシ

○國稅ノ例

(料理ノ仕出ト課稅)

料理ノ仕出ノミヲ專業トスル者ハ物品販賣業トシテ課稅ス(明二八、九、一八大藏省主稅局ヨリ縣稅局ニ回答)

註記

本件ニ該當ノモノハ本縣ニ於テハ料理店業稅ヲ課稅スルモノトス

(從業者ノ區分)

宿屋、料理屋等ニ於テハ炊事ノミヲ掌ル下婢モ從業者トス(明二九、九、主稅局ヨリ京都府ニ通牒)

(飲食物ノ販賣ト課稅)

客室ヲ設ケ飲食物ヲ販賣スル者其ノ條件ニ違セサルカ爲必シキ更ニ之ヲ物品販賣業ト見做サス(明二九、八、大藏省決議)

(廢業ノ意義)

季節向營業ニシテ他季節中休業スルモ事實廢業ト認ム可カラサルモノハ廢業トシテ取扱フモノニアラス
(明二九、八、大藏省議決定)

(飲食物ノ陳列ト課税)

蕎麥、饅頭、或ハ餅團子ノ類ヲ店頭ニ陳列販賣スルノ外客室ヲ設ケ之ヲ喫食セシムルモノ、如キハ客室
ヲ設ケテ販賣スルヲ主ト爲スモノハ料理店業トシ店頭ニ陳列販賣ヲ主ト爲スモノハ物品販賣業トシテ課
税ス(明二九、一〇、八、主税局ヨリ福井縣ニ回答)

(天然氷營業ト課税)

天然氷營業者ハ物品販賣業トシテ課税ス(明二九、二、一八、主税局ヨリ北海道ニ回答)

(貸座業者物品販賣ト課税)

貸座業者カ普通ノ集會ニモ客室ヲ供シ又ハ飲食物ヲ販賣スルトキハ席貸業又ハ販賣業トシテ課税スルモ
其貸座敷業ニ附随セル業務ヲ營ムコトアルモ席貸業又ハ料理業トシテ課税セス(明三〇、四、主税局通牒)

(廢業ノ意義及日時)

廢業ハ其ノ業務ヲ全ク廢止シタルトキヲ以テ之ヲ認ムルハ勿論ナルモ該事實ヲ確認シ能ハサルトキハ届
書收受ノ日ヲ以テ處理ス(明三〇、一〇、主税局ヨリ東京局ニ回答)

三 席 貸 業

○營業稅雜種稅科目業名及標準區別拔萃

(明治三十年十二月二十八日)
(縣訓令第五五號)

席 貸 業

待合茶屋、芝居茶屋、其他客室又ハ集會場ヲ貸シテ貸料其他ノ報酬ヲ受クル者ヲ謂フ

○貸座敷ナル業体ハ營業稅法ノ席貸業若クハ料理店業ト

云フヲ得サル件 (明治卅年五月十七日第一六六二號)
(内務部長ヨリ郡市長ヘ通牒)

貸座敷賦金ノ件ニ關シ別紙之通其筋ヨリ通牒有之候條御參考マテ此段及御通牒候也

(別 紙)

内務省縣治局長通牒

(明治三十年五月七日)
(岡甲第三七號ノ内)

貸座敷賦金ノ件ニ付左記ノ通岡山縣伺ニ對シ大藏省協議ノ上通牒候條爲御心得此段及通牒候也

岡山縣伺

明治三十年四月十四日

營業稅法ノ席貸業ナルモノハ客室又ハ集會場ヲ貸シ其借主則チ客ヨリ貸料其他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受クル
モノ、謂ニ可有之從來當縣内ノ貸座敷ハ客ヨリ受クル所ノモノハ娼妓揚代金ノミ而シテ其揚代金ノ内若干
ヲ娼妓ヨリ得テ之ヲ利益トス此他ニ於テ貸料等ノ意味ヲ以テ客ヨリ受クル所ノモノ無之概況ニシテ乃チ席
貸業ナル業体トモ難認尙又從來ノ貸座敷賦金ハ明治二十一年閣令第十二號ニ依リ知事ニ於テ適宜ニ賦課シ

地方稅雜收入ニ編入スヘキモノニシテ地方稅規則ニ於テ定メラル、稅目以外ニ屬シ租稅ト稱スヘキモノニ無之候故明治三十年度ニ於テモ從前ノ通賦金ヲ課スルノ積ヲ以テ同年度地方稅歲入豫算成立致居候次第然ルニ營業稅法ノ所謂席貸業ニ該當スルモノトシテ國稅ヲ課セラル、趣ニ候處右ハ假令國稅ヲ課セラル、モ賦金ヲ課スルニ於テ營業稅法第三十六條ニ牴觸ハ不致義トハ存候得共聊カ疑義ニ涉リ候條折返シ電報ヲ以テ何分御指示相成候様致度此段相伺候也

縣治主稅兩局長回答 明治三十年五月一日 (電報)

客月十四日伺貨座敷業ハ營業稅法ノ範圍外ト存ス依命通牒ス

縣治主稅兩局長通牒 明治三十年五月一日

客月十四日議甲第四號ヲ以テ貨座敷賦金ノ義ニ付伺出ニ對シ電報ヲ以テ及通牒候處元來貨座敷ナルモノ、業体ハ客ノ需ニ應シ娼妓ヲ供スルヲ目的トスルモノナレハ娼妓カ客ヨリ受ケタル揚代金ノ幾分ヲ該業者ニ於テ收得スルモ營業稅法ノ貨座敷業ニアラサルハ勿論貨座敷業ニシテ娼妓ヲ供スル爲メ席料ヲ客ヨリ收得シ又ハ娼妓ヲ供スル場合客ノ需ニ應シ飲食物ヲ供スルコトアルモ其行爲ハ主タル目的ニ附屬シタルモノナルニ依リ營業稅法ノ貨座敷業若クハ料理店業ト云フヲ得スト存候ニ付爲念此段及通牒候也
追伸普通集會等ノ爲メ客室ヲ貸シ飲食物ヲ供スル等別種ノ業務ヲ營ムハ本文ノ限りニ無之儀ト御承知相成度此段申添候也

○判例

(席貸業ノ意義)

營業場ニ於テ飲食物ノ料理ヲ爲セシコトナク來客ノ需ニ應シ藝妓ヲ招キ或ハ飲食物ヲ他ヨリ取寄セテ遊興セシメ以テ席料ヲ得ルヲ主タル目的トセルモノハ營業稅法ニ所謂席貸業ヲ營ムモノト認ムルヲ相當トス(明四一、二、二〇、判決)

(劇場ト席貸業)

劇場ハ席貸業トシテ課稅スヘキモノニアラス(明二九、九、九、主稅局ヨリ京都府ニ回答)

(貨座敷業者ト席貸業)

貨座敷業者カ普通ノ集會ニモ客室ヲ供シ又ハ飲食物ヲ販賣スルトキハ席貸業又ハ販賣業トシテ課稅スルモ其貨座敷業ニ附隨セル業務ヲ營ムコトアルモ貨座敷業又ハ料理業トシテ課稅セス(明三〇、四、主稅局通牒)

(劇場等ト席貸業)

劇場業又ハ寄席業者カ劇場又ハ寄席ヲ其ノ目的ニ使用シ又ハ使用セシムル場合ハ課稅セサルモ目的外ニ集會場トシテ貸付報酬ヲ受クルモノニシテ營業ト認ムヘキ場合ハ席貸業トシテ課稅ス(明四四、七、一二主稅局ヨリ會計檢査院ニ回答)

四 湯 屋 業

○營業稅雜稅科目業名及標準區別表

(明治三十年十二月二十八日) 縣訓令第五五號

洗湯、白湯、藥湯、鹽湯、鑛泉等總テ入浴料ヲ受クル者ヲ謂フ蒸風呂モ亦同シ

○營業許可ノ際郡、市長ヘ通知方ノ件 (明治卅八年五月 部訓示第三十四號)

警察官署ノ許可ヲ受ケ若クハ届出ヲ要スル營業行為又ハ製造場等ノ設置ニシテ縣稅ノ賦課ニ關係アルモノハ其ノ許可又ハ届出ノ都度其ノ營業行為等ノ種別(場所共氏名許可届出ノ年月日並ニ廢業、轉居改、氏名其他異動アル事項)左記該當ノモノニアリテハ其附記ノ事項ヲ其所轄郡市長ヘ通知セラルヘシ

一、湯屋營業中溫泉 浴槽類
一、電力蒸汽力其他動力使用 (穀物精白、製粉製材、湯屋ニ限ル) 使用ノ目的

○湯屋稅課稅ニ關スル件 (明治四十年九月三十日地第八九七二號內 務部長ヨリ刈田郡長ニ回答)

湯屋業稅徵稅令書發付ニ關シ御問合セノ處右ハ開業届出アルト否トニ拘ラス小原村ニ對シ徵稅令書ヲ發シ若シ村長ニ於テ徵稅令書發付ノ手續ヲ肯セサル場合ハ職責上相當ノ處置相成可然ト存候此段及回答候也

五 理 髮 業

○縣稅賦課取扱方ノ件 (明治三十年五月十九日地第一六八二號 ヲ以テ內務部長ヨリ各郡市長ヘ通縣)

稅務主任書記協議會ヲ開キ候際主任ヨリ及御答候事項別紙ノ通り應議決定候條右ニ依リ御取扱相成度此段及通牒候也

十一、理髮人ハ雇主ト被雇人トヲ間ハス總テ【各別ニ八十錢】ツ、ヲ賦課シ助手ニ係ル分ハ雇主ニ賦課スル

コト

十二、理髮人中職工數入ヲ僱置キ僱主ノ就業セサルモノニ【八十錢】ノ理髮人稅ヲ賦課スル事但助手ニ使役スルトキハ一人毎ニ【二十錢ツ、ヲ】遞加稅ヲ賦課スル事

○實 例

(理髮人稅ト一定ノ給料ニヨリ理髮業ニ從事スル者)

府縣稅理髮人稅ハ自己ノ計算ニ依リ理髮業ヲ營ム者ニ對シ賦課スルコトヲ得ルノミニシテ一定ノ給料ヲ得テ其ノ業ニ從事スル者則チ雇ハレ人ニ對シテ賦課スルコトヲ得サルモノトス

六 代 書 業

○營業許可ノ際郡市長ヘ通知方ノ件 (明治卅八年五月 部訓示第三十四號)

警察官署ノ許可ヲ受ケ若クハ届出ヲ要スル營業行為又ハ製造場等ノ設置シテ縣稅ノ賦課ニ關係アルモノハ其ノ許可又ハ届出ノ都度其ノ營業行為等ノ種別(場所共氏名許可届出ノ年月日並ニ廢業轉居改氏名其他異動アル事項)左記該當ノモノニアリテハ其附記ノ事項ヲ其所轄郡市長ヘ通知セラルヘシ

一、代書(補助者共) 住所氏名代書所ノ位置(出張所共)
○代書業稅賦課手續 (大正元年九月十一日 郡府廳ヘ訓令)

藝妓置ノ許可ヲ受ケサレモノハ納稅義務(酌婦置屋共)藝妓(酌婦共)代書狩獵ニ對スル縣稅ハ警察署分署ノ許可又ハ異動通知書及縣稅檢査吏員ノ通知ニ基キ賦課ノ手續ヲ爲スヘシ

○代書業稅ノ賦課ニ關スル件 (大正六年九月各郡市財務主任書記會ニ於テ指示)

代書業稅ハ從業者數及收入見積額ニ依リ課目課額ノ定ムル所ニ依リ賦課スヘキモノナルモ其標準額ハ實際ニ適セサルモノ少ナカラス就中從業者ノ數ニ於テ差違多キヲ見ル今後課稅標準ノ申告アル場合ハ精密調査ヲ遂ケ遺漏ナキヲ期セラルヘシ

- 七 遊 藝 師 匠
- 八 遊 藝 稼 人
- 九 俳 優
- 十 相 撲 (行司共)

○他府縣ニ於テ納稅ヲ爲ス相撲、俳優、遊藝稼人等ニ對シテハ出稼地ノ府縣ニ於テ課稅セサルノ件 (明治三十五年地甲第一號) (內務省地方局長通牒)

相撲、俳優、遊藝稼人等一時他府縣へ出稼ノ際其ノ出稼他府縣ニ於ケル雜種稅賦課ノ義ニ就テハ去ル明治二十一年一月二十三日發第七號ヲ以テ及通牒置候處右本管ニ於テ納稅ヲ爲スニ拘ラス出先府縣ニ於テ課稅スルハ穩當ヲ欠クノ嫌有之候ニ付該通牒ノ通御取扱相成候様御配慮相成度候

○同上ノ件 (明治三十五年五月內五收第一五六八號) (內務部長ヨリ各郡市長へ通牒)

他府縣ニ於テ納稅スル相撲、俳優、遊藝稼人並狩獵者ニシテ一時本縣へ出稼又ハ出獵ノ者ニ對シテハ雜種稅ヲ賦課セサル様御取扱相成度及通牒候也

○遊藝稼人ノ課稅ノ件 (明治三十八年四月地第二三二八號) (內務部長ヨリ各郡市長ニ通市牒)

遊藝稼人ニシテ料理店又ハ飲食店ノ客席ニ陪シ演技スルノ件ニ關シ栗原郡長ノ照會ニ對シ別紙ノ通回答致候條御承知迄此段及通牒候也

(別紙)

明治三十八年四月內務部長回答

栗財第一一二號御照會ノ件ハ料理店飲食店ト住所ヲ異ニスル遊藝稼人ニシテ一定ノ場所又ハ路頭若クハ戸々ヲ廻ハリ歌舞音曲ヲ演シ報謝ヲ得ル者ノ類ニシテ偶々客ノ需ニ應シ酒席ニ陪シ自己特殊ノ演技ヲ爲スカ如キハ何等妨ケナキモ名ヲ遊藝稼人ニ籍リ實際藝妓酌婦ニ等シキ行動ヲ爲スハ警察上ノ取締ハ勿論課稅上ニ於テモ此等ハ藝妓又ハ酌婦ト認ムル義ニ候條克ク其ノ實際ノ狀態ヲ御精査ノ上御取扱相成度回答旁此段及通牒候也

○通稅脫稅ノ取締ニ關スル件拔萃 (明治三十八年四月十一日內一地第二四五八號) (內務部長ヨリ各郡市長へ通牒)

縣稅雜種稅ノ通稅脫稅取締ニ關シテハ縣稅檢査ノ結果ニ依リ其都度及通牒尙稅務主任會同ノ際主務課ヨリ及協議置候次第モ有之候ニ付三十八年度ノ課稅ニ關シテハ夫々御注意相成居候事ト被存候處尙一般通稅稅者ヲ生セシメサルハ勿論左ノ各項ニ關シテハ一層御注意相成様致度爲念此段及通牒候也

記

一、他府縣ヨリ行商者中、縣内ノ滞在三ヶ月以上ニ渉ルモノ、賣藥者以外ノモノニハ脱稅者多キ嫌ヒアルヲ以テ此等ノ者ヲ取調課稅スルコト

五、從來料理店又ハ飲食店ニ於テ酌婦又ハ藝妓ニ均シキ行爲ヲ爲スモノニシテ遊藝稼人ノ鑑札ヲ受ケ居ルモノ有之候處右等ハ遊藝稼人ニアラサルヲ以テ相當鑑札ヲ受ケシムルコト

○縣稅賦課ニ關シ取扱事項拔萃 (明治三十八年四月十三日内一地第二五五六號) (内務部長ヨリ各郡市長ヘ通牒)

新ニ縣稅ヲ賦課スヘキモノ及其稅率ヲ變更シタルモノニ關シテハ大要左ノ各項ニ依リ御取扱相成度尙尙尙調查ノ事項ハ個人ノ信用ニ關係ヲ有スルヲ以テ可及的秘密ニ取扱ハレ候様致度依命此段及通牒候也

七、藝妓

從來貸座敷ニ於テ遊藝稼人ノ鑑札ヲ受ケ營業ヲ爲シ居リタルモノハ總テ内藝妓ノ届出ヲ爲サシメ藝妓稅ヲ課稅スヘキモノトス

十一 藝妓 (酌婦共)

○營業稅雜種稅科目業名及標準區別拔萃 (明治三十年十二月二十八日縣訓令第五五號) (大正八年縣訓令第十六號改正)

藝妓

主トシテ歌舞、音曲ノ技藝ヲ演シ宴席ニ陪シ與ヲ助ケ酌取其他杯盤ノ周旋ヲ爲シ玉代ヲ請求スル者ヲ謂フ

一一一

一一三

自前藝妓トハ藝妓置屋ニ寄寓セス若クハ他ニ同居セヌシテ自ラ一戸ヲ構ヘ藝妓稼業ヲ營ム者ヲ謂フ
内藝妓トハ貸座敷内ニ於テノミ藝妓稼業ヲ營ム者ヲ謂フ

酌婦

藝妓ニアラス料理店飲食店ニ於テ酒席ニ陪シ酌取其他杯盤ノ周旋ヲ爲シ玉代ヲ請求セサル者ヲ謂フ

○營業許可ノ際郡市長ヘ通知方ノ件 (明治廿八年五月) (部訓示第三十四號)

警察官署ノ許可ヲ受ケ若クハ届出ヲ要スル營業行爲ニシテ製造場等ノ設置ニシテ縣稅ノ賦課ニ關係アルモノハ其ノ許可又ハ届出ノ都度其ノ營業行爲等ノ種別(場所共氏名許可届出ノ年月日並ニ廢業、轉居改氏名其他異動アル事項)左記該當ノモノニアリテハ其附記ノ事項ヲ其所轄郡市長ヘ通知セラルヘシ
一、藝妓(半玉ニアリテハ酌婦)生年月日及雇主抱主ノ住所氏名

○藝妓稅ノ賦課手續 (大正元年九月十一日罷市役) (所ヘ訓令第九號)

藝妓置屋(許可ヲ受ケサルモノハ納稅義務發生消滅ノ事實ニ依リ)酌婦置屋共(藝妓(酌婦共)代書狩獵ニ對スル縣稅ハ警察署分署ノ許可又ハ異動通知並ニ縣稅檢査吏員ノ通知ニ基キ賦課ノ手續ヲ爲スヘシ)

○藝妓置屋稅及藝妓稅ノ賦課ニ關スル件 (大正二年一月一第三〇二號) (内務部長ヨリ各郡市長ニ通牒)

藝妓置屋及藝妓稅ノ課稅ニ關シテハ大正元年九月十一日訓令乙第九號ニ依リ所轄警察署ノ通知ニ依リ取扱フモノニ有之候處藝妓ノ休業就業營業停止又ハ取消ノ通知ヲ受ケタル場合ハ總テ廢業又ハ開業ノモノト區

様ノ取扱ヲ爲スヘキ義ニ候條御承知相成度此段及通牒候也

○實例

(藝妓税賦課取扱方ノ件)

月ノ末日開業及月ノ初日ニ廢業セシモノハ各其ノ月ノ税額ヲ課セス

十一ノ一 備 人

○營業稅雜種稅科目業名及標準區別拔萃

(明治三十年十二月廿八日訓令第五五號)
(郡市役所、町村役場ニ訓令)
(大正八年四月訓令第十六號改正)

備 人

課目課額ニ於テ定メタル營業者ノ使用スル備人ニシテ國稅營業稅ノ課稅標準トナラサル者ヲ謂フ

十二	幫	間
十三	演	劇
十四	興	行

○營業稅雜種稅目中神佛祭典又ハ慈善ノ爲ニスルモノニハ

課稅セサル件 (明治二十五年九月十九日)
(內務大臣會訓第五九五號)

地方稅(府縣制ヲ施行シタル府縣ハ府縣稅)營業稅雜種稅中演劇其他ノ興行物及ヒ煙火馬廐ノ類ニシテ直接間接ヲ問ハス營利ノ目的ニ無之單ニ神佛祭典ノ爲メ又ハ慈善ノ爲メニスルモノハ明治二十六年度以降課稅セサル様取計フヘシ

○營業許可ノ際、郡市長ヘ通知方ノ件 (明治三十八年)
(郡訓示第三十四號)

警察官署ノ許可ヲ受ケ若クハ届出ヲ要スル營業行爲又ハ製造場等ノ設置ニシテ縣稅ノ賦課ニ關係アルモノハ其ノ許可又ハ届出ノ都度其ノ營業行爲等ノ種別(場所共氏名許可届出ノ年月日並ニ廢業、轉居改氏名其他異動アル事項左記該當ノモノニアリテハ其附記ノ事項)ヲ其所轄郡市長ヘ通知セララルヘシ
一、演劇、興行、遊覽所

營業ノ月日及日數木戸錢、棧敷代、敷物代、下足代、見料等ノ右最高一人分ノ額但大人小人ノ別アルモノハ其別共

○演劇興行稅ノ賦課ニ關スル件 (大正六年九月各郡市財務)
(主任書記會ニ於テ指示)

演劇興行、遊覽所稅ハ其營業者ニ於テ觀覽者ヨリ受クル木戸錢其他ノ料金ニ應シ稅額ヲ算定スヘキ筋ナルニ往々右料金額以外ノ金錢ヲ受クルモノ少ナカラサルカ如シ今後ハ時々實地調査ヲ行ヒ課稅標準ニ誤謬ナキヲ期セラルヘシ

十五 狩 獵

○狩獵稅賦課取扱ノ件 (大正元年九月十一日訓令) (第九號郡市役所へ訓令)

藝妓置屋ノ許可ヲ受ケサルモノハ納稅義務(酌婦置屋共)藝妓(酌婦共)代書狩獵ニ對スル縣稅ハ警察署分署ノ許可又ハ異動通知並ニ縣稅檢査吏員ノ通知ニ基キ賦課ノ手續ヲ爲スヘシ

○狩獵稅ノ賦課ニ關スル件 (大正六年一月一第三〇二號) (內務部長ヨリ各郡市長ニ通牒)

藝妓置屋及藝妓稅ノ課稅ニ關シテ大正元年九月十一日訓令乙第九號ニ依リ所轄警察署ノ通知ニ依リ取扱フモノニ有之候處藝妓ノ休業、就業、營業停止又ハ取消ノ通知ヲ受ケタル場合ハ總テ廢業又ハ開業ノモノト同様ノ取扱ヲ爲スヘキ義ニ候條御承知相成度此段及通牒候也

○營業許可ノ際、郡市長へ通知方ノ件 (明治卅八年五月) (部訓示第三十四號)

警察官署ノ許可ヲ受ケ若クハ届出ヲ要スル營業行為又ハ製造場等ノ設置ニシテ縣稅ノ賦課ニ關係アルモノハ其ノ許可又ハ届出ノ都度其ノ營業行為等ノ種別(場所共氏名許可届出ノ年月日並ニ廢業轉居改氏名其他異動アル事項左記該當ノモノニアリテハ其ノ附記ノ事項)ヲ其所轄郡市長へ通知セラルヘシ

一、狩獵 (一ヶ月毎ニ取纏メ)狩獵法ニ依ル等級及稅額

○狩獵者ニ免狀ヲ下付シ及其異動處理ノ件 (明治三十四年三月訓令第十一號ヲ以テ內務部、郡役所暨警察署、同分署へ通牒大正八年九月訓令乙第二八〇號改正)

狩獵法ニ依リ狩獵者ニ免狀ヲ下付シ又ハ狩獵者ニシテ住所ヲ移轉シ若クハ改氏名ヲ爲シタル者アルトキハ警察署同分署ニ於テ其都度住所氏名免狀ノ種類及免許稅額等ヲ市ニ係ルモノハ內務部長ニ町村ニ係ルモノハ郡長ニ通報スヘシ

內務部長及郡長ニ於テ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其都度市町村長ニ通知シ縣稅徵收細則第一條ニ依リ處理スヘシ

○他府縣ニ於テ納稅ヲ爲ス狩獵者ニ對シ課稅セサルノ件 (明治卅五年二月廿六日地甲第三三二號) (內務省地方局長通牒)

相撲、俳優、遊藝稼人等ニ對シ課稅方ノ義ニ付本年地中第一一號ヲ以テ及通牒候所猶ホ狩獵ニ付テモ同様御取扱相成候様致度

○狩獵稅附加稅制限ノ件 (明治四十四年一月十七日往第三六八號) (地方局長、主稅局長通牒)

府縣稅雜種稅狩獵稅割ノ特別課稅制限ニ付テハ明治三十九年一月二十七日往第八〇〇號ヲ於テ通牒致置候處四十二年三月法律第十三號ニテ狩獵法第十一條改正セラレ該通牒ハ自然變更ヲ來シ候ニ付更ニ左記ノ範圍ヲ超過スル場合ハ許可セサルコトニ内定相成候間此ノ趣旨ニ依リ御取扱相成候様致度依命此段及通牒候也

狩獵法第十一條

- 一等ニ該當スルモノ 國稅額一圓ニ付 金拾參錢
- 二等ニ該當スルモノ 同 金拾參錢
- 三等ニ該當スルモノ 同 金拾錢

十六 屠 畜

○營業許可ノ際、郡市長へ通知方ノ件 (明治卅八年 部訓示第三十四號)

警察官署ノ許可ヲ受ケ若クハ届出ヲ要スル營業行爲又ハ製造場等ノ設置ニシテ縣稅ノ賦課ニ關係アルモノハ其ノ許可又ハ届出ノ都度其ノ營業行爲等ノ種別(場所共氏名許可届出ノ年月日並ニ廢業、轉居、改氏名其他異動アル事項左記該當ノモノニアリテハ其ノ附記ノ事項)ヲ其所轄郡市長へ通知セラルヘシ

一、屠畜 屠畜ノ場所及牛馬羊豚ノ區別頭數

○屠畜稅ハ屠殺前ニ徵收スルノ件 (明治三十六年七月四日内五收第三五九九號)

雜種稅中屠畜稅ハ日稅ニ屬スルヲ以テ縣稅徵收細則第一條ニ依リ徵收スヘキモノナルモ該行爲者ニシテ届出ヲ爲ササルニ因リ前收スルヲ得サル趣モ有之候處右ハ演劇興行ト同シク納稅ヲ認ムルニアラサレハ屠殺セシメサル様別紙ノ通警部長ヨリ警察署同分署ニ對シ訓示相成候ニ付爲念此段及通牒候也 (別紙)

訓示第二〇號 (明治三十六年六月廿九日警部長ヨリ 各警察署及同分署長ニ通牒)

屠畜稅ハ營業稅雜種稅課目課額ノ分類ニ於テ日稅ニ屬シ而シテ日稅ハ縣稅徵收期限中ノ規定ニヨリ其時々前收スヘキ處往々屠畜後ニ至リ尙納稅セサルモノ有之哉ニ候條納稅ノ證ヲ檢査スルニアラサレハ屠殺セシメサル様取計ハルヘシ

○屠畜稅ハ食用ノ爲メ屠殺スル牛馬羊豚ニノミ課稅スルノ件 (明治三十八年十月地第八六〇五號 第一部長ヨリ各郡市長ニ通牒)

縣稅雜種稅屠畜稅ハ屠畜及屠獸場取締規則ノ適用ヲ受クヘキ牛馬羊豚ニノミ課稅スヘキヤ將タ斃獸取締規則及化製場取締規則ノ適用ヲ受クヘキ牛馬羊豚ニモ課稅スヘキヤニ付間々疑義ヲ存スル尙有之趣ニ候處右ハ屠獸及屠獸場取締規則ノ適用ヲ受クヘキ屠畜即チ食用ノタメ屠殺スル牛馬羊豚ニノミ課稅候様御取扱相成度此段依命及通牒候也

○自家用ノ屠畜ニ對スル課稅方ノ件 (明治四十三年四月十三日 地方課ヨリ登米郡ニ回答)

御問合セ相成候縣稅賦課ニ關スル件左記通リト存候條此段及回答候也

自家用ノ屠畜ニ對スル屠畜稅ノ件ハ別ニ應議トシテ決定シタルモノ無之モ賦課規則中之ヲ除外スルノ規定ナキヲ以テ賦課スヘキモノト存候

○屠畜稅中牛ノ年齡算定ニ關スル件 (大正四年四月地第二一三二號内務警察兩部 長ヨリ各郡市長警察署同分署長へ通牒)

屠畜稅賦課標準中牛ノ年齡ハ數ハ年ニ依リ算定スルコトニ應議決定相成候條明ケ年三歲(數ハ三歲シ歲ノモノ)ニ達シタルモノハ課目課額中三歲以上トアルニ該當スル義ト御了知相成度此段及通牒候也

○屠畜税ノ賦課ニ關スル件

(大正六年九月各都府市財務主任書記會ニ於テ指示)

屠畜税ハ納税義務者ヨリ届出ヲ爲サシムヘク萬一他人ニ依托シテ屠殺ヲ爲サントスルモノアルトキハ總テ其代理人トシテ届出シムヘキコトハ曩ニ内務部長ヨリ通牒セラレタル通ニ付今後ハ深ク此點ニ注意シ他日賦課ニ關シ異議其他故障ヲ生スルカ如キコトナキヲ期セラルヘシ

○判例

(屠畜税ノ賦課)

屠獸者ノ屠畜行爲ニ對シ縣稅タル屠畜税ヲ賦課スルモ其販賣行爲ニ賦課スル國稅營業税ト重複セス(三三二、六、判決)

(屠畜税ノ課税)

東京府知事カ警視廳官吏ノ作成シタル屠獸検査臺帳ニ依リ屠畜税ヲ賦課シタルハ適法也(三四、七、一〇判決)

(屠畜税ト納税義務)

明治十三年太政官布告第十七號(營業税雜種規則)第二條ノ屠畜税ハ獸畜ノ所有者カ爲ス屠殺行爲ニ對シテ賦課スルモノニシテ所有者カ自ラ其ノ事實的行爲ヲ爲スト他人ヲシテ之ヲ爲サシムルトハサレノ法意ナリ(大正六年十一月二十六日判決)

(屠畜税ニ關スル件)

明治十三年太政官布告第十七號第二條ニ依ル屠畜税ハ獸畜ノ所有者カ爲ス屠畜行爲ニ對シ賦課スルモノト解スヘク而モ營業税法ニ於ケル物品販賣業ノ課税ハ販賣行爲ニ對スルモノニシテ其ノ行爲中ニハ屠畜行爲ヲ包含スルモノニアラス

獸肉等ノ販賣業ヲ營ミ國稅營業税ヲ納ムル者カ其ノ販賣ノ用ニ供スル獸肉等ヲ得ムカ爲メ獸畜ヲ屠殺スル場合ニ於テ其ノ屠畜行爲ニ對シテ縣稅屠畜税ヲ賦課スルモ明治四十一年法律第三十七號第二條ニ所謂營業税ヲ納ムル者ノ營業ニ對シ課税スルモノト謂フコトヲ得ス(七年七月二十六日官告)

○國稅ノ例

(屠畜業者ノ屠殺ト課税)

屠畜業即チ生牛馬ヲ買入之ヲ屠殺シ牛馬肉商ヘ販賣スル者ハ營業税法第二條ノ要件(一定ノ店舗其他營業部ヲ設ケ物品ノ卸賣又ハ小賣ヲ爲ス)ヲ具ヘタルモノハ物品販賣業トス(明二九、一〇、五主稅局ヨリ福岡縣ニ回答)

十七ノ一 貨 金 穀

○縣稅賦課ニ關シ取扱事項拔萃

(明治三十八年四月十三日内閣第二五五六號)

縣稅ヲ賦課スヘキモノ及其稅率ヲ變更シタルモノニ關シテハ大要左ノ各項ニ依リ御取扱相成度尙貸金調査ノ事項ハ個人ノ信用ニ關係ヲ有スルヲ以テ可及的秘密ニ取扱ハレ候様致度依命此段及通牒候也

記

二、貸金

名ヲ無利子ニ借り其實之ヲ元金ニ加ヘ又ハ利子ノ前受領ヲ爲ス等事實利子ヲ收ムルト認ムル貸金ハ之ヲ其課税標準ニ算入スヘシ
貸金ハ登記所又ハ稅務署等ニ就キ一人毎ニ其貸金高ヲ取調各貸金者ノ臺帳ヲ設備シ數年ニ涉リ使用シ得ル様調製スルヲ要ス

貸金ノ課税標準ハ前項調査ノ結果ト尙登記ノ貸金ヲ調査シ且其ノ實際ノ情况等ヲ斟酌シ各納稅者及國稅營業稅納稅者トノ權衡ヲ失セサル様慎重精査ヲ遂ケ之ヲ定ムルモノトス
國稅營業稅ヲ納メサルモノニ對シテハ資本金五百圓以上ヲ有スルモノト雖トモ尙縣稅ヲ賦課スルヲ得ルモノトス

第二項調査ノ結果縣内各都市居住者ニ係ルモノアルトキハ其金額債權者債務者其他課稅上必要ノ要領ヲ毎年四月三十日迄ニ各其都市長ニ通知スルヲ要ス

○貸金稅ニ關スル件

(明治四十三年九月十六日地第五八〇五號)
(內務部長ヨリ栗原郡長ニ回答)

栗財第九三七九號ヲ以テ貸金稅課稅方ノ件ニ付再三御照會相成候處右ハ地第五八〇號ヲ以テ回答ノ通り事實貸金ノ實質ヲ有セス恩惠相扶的ニ無利子貸付ヲ爲スカ如キハ格別事實利子ヲ收ムト認ムヘキ貸金ハ其額母子講ナルト否トニ關セス課稅スルノ趣旨ニ有之候條此段及回答候也

○貸金稅ノ賦課ニ關スル件

(大正六年九月各都市財務主任書記會ニ於テ指示)

貸金稅ハ概ネ登記濟貸借ノモノニ對シテノミ課稅シ所謂信用貸借ニ係ルモノハ殆ント課稅セラレサルノ狀況ニアラテ不公平ナル賦課ヲ行フノ結果ヲ呈シ居ルハ徵稅上誠ニ遺憾トスル所ナリ元來信用貸借ノ調査ハ極メテ困難ナリト雖トモ之ヲ放擲シテ顧ミサルトキハ到底賦課ヲ行フコトヲ得サルニ至ルヲ以テ種々ノ方法ヲ講究シテ其申告ヲ爲サシムルニ努ムルニ於テハ相當成績ヲ擧ケ得ヘシト信ス今後一層其調査ニ注意シ申告洩ナキヲ期セラルヘシ

○判例

(營業稅課稅)

金錢貸付ノ營業場ハ特別ノ設備ヲ要スルモノニ非サレハ苟モ一定ノ場所ニ於テ引續キ金錢貸付ヲ爲ス以上ハ營業稅法第二條ノ所謂營業場ニ該當ス(四〇、六、一九判決)

(營業稅賦課)

營利ノ目的ヲ以テ金錢貸付ヲ爲シタリト認ムル事實アル者ニ對シ營業稅ヲ賦課スヘキハ當然ナリ(四一、二二九、判決)

○國稅ノ例

(兩替店ト金錢貸付業)

兩替店ト唱ヒ金銀ヲ相互交換シ手数料ヲ受クルヲ業トスル者ハ金錢貸付業ノ範圍外トス(明二九、五、主税局
答) 奈良縣ニ回答)

(代理業ト信託業)

普通銀行カ手形ノ代理取立、代理貸付ヲ爲スカ如キハ信託業ニアラス(明四四、一、一六、主税局ヨリ東京局ニ回答)

(問屋業等ノ資金貸與ト營業稅)

問屋業、又倉庫業者ニシテ賣買當事者又ハ寄托主ノ爲メニ資金ヲ貸與シ立替金ヲ爲シテ一定ノ金利ヲ取
得スルヲ營業トスルモノハ金錢貸付業ヲ兼業スルモノトシテ課稅ス但シ前渡金又ハ手附金ノ性質ヲ有ス
ル者ハ此ノ限ニアラス(明四四、八、主税局通牒)

(掛金ノ貸付ト營業稅)

會員ヲ募集シテ一定ノ掛金ヲ爲サシメ之ヲ蓄積シ會員各自ノ入札ニ依リ又ハ抽籤ノ方法ヲ以テ會員ノ金
融ヲ爲シ手数料及剩餘金ヲ取得スルヲ業トスルモノハ金錢貸付業トス(大正元年十月主税局通牒)

十七ノ二 貸 家

○貸家稅ノ賦課ニ關スル件

(大正六年九月各都府市財務
主任書記會ニ於テ指示)

貸家稅ノ課稅標準タル家賃ノ申告ハ往々事實ニ遠カリ課稅額ヲ減シ又ハ不課稅トナルモノ多キカ如シ家賃
ノ調査モ貸金ト同シク容易ナラサルモノナリト雖モ平素能ク注意ヲ拂ヒ種々ノ資料ニ依リ調査スルニ於テ

ハ其實際ヲ知ルニ難カラサルヘシト信ス今後一層調査ヲ精密ニシ課稅洩レナキヲ期セラレヘシ

○實 例

(貸家稅ニ關スル件)

貸家ハ一契約ニシテ年貸賃價格三十圓以上ノモノニハ課稅ヲ要スルモ一町村内ノ貸家ヲ通シテ其賃賃價
格三十圓以上トナルモノニハ課稅セサル法意ナリ

(貸家稅課稅方ノ件)

四月一日現在ノ貸家ニシテ空家ノ分ハ課稅標準ノ申告ヲ要セサルモノ、如ク解スルモノアリ右ハ例令空
家タリトモ貸家ニ供スル以上ハ總テ其ノ賃賃價格ノ申告ヲ爲スヘキモノトス亦其ノ課稅ニ際シテハ之等
ノ點充分調査ヲ遂ケ脱洩ナキ様取扱フヘキモノトス

(貸家稅標準計算方ノ件)

貸家ニ對スル一ケ年ノ賃賃價格中各賃賃借ヲ異スル場合アリトスルモ同一家主ニシテ同一家屋内ノモノ
ニアリテハ之レヲ合算シテ課稅スルモノトス其ノ種目大要左ノ如シ

- 一、電 燈 料
- 一、疊 損 料
- 一、建具損料

一、敷地料（家屋建設ノ個所地及之レニ附屬ノ土地共）

十八ノ一 動力使用

○營業許可ノ際郡市長へ通知方ノ件 （明治廿八年五月 郡訓示第三十四號）

警察官署ノ許可ヲ受ケ若クハ届出ヲ要スル營業行為（一）又ハ製造場等ノ設置ニシテ縣稅ノ賦課ニ關係アルモノハ其ノ許可又ハ届出ノ都度其ノ營業行為等ノ種別場所氏名許可届出ノ年月日並ニ廢業、轉居改氏名其他異動アル事項左記該當ノモノニアリテハ其ノ附記ノ事項）ヲ其所轄郡市長へ通知セララルヘシ

一、電力蒸汽力其他動力使用（穀物精白、製粉製材湯屋ニ限ル）使用ノ目的

○縣稅賦課ニ關シ取扱事項沿革 （明治三十八年四月十三日内地第二五五六號）
明治三十八年度ヨリ新ニ縣稅ヲ賦課スヘキモノ及其稅率ヲ變更シタルモノニ關シテハ大要左ノ各項ニ依リ御取扱相成度尙貸金調査ノ事項ハ個人ノ信用ニ關係ヲ有スルヲ以テ可及的秘密ニ取扱ハレ候様致度依命此段及通牒候也

記

三、電力蒸汽力使用（現行ハ石油發動力モ含ム）

換白ヲ標準トシテ課稅スルモノハ各一日ノ精白量ハ精細調査ヲ遂クルヲ要ス

○換白ニ動力稅ヲ課稅セサル件 （大正七年十二月三日地第一九一二號）
（内務部長ヨリ登米郡長ニ答）

十一月廿二日登財第五二八六號ヲ以テ動力使用稅中換白ノ賦課ニ關シ御問合セ相成候處右ハ課稅セサル義ニ有之候條此段及回答候也

○工業用ノ物件ヲ標準トシテ縣稅賦課セル件 （明治四十三年五月廿四日往第六二〇號）
（主稅局長地方局長通牒）

從來機關ニ對シ蒸汽力若クハ電力ノ標準トシテ賦課スル府縣稅特別稅ハ許可セサルノ例ニ有之候處器具機械等ノ物件ヲ標準トシテ賦課スルコトモ工業ノ發達上影響ヲ免レサル義ニ付爾今蒸汽電氣瓦斯又ハ石油發動力ニ因ル工業ニ對シ器具機械等ノ物件ヲ標準トシテ賦課スル道府縣市町村ノ特別稅ハ容易ニ許可セサルコトニ決定相成候ニ付テハ從來許可セラレタルモノト雖右ノ趣旨ニ副ハサルモノハ時機ヲ見テ廢止スルコトニ御取扱相成ヘク依命此段及通牒候也

○工業用ノ物件ヲ標準トシテ縣稅ヲ課セサルノ件 （明治四十三年五月廿四日往第六二〇號）
（地方、主稅兩局長通牒）

從來機關ニ對シ蒸汽動力若クハ電力ヲ標準トシテ賦課スル府縣稅特別稅ハ許可セサルノ例ニ有之候處器具機械等ノ物件ヲ標準トシテ賦課スルコトモ工業ノ發達上影響ヲ免レサル義ニ付爾今蒸汽、電氣、瓦斯、又ハ石油發動力ニ因ル工業ニ對シ器具機械等ノ物件ヲ標準トシテ賦課スル道府縣市町村ノ特別稅ハ容易ニ許可セサルコトニ決定相成候ニ付テハ從來許可セラレタルモノト雖右ノ趣旨ニ副ハサルモノハ時機ヲ見テ廢止スルコトニ御取扱相成ヘク依命此段及通牒候也

追テ電柱稅ハ本文ノ物件ニ包含セサル儀ニ有之爲念申添候也

○動力使用税ニ關スル件

(大正七年十月八日地第五四八八號ヲ以テ知事ヨリ内務省地方局長ヘ照會)

物價ノ騰貴其他時勢ノ推移ニ促サレ來年度ニ於ケル縣費ノ激増ハ到底從來ノ例ヲ以テ測リ難キ狀況ニ有之此ノ際財源ノ調達ニ就テモ亦タ非常ノ方法ヲ講スルノ必要ニ迫リ居候從テ縣稅營業稅雜種稅ノ如キ各種ノ稅目ヲ通シテ三割乃至五割ノ増徴ヲ行フ見込ニシテ其ノ權衡上動力使用税ニ對シテ五割内外ノ増徴ヲ必要ト認メ候處右ハ從來電氣事業ノ獎勵上容易ニ御許可相成ラサル趣キニ承知致居リ候ヘ共近來電氣事業ノ收益ハ他ノ事業ニ比シ何等遜色ナク事業ノ發展目覺シキモノ有之殊ニ動力使用税ハ電氣事業者ニ直接賦課スルモノニ無之大部分ハ精米業者、製材業者ニ賦課スルモノニシテ之等ノ營業者ハ亦タ他ノ營業者ニ比シ一段ノ收益ヲ得居ル狀況ニ付前述ノ如キ増徴ヲ行フモ何等ノ打撃ヲ受ケサルノミナラス延ヒテ電氣事業ノ發達ヲ沮害スルカ如キ虞ハ萬々無之ト存候ヘ共議決後御許可ヲ得ルコト能ハサルカ如キコト有之候テハ不都合ニ付豫メ何分御應議ヲ伺度此段及依頼候也

○動力使用税増率ニ關スル件回答

(大正六年十月十五日城局第一七號内務省地方局長回答)

十月八日標記ノ件御依頼ノ次第モ有之候ヘ共右ニ關シテハ目下大藏省ト協議中ニ付決定ノ上ハ何分可及迪難候ニ付右ニ御了知相成度

○器械機關等ニ對スル課税ノ件依命通牒

(大正七年十一月二日内務省發地第一五一號内務省地方局長、大藏省主稅局長ヘ通牒)

機關ニ對シ蒸汽力若ハ電力ヲ標準トシ又蒸汽電氣瓦斯石油發動機力ヲ利用スル工業ニ對シ器具機械等ノ物件ヲ標準ト爲シ賦課スル道府縣市區町村ノ特別稅ニ付テハ兼テ通牒相成居候處右時局中是等課稅ト雖其事

業ニ相當收益アリ且地方財政ノ狀況ニ照シ不得止ト認ムルトキハ工業ノ發達上支障ノナキ程度ニ於テ詮議可相成候條御心得相成度

追テ新ニ事業ヲ開設スル者ニ對シテハ相當ノ事由アル場合ヲ除クノ外一定ノ期間課稅セサルコトニ致度

十八ノ二 建物建築

○縣工作物ノ新築増築改築其他ノ工事及其費途區分ノ件

(本件卅五年九月十八日内地第三二六號ヲ以テ部長及各所管長ヘ通牒セリ) 明治三十五年九月廿九日廳訓第三一號

知事官房、内務部、警察部

縣工作物ノ新築増築改築其ノ他ノ工事及其費途ノ區分ハ今後豫算編製ノ分ヨリ漸次別紙各項ニ依リ取扱フヘシ

(別紙)

- 一、新築トハ新ニ工作物ヲ築造スルモノヲ云フ
- 二、増築トハ工作物ノ面積容積若ハ延長ヲ増加スル目的ヲ以テ之ニ工作ヲ加フルヲ云フ
- 三、改築トハ工作物ノ全部若クハ一部ヲ取毀チ主トシテ其材料ヲ使用シ更ニ現在ノ位置ニ工作物ヲ築造スルヲ云フ
- 四、移築トハ工作物ノ位置ヲ變更スルノ目的ヲ以テ之ヲ取毀チ異リタル位置ニ於テ改築ヲ施スヲ云フ

- 五、移轉トハ工作物ノ大体ノ現形ヲ維持シテ其ノ位置ヲ變更スルヲ云フ
- 六、模様換トハ工作物ノ面積容積若クハ延長ヲ増加セシテ其一部ニ變更ヲ加フルヲ云フ
- 七、修繕トハ工作物ノ位置及現形ヲ變セス若クハ些少ノ變更ヲ加フルモノニシテ其一部若クハ全部ニ修理ヲ加フルヲ云フ

右第一第二第三第四ノ工事ニ要スル費途ハ新營費建築新築道路開墾河川改修費ノ類ヲ以テ支辨シ第五第六及第七ハ修繕費ヲ以テ支辨スルモノトス但前記各項ノ工事ヲ施行スル場合ニ於テ其ノ一カ他ニ對シテ避クヘカラサル附屬工事に認ムヘキモノナルトキハ其主タルモノニ依リテ區分スルコトヲ要ス

○建物建築ニ對スル課税ニ關スル件 (明治四十年三月地第三七二〇號 第一部長ヨリ各郡市長ヘ通牒)

明治四十年縣稅中建物建築及畜犬ハ新規ノ課税ナルヲ以テ納稅義務者ノ届出ニ關シテハ充分御注意相成尙左記各項御含ミ相成度依命此段及通牒候也

記

- 一、建物建築中ニハ改築、移築及増築ヲ包含スルモノトス
- 二、建物建築稅ノ年度所屬ハ着手期ニ關セズ建築物竣成シタル時ヲ以テ區分スヘキモノトス
- 三、建坪ハ普通ノ計算方法ニ依リ建物ハ總坪數ヲ届出テシメ課目課額ノ區分ニ依リ算定賦課スルモノトス
- (四、五、六項ヲ除ク)

○流失建物ニモ課税スルノ件 (明治四十三年八月廿六日地第六六七〇號 內務部長ヨリ栗原郡長ニ回答)

11110

11111

栗財第九三四五號ヲ以テ建物建築稅課税方ノ件ニ付御照會相成候處右ハ假令水害ノタメ流失シタルモノト雖トモ既ニ竣成シタル建物ニ對シテハ賦課徵收スヘキモノニシテ徵收ヲ見合スヘキモノニ無之ト被存候條此段及回答候也

追テ納稅義務者ニシテ特別ノ事由アルモノニ對スル府縣制第百十三條ニ依ル減免等ノ儀ハ其事實ニ就キ決定セラル可キモノト存候條此段申添候也

○産業組合ノ建物ニハ課税セサル件 (明治四十三年九月七日地第六八三號 內務部長ヨリ伊具郡長ニ回答)

伊庶第二八四七號ヲ以テ産業組合法ニ依リ設置シタル産業組合ニ對スル建物建築稅及法人建物稅ニ付御照會有之候處右ハ同組合ニ對スル建物建築稅ハ御見込ノ通ニ有之法人建物稅ニ關シテハ縣稅賦課規則第十九條ノ二ニ規定スル營業ヲ爲ス法人ノ建物ニ無之ニ付同稅ヲ賦課スルヲ得サルモノニ有之候條此段及回答候也

(寫) (明治四十三年八月廿四日第二八四七號 伊具郡長照會文)

産業組合ハ同法第六條ニヨリ公益法人ニ準シ所得稅及營業稅ヲ課セサルノ規定ニ候處本縣縣稅賦課規則中第十三條雜種稅十八ノ二建物建築及二十六法人建物ニ關シ何等特殊除外例ノ規定無之候ニ付右組合法ニヨリ成立セル法人ニ對シ當然課稅ヲ要スル義ト認メラレ候モ少數疑義ニ涉リ候條至急何分ノ御回示相成度此段及御照會候也

○買收土地ニ建設シタル建物ニ課税スル件 (明治四十年十二月十六日地第一二二二二號ヲ以テ內務部長ヨリ仙臺市長ヘ回答)

仙臺賦第四六七號ヲ以テ伺出相成候土地建物所有者カ其土地買上ノタメ建設シアル建物ヲ移轉シ又ハ移築スル場合ノ建物建築税ニ關スル件ハ原因ノ何タルヲ問ハヌ原形ノ儘移轉スルハ課税ノ限リニアラサルモ移築(一旦取毀テ主トシテ其材料ヲ使)ノ場合ハ課税スヘキ儀ニ有之候條御了知相成度伺出ニ對シテハ別ニ指令不相成依命此段及通牒候也

○建物建築税之賦課ニ關スル件 (明治四十一年十二月十六日地第一二二二二號 內務部長ヨリ仙臺市長ニ回答)

仙臺賦第四六七號ヲ以テ伺出相成候土地建物所有者カ其土地買上ノ爲メ建設シアル建物ヲ移轉シ又ハ移築スル場合ノ建物建築税ニ關スル件ハ原因ノ何タルヲ問ハヌ原形ノ儘移轉スルハ課税ノ限リニアラサルモ移築(一旦取毀テ主トシテ其材料ヲ使)ノ場合ハ課税スヘキ儀ニ有之候條御了知相成度伺出ニ對シテハ別ニ指令不相成依命此段及通牒候也

○建物建築課税ノ件 (明治四十一年一月十三日栗財第二六四號 栗原郡長照會)

建物建築税ニ付左記ノ通疑義相生シ候ニ付至急御明示相成度此段及照會候也

一、官廳ノ交渉ニヨリ官廳舎ニ適當ナル建築設計ヲ爲シ個人ニ於テ該設計ニ則リ建築ノ上薄利ヲ以テ官ニ貸付スル建物建築ハ縣稅賦課規則第二十三條第三項第十五號ニ該當セサルモノトシテ當然建物建築税ヲ徵收差支ナキヤ

二、個人ニ於テ巡查駐在所ニ要スル建物建築ノ上無料ニテ貸付スル建物建築ハ前項同條第十五號ノ公用ニ供スル建物建築トシテ課税スヘカラサルモノナリヤ

右回答 (明治四十一年一月二十日地第三〇五號回答)

第一、第二項トモ何レモ縣稅賦課規則第二十三條第三項第十五號ニ該當ノモノニ無之義ト存候此段及回答候也

○建物建築課税方ノ件 (明治四十二年九月廿五日地 方課ヨリ桃生郡役所ニ回答)

御問合セノ件左ノ通りト存候

一、三等郵便局舎充用ノ目的ヲ以テ個人カ建物ヲ建築シタル場合ハ賦課規則第二十三條ノ不課税事項以外

ニ屬スルヲ以テ相當課税スヘキ義ト存候 (本項ハ大正七年八月七日地第四四六七號 各郡市長ヘ通牒ニ依リ消滅トナル)

一、町村費又ハ個人寄付ニ依リ巡查駐在所建築ノ場合ニ於ケル課税ハ左ノ區分ニ依リ取扱フヘキ義ト存候

イ、町村費ヲ以テ巡查駐在所ヲ建築スル場合ハ事實無之義ニ候モ町村費ヲ以テ町村有建物ヲ建築シ之ヲ

巡查駐在所ニ貸付スル場合ノ建物建築税ハ賦課規則第二十三條第三項第十五號ノ不賦課ノ規定ニ該當

スルヲ以テ課税スヘカラサルモノト存候

ロ、箇人寄附ニ依リ建築スル場合ニ於テ其建築物ヲ町村又ハ縣ニ寄附スルモノナルニ於テハ前項同様不

課税トナルヘキモ數箇人共同出資シテ共有建物ヲ建築シ之ヲ巡查駐在所ニ貸付スルモノナルトキハ不

課税事項外ナルヲ以テ相當課税スヘキ義ト存候

○郵便局舎ニ建物建築税ヲ課税セサルノ件 (大正七年八月七日地第四四六 七號ヲ以テ各郡市長ヘ通牒)

三等郵便局長カ専ラ郵便局舎ニ供用スルノ目的ヲ以テ建築シタル場合ニハ其ノ供用ノ部分ニ限り自今縣稅

建物建築税ヲ賦課セサル事ニ廳議決定候條依命此段及通牒候也

○私立學校ノ建物ニ關スル課税免除ノ件依命通牒 (大正八年七月七日內務省藏地第八號ヲ以テ地方局長主稅局長ヨリノ通牒)

曩ニ法律第三八號ヲ以テ私立學校用地免除ニ關スル件公布相成候處私立學校保護獎勵上建物ニ對シテモ地方税ヲ免除スルノ必要有之候條同法ノ施行後ニ於テハ右法律第一條第一號並第二號ニ揚クルモノ、用ニ供スル建物(賃借ニ係ル建築ヲ除ク)ニ對シ府縣稅市町村稅ヲ賦課セラレサル様致度

追テ本文ニ依リ地方税ヲ免除スヘキ建物ハ法律第三八號ニ依ル免租地ノ區域ニ在ルモノニ付テハ賃借ニ係ル建物ヲ除キ其全部、有租地ノ區域ニ在ルモノニ付テモ亦右ノ趣旨ニ依リ法律第二條ノ範圍ニ於テ御取計相成度

○私立學校ノ建物ニ課税セサルノ件 (大正八年七月十四日地第三六五一號ヲ以テ各都市長ニ內務部長ヨリ依命通牒)

本年四月法律第三八號ヲ以テ私立學校用地免租ニ關スル件公布相成候處私立學校保護獎勵上建物ニ對シテモ地方税ヲ免除スルノ必要有之候條同法ノ施行後ニ於テハ右法律第一條第一號並第二號ニ揚クルモノ、用ニ供スル建物(賃借ニ係ル建物ヲ除ク)ニ對シ市町村稅賦課セラレサル様致度依命及通牒候也

追テ本文ニ依リ地方税ヲ免除スヘキ建物ハ法律第三八號ニ依ル免租地ノ區域ニ在ルモノニ付テハ賃借ニ係ル建物ヲ除キ其全部、有租地ノ區域ニ在ルモノニ付テモ亦右ノ趣旨ニ依リ法律第二條ノ範圍ニ於テ御取計相成度申添候也

○建物建築税ノ賦課ニ關スル件 (大正六年九月各都市財務主任書記會ニ於テ指示)

建物建築税ハ竣成ノ都度遲滯ナク申告スヘキ規定ナルモ其申告ヲ爲スモノ極メテ少ナキカ如シ建物建築ハ其事實顯著ニシテ到底通税ヲ圖リ得ヘキモノニアラサルヲ以テ平素注意ヲ怠ラサルニ於テハ申告ヲ遲滯セシメサルヲ得ヘシト信ス又進テ申告ヲ爲シタルモノニモ實際ノ坪數ヲ詐ハリ若クハ改築ヲ移築ト爲ス等負擔ノ輕減ヲ圖ルモノ少ナカラス此等申告ヲ受理シタル場合ハ可成實地ノ調査ヲ遂ケ誤謬ナキヲ期セラルヘシ

○建物建築税ニ關スル件 (大正七年七月廿日開會各都市主任書記會ニ指示)

- 一、建物建築税ノ取扱中左記ノ如キ不都合ノ取扱アリ充分注意スルヲ要ス
- 一、町村ニ於ケル處理ノ結果實地ニ就キ調査セシ例ニ徵スレハ改築ニ該當スル建築ナルニモ拘ハラス舊材料ヲ用キタル一事ヲ以テ移築トシテ取扱フモノ多キカ如シ右ハ明治三十五年内地第三二六〇號通牒縣工作物建築區分ニ關スル件ヲ參照スル等誤謬ナキ様注意ヲ要ス
- 一、課税濟坪數ハ實坪數ヨリ減少シテ課税スル傾アリ右ハ甚タ不都合ニ付周到注意ヲ以テ通脱税トナルモノナキ様取締ルヲ要ス

○實例

(葺草ニ關スル件)

建物建築税中葺草ハ葺草ト同様ノ稅率ヲ課スル事ニ大正六年五月二十三日都市財務主任書記會ニ於テ

協定

(建物建築税課税方ノ件)

少坪數ノ増築改築新築ハ課税スヘカラサル如ク解スルモノアルモ右ハ税額ヲ計算シ得ル(五合以上ノモ
ノ)坪數ノモノハ種類ノ何タルヲ問ハス總テ之レカ申告ヲ爲サシメ課税スヘキモノトス

(家屋ノ幾部ヲ公用ニ供スル場合町村税ノ課税)

自宅ノ幾部ヲ以テ公務取扱ノ用ニ供シ(例ヘハ郵便受取所ノ事務ヲ取扱フ室ノ如シ)幾部ヲ以テ居住ニ充
ツル場合ニ於テ土地家屋共ニ判明セルモノハ其ノ公務取扱ノ用ニ供スル部分ニ對シ課税ヲ爲サス其ノ一
半ヲ割シテ居住ニ充ツルモノニ對スル課税ノ方法ハ町村會ノ議決ニ依リテ定ム可キモノトス

(府縣稅及市町村稅ノ免除物件)

市町村制第九十七條第一項第二號ノ社寺トアル中ニ嚴格ニ解決スルトキハ神佛二教以外ノ宗教ヲ包含セ
スト雖モ立法ノ精神ハ廣ク一般ノ宗教ノ用ニ供スル土地家屋等ヲ指示スルモノナルコト毫モ疑ヲ容レ
故ニ神佛二教以外ノ宗教ニ於テ或ハ教會堂ト云ヒ或ハ說教所ト云ヒ或ハ聖堂ト云ヒ或ハ講義所ト云ヒ其
ノ付スル所ノ名稱ヲ區々ニシ其ノ使用スル形式亦異レルモノアリト雖モ明治三十二年內務省令第四十一
號ニ依リ所轄地方長官ノ許可ヲ受ケ專ラ宗教直接ノ用ニ供スルモノハ總テ免除スヘキモノトス神佛二教
ノ說教所及講義所ノ類亦同シ

(祠宇佛堂ノ意義)

祠宇トハ奉齋主神ヲ鎮座シ神葬式ヲ營ミ兼ネテ公衆參拜ノ用ニ供スルモノヲ謂ヒ佛堂トハ概シテ宗派ニ
屬セヌ受持僧侶アリテ之ヲ管理シ公衆參拜ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

(教會所構内ニ建設セル宗教教授用ノ建物ト課税)

教會所ノ構内ニ建設セル宗教教授用ノ建物ニ對シテハ課税スルヲ得ヌ又教會所ノ構内ニ在リテ其ノ主監
宣教師又ハ番人等ヲ居住セシメ居ル建物ノ如キハ教會所ノ一部又ハ附屬舍ニシテ教會所ノ用ニ供スル建
物ナレハ宣教師ノ住宅ニ關シテモ亦課税スルコトヲ得サルモノトス

(私立學校ト府縣稅ノ賦課)

府縣稅ノ免除ハ府縣制第一百條ニ依リ市町村稅免除ノ例ニ依ルヘキモノナルヲ以テ耶蘇教會ノ設立セル
校舍ト雖官立公立ニアラサル限リハ免除スヘキ限リニ在ラス又誤テ該校舍ニ賦課セサリシ場合ト雖府縣
制第十六條第二項ニ依リ時効ニ係ラサル以上ハ遡リテ府縣稅ヲ徵課スルコトヲ妨ケサルモノトス

(郵便法第七條ト地租條例第四條第一項第一號但書トノ關係)

郵便法第七條ニ所謂郵便專用ノ物件中ニハ車馬等ノ如キ動産ニ限ラス不動産タル土地建物等モ包含ス
然レトモ其土地カ有料借地ナルトキハ土地所有者ハ其ノ收益ヲ得ルヲ目的トシ偶々其ノ土地ヲ郵便用ニ
供スルモノナルヲ以テ郵便專用ノ物件ト認ムルヲ得地租稅則第一項第一號但書ニ該當スルモノトス

(他ノ町村内ニアル市町村有土地家屋ト課税)

直接公用ニ供セサル市町村所有ノ土地家屋ニシテ他ノ市町村内ニ存スルモノハ其ノ市町村稅ノ賦課ヲ受

クルハ勿論ナルモ直接公用ニ供スル土地家屋ナルニ於テハ他町村ニ所在スルモノト雖モ課税セラル、モ
ノニ非ス

(商業會議所ト公共組合)

商業會議所ハ舊市制町村制第九十七條第一項第一號ニ所謂公共組合ニ該當スルモノトス

(商業會議所ノ土地家屋ト課税)

商業會議所ノ土地家屋ハ直接公用ニ供スルモノナルヲ以テ市町村税ヲ賦課ス可キモノニ非ラスト雖モ其
ノ敷地建物ニシテ一個人ヨリノ有料借受ナルトキハ其ノ貸主ニ對シ市町村税ヲ賦課シ得ヘキハ論ヲ俟タ
ス

(公用ノ意義)

「(公用)ナル文字ハ之ヲ公共ノ用ニ供スルモノ」ト併セテ規定シタル場合ニハ其ノ意義ノ狭キハ自ラ明カ
ナルモ本條ノ規定ノ如ク單ニ(公共)トノミ規定セル場合ニハ廣ク公共ノ用ニ供スル場合ヲモ包含スルモ
ノト解ス可キナリ

(官舎ト家屋税ノ賦課)

官舎ニ對シ家屋税ヲ賦課スルヲ得ス尤モ官舎ニ住居スル者ニ對シ課税スルハ妨ケナシ

(直接宗教ノ用ニ供スル建物)

基督教ノ教會堂、聖堂、説教所、講義所等ニシテ所轄地方長官ノ許可ヲ受ケ専ラ宗教直接ノ用ニ供スル

建物ニハ市町村税ヲ課スルヲ得ス神佛二教ノ講義所等ノ建物ニ付テモ亦右ト同シク所轄地方長官ノ許可
ヲ受ケ宗教ノ用ニ供スルモノニハ市町村税ヲ賦課スルヲ得ス但シ何レノ建物ニアリテモ其ノ建物カ有料
借受ニ係ルトキハ其ノ貸主ニ對シ課税スルハ妨ケナシ

(學術慈善用建物)

私立學校圖書館慈善院等ノ建物ニ對シテハ市町村税ヲ賦課スルヲ妨ケス

(直接鑛業用ノ工作物ト府縣稅ノ賦課)

鑛山ニ於ケル鑛業事務所又ハ其ノ倉庫ノ如キハ直接鑛業用ノ工作物ナルヲ以テ如何ナル名義ノ府縣稅ヲ
賦課スルコトヲ得サルモノトス

○判例

(寺院ノ用ニ供スル土地)

營造物及家屋ハ町村税ヲ免除スルノ規定ニシテ寺院ノ所有地タル土地其ノ他ノ財産ニ對シ免税スヘキ規
定ニアラス(明治三六、七、一判決)

(同業組合ノ性質)

同業組合ハ同業者ノ共同利益ヲ増進シ弊害ヲ矯正スルノ目的ヲ有スルモ何等公ノ權力ヲ有スルモノニア
ラサルヲ以テ之ヲ公共團體ナリト謂フヲ得ス(大正二、六、三〇、判決)

十九 劇場

○國稅ノ例

(劇場ト席貸業)

劇場ハ席貸業トシテ課税スヘキモノニアラス(明治二九、九、九、主税局ヨリ京都府ニ回答)

(劇場ト席貸業)

劇場業又ハ寄席業者カ劇場又ハ寄席ヲ其目的ニ使用シ又ハ使用セシムル場合ハ課税セサルモ目的外ニ集會場トシテ貸付報酬ヲ受クルモノニシテ營業ト認ムヘキ場合ハ席貸業トシテ課ス(明治四四、七、一二、主税局ヨリ會計検査院ニ回答)

二十人 寄席

二十一 遊技場

○營業稅雜種稅科目業名及標準區別拔萃

(明治三十年十二月二十八日 訓令第五五號)

遊技場、大弓場、揚弓場、玉突場、室内射的場、其他圍碁、將棋等ノ遊技ヲ爲ス者ノ集會場ヲ設ケ業トナスモノヲ謂フ

二十二 遊覽所

○營業許可ノ際郡市長ヘ通知方ノ件

(明治卅八年五月 部訓示第三十四號)

警察官署ノ許可ヲ受ケ若クハ届出ヲ要スル營業行爲又ハ製造場等ノ設置ニシテ縣稅ノ賦課ニ關係アルモノハ其ノ許可又ハ届出ノ都度其ノ營業行爲等ノ種別(場所共)氏名許可届出ノ年月日並ニ廢業、轉居、改氏名其他異動アル事項左記該當ノモノニアリテハ其ノ附記ノ事項ヲ其所轄郡市長ヘ通知セララルヘシ

一、演劇、興行、遊覽所

營業ノ月日及日數木戸錢、棧敷代、敷物代、下足代、見料等ノ右最高一人分ノ額但大人小人ノ別アルモノハ其別共

二十三 市場

○營業稅雜種稅科目業名及標準區別拔萃

(明治三十年十二月二十八日 縣訓令第五五號)

一定ノ日時ヲ期シ又ハ日々公道又ハ空地等ニ諸商人其他物品販賣者集合シテ市ヲ開クヲ謂フ
祭典緣日等一時人ノ集合スルヲ期シ露店商人ノ集合スルモノ又ハ夜店(歳ノ市ヲ除ク)ハ市場トセス
問屋仲立人等ノ店舗ニ於テ糶賣ヲナスモ市場トセス

市場

○營業許可ノ際郡市長へ通知方ノ件

(明治廿八年五月 郡訓示第三十四號)

警察官署ノ許可ヲ受ケ若クハ届出ヲ要スル營業行為又ハ製造場等ノ設置ニシテ縣稅ノ賦課ニ關係アルモノハ其ノ許可又ハ届出ノ都度其ノ營業行為等ノ種別(場所共)氏名許可届出ノ年月日並ニ廢業、轉居、改氏名其他異動アル事項左記該當ノモノニアリテハ其ノ附記ノ事項ヲ其所轄郡市長へ通知セラルヘシ

一、市場 設立者住所氏名開設月日販賣場ノ種類

○國稅營業者ノ使用スル場所ニ其營業ノ賣上金高ヲ標準トシ

(明治三十一年十一月八日高地第三號ノ内)

(務省地方局長通牒)

市場稅賦課ノ件ニ付高知縣照會ニ對シ左ノ通及回答候條爲御心得此段及通牒候也

(明治三十二年七月二 十八日高知縣照會)

營業稅法施行以來市場ハ仲買ノ業体トシテ國稅營業稅ヲ課セラレ且明治三十一年二月九日付縣甲第一六三號ノ内ヲ以テ御回答ノ次第モ有之縣稅雜種稅ノ賦課ヲ廢止セシモ國稅ハ營業行為ニ對シ課稅スルモノニシテ營業稅法第三十六條ハ營業者ノ營業上使用スル場所ニ對シテ縣稅ノ賦課ヲ禁セラレタル條文ニアラス且明治三十二年二月十日石川縣金澤市上近江町魚市株式會社ノ訴訟ニ對シ行政裁判所ノ判決例モ有之候ニ付來ル三十三年度ヨリ賣上金高ヲ標準ニ取り市場ニ縣稅ヲ賦課スル見込ニ候條御意見御回示相煩度ス

回答

右ハ課稅シ妨ケナキコトニ決定相成居候

○判例

(縣稅市場稅ノ賦課)

一、營業者ノ營業上使用スル場所ニ對シテ縣稅ヲ賦課スルモ營業稅法第三十六條ノ規定ニ牴觸セス
一、公衆相集マリ物品ノ糶賣ヲ公行スル市場ニ對シ縣稅市場稅ヲ賦課シタルハ違法ニ非ラス(三十二年二月十日宣告)

(市場稅ノ賦課)

一、一定ノ場所ニ於テ衆人ヲ集メ物品ノ糶賣ヲナストキハ其場所ハ即チ市場ナリ
一、營業者ノ使用スル場所ニ對シ市場稅ヲ課スルモ營業稅法第三十六條ニ牴觸セス(三六四一〇判決)

(市場稅課稅ニ關ル件)

一、雜種稅ヲ賦課スヘキ市場トハ總テ物品ノ糶賣ヲナスヘキ常設ノ場所ヲ云ヒ然ラサル場合ニ在テハ賣主、買主雙方トモ多數集合シテ物品ノ賣買ヲナス場所ヲ云フ從テ買主ノミ如何ニ多數集合スルモ賣主ニシテ常ニ一人ナルトキハ稱シテ市場ト云フヲ得ス
一、糶賣トハ多數ノ買主團ニ向テ公然價格ヲ呼揚ケ最高價ノ買人ニ向テ賣買ヲ取締スルヲ云フモノニシテ一人ノ賣主カ多數買手ノ各人ニ付キ算盤上ニ若クハ手ノ指ヲ握リテ買價ヲ密示セシメ其最高價格ノ買手ニ向テ賣買ヲ締結スルカ如キハ糶賣ニアラス從テ如斯賣買方法ヲ用ユル場所ヲ目的トシテ市場稅ヲ課スルヲ得ス

一、(此項ハ略ス)
 一、數多ノ賣主ヨリ送荷スル海産物ヲ一場ニ集メ一人ノ問屋業者カ自ラ賣主トナリテ數多ノ買手ニ之ヲ賣却スルトキハ其取引ニ關スル賣手ハ即チ問屋業者一人ニシテ各荷主ヲ以テ右取引ノ賣人ナリト云フヲ得ス從テ如斯基賣買方法ヲ用ユル場所ヲ指シテ課税ノ目的タル市場ト云フヲ得ス(四十五年七、八、判例)

○國稅ノ例

(市場ノ商取引ト仲立業)

市場ニテ商取引ノ媒介ヲ爲スモノ仲立業ナリ(明二九、一〇、八、主稅局ヨリ福井ニ回答ス)

二十四 氷 室

○營業許可ノ際、郡、市長へ通知方ノ件 (明治卅八年五月 部訓示第三十四號)

警察官署ノ許可ヲ受ケ若クハ届出ヲ要スル營業行爲又ハ製造場等ノ設置ニシテ縣稅ノ賦課ニ關係アルモノハ其ノ許可又ハ届出ノ都度其ノ營業行爲等ノ種別、場所共氏名許可届出ノ年月日並ニ廢業、轉居、改氏名其他異動アル事項左記該當ノモノニアリテハ其ノ附記ノ事項ヲ其所轄郡市長へ通知セララルヘシ
 一、氷室 場所每坪數(立方坪)

○縣稅賦課ニ關シ取扱事項拔萃 (明治三十八年四月十三日內一地第二五五六號 內務部長ヨリ各郡市長へ通牒)

明治三十八年度ヨリ新ニ縣稅ヲ賦課スヘキモノ及其稅率ヲ變更シタルモノニ關シテハ大要左ノ各項ニ依リ御取扱相成度尙貸金調査ノ事項ハ個人ノ信用ニ關係ヲ有スルヲ以テ可及的秘密ニ取扱ハレ候様致度依命此段及通牒候也

四、氷室

坪數ハ貯氷時季ノ關係ニ依リ検査ヲ行フヲ得サル場合ハ所轄警察署ニ就キ又ハ其實際ノ狀況ヲ視察スル等便宜ノ方法ニ依リ之ヲ定ムルコト

二十五 屠 畜 場

○縣稅賦課ニ關シ取扱事項拔萃 (明治三十八年四月十三日內一地第二五五六號 內務部長ヨリ各郡市長へ通牒)

明治三十八年度ヨリ新ニ縣稅ヲ賦課スヘキモノ及其稅率ヲ變更シタルモノニ關シテハ大要左ノ各項ニ依リ御取扱相成度尙貸金調査ノ事項個人ノ信用ニ關係ヲ有スルヲ以テ可及的秘密ニ取扱ハレ候様致度依命此段及通牒候也

五、屠畜場

屠畜數ハ各郡市役所ニ於テ其前年度中届出テタル屠畜數ニ依リ其稅額ヲ算定スヘキモノトス

二十六 法人建物

○法人建物税ヲ課スヘキ建物異動ノ際課税区分ノ件

(明治四十一年一月地第一三七號)
(内務部長ヨリ各都府縣ニ通牒)

法人建物税ヲ課スヘキ法人使用ノ建物ニ異動ヲ生シタル場合ニ於ケル課税区分ニ關シ左ノ通牒議決定相成候條御心得ノタメ及通牒候也

- 一、使用建物坪數ヲ増シタル場合及用法變更ニ依リ課税標準タル個數ヲ増シタル場合ハ其ノ事實ノ發生上半期期間ニ係ルトキハ上半期ヨリ下半年期間ニ係ルトキハ下半年期ヨリ増シタル個數ニ對シ課税ス
- 二、使用建物ノ坪數ヲ減シタル場合及用法ノ變更ニ依リ課税標準個數ヲ減シタル場合ハ其ノ事實發生上半期期間ニ係ルトキハ下半年期ヨリ減額シ下半年ニ係ルトキハ其ノ年度間減額セス
- 三、場所ヲ移轉シタル場合ニ於テハ新舊使用ノ建物ノ個數ヲ比較シ増減シタル個數ニ付第一、又ハ第二ニ依リ課税ノ區分ヲ爲スモノトス
- 四、異動ノ時期賦課規則第二條第二項ノ場合ニ該當スルトキハ前各項ニ準シ其ノ増減ノ部分ニ對シ臨時賦課スヘキモノトス

○法人建物税課税方ノ件

(明治四十二年九月廿五日)
(地方課ヨリ桃生郡役所ニ回答)

御問合セノ件左ノ通りト存候

株式會社ノ營業休止ノ場合ニ於ケル法人建物税ハ假令休業中ト雖トモ相當課税スヘキ義ト存候

○實例

(法人建物賦課)

法人建物税ノ課税坪數區分方大概左ノ如シ

一、店舗及事務所ト同一ノ使用ヲ爲スモノ、坪數

店舗事務室ニ屬スル押入戸棚(取付ノモノ)

重役室	支配人室	社長室	係長室	應接所
社員詰所	控所	昇降室	書類置場	金庫室
宿直室	商品陳列室	請負人詰所	検査室	研究室
糶場	試験室	診断室	札賣場	電話室
醫員室				

右各室ニ通スル内廊下

店舗及事務所ニ屬セル坪數左ノ如シ

倉庫	商品置場	納屋	役宅	社員居室
下足置場	工場	小使室	備人居室	機關室
炭庫	厩舎	車輛庫	發電室	變壓所
散宿所	酒倉	乾燥室	荷造場	娛樂室

釜 屋 水 室 客 室 浴 室 客 室
 職工寄宿室 炊事室 觀覽室 製圖室 食 室
 女中部室 會議室 藥 局 病 室 藥 室
 衣裝部屋 右各室ニ通スル内廊下

(直接鑛業用ノ工作物ト府縣稅ノ賦課)

鑛山ニ於ケル鑛業事務所又ハ其ノ倉庫ノ如キハ直接鑛業用ノ工作物ナルヲ以テ如何ナル名義ノ府縣稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノトス

(商業會議所ト公共組合)

商業會議所ハ舊市制町村制第九十七條第一項第一號ニ所謂公共組合ニ該當スルモノトス

二十六ノ一 倉 庫

○營業稅雜種稅科目業名及標準區別

(明治三十年十二月廿八日訓令第五五郡市役所、町村役所ニ訓令大正八年四月訓令第十六號ヲ以テ追加)

倉庫 外圍ヲ備ヘ穀菽、財貨、家具、機具、其他物品ノ格納ヲ爲ス住家(藏座敷ハ除ク)以外ノ建物ヲ謂フ

二四八

○倉庫稅算定方ノ件

(大正八年八月六日地第四一七三號 內務部長ヨリ本吉郡長ニ回答)

倉庫稅ノ算出方ニ關シ本月一日本財第一一、七七一號ヲ以テ照會相成候處右ハ御見込ノ通一棟毎計ニ於テ四捨五入ノ上課稅額算定スル義ト御承知相成度此段及回答候也

○倉庫稅賦課ニ關スル件

(大正八年八月六日地第四一五號ヲ以テ內務部長ヨリ本吉郡長ニ回答)

客月二十九日付本財第二、七一二號ヲ以テ本年度新設ニ係ル倉庫稅賦課ニ關シ照會相成候處右ハ一棟又ハ數棟ノ計年額三十錢以内ノモノハ其年額ヲ一時ニ賦課シ其他ノモノニ對シテハ每納期ニ賦課スヘキ義ト御承知相成度此段回答候也

○實 例

(倉庫稅ノ隨時收入トシテ徵收スル場合)

倉庫稅ノ一棟又ハ數棟ノ計年額三十錢以上ノモノハ其年額ヲ二分シテ上半期下半年期トシテ賦課スル取扱ナルヲ以テ此ノ間ニ於テ年額三十錢以内ノ一棟カ納稅義務ノ發生消滅ノ場合ハ其ノ徵收未濟稅額ハ(差額)其ノ時々隨時徵收トシテ賦課スヘキモノトス

二十七 船
 二十八 車

○營業稅雜種稅科目業名及標準區別拔萃

(明治三十年十二月二十八日縣訓令第五五號 大正八年四月訓令第十六號改正)

船

二三八

日本形船五十石未満解漁船小廻船及遊船發動機据付船ニシテ舳梁艦梁ノ設ナキモノハ舳ヨリ艦ニ至ル總長三分ノ二ヲ以テ其長サヲ定ム

發動機据付船及小廻船其他ノ船ニシテ課税間數九間以上ノモノハ噸數船又ハ石數船トシテ課税スヘシ
舳梁艦梁ノ設ケアルモ其位置不相當ノモノハ前項ニ依リ其長サヲ定ム

車

人力車ハ乘臺ノ横巾内法二尺未満ヲ以テ一人乗トシ二尺以上ヲ二人乗トス

荷積車ハ其車臺ノ縱横相乘尺積(曲尺)十四坪以上ヲ大車トシ十四坪未満ヲ小車トス

○官用ノ船舶車馬ハ地方税ヲ賦課セサルノ件 (明治十五年十月二十八日 内務省大藏省達乙第五十七號)

官用ノ船舶車馬ハ明治十六年度以後地方税ヲ賦課スルヲ得サル義ト可心得此旨相達候事

但從前ノ達及指令之ニ矛盾スルモノハ廢止ス

○官用ノ船舶車馬ハ地方税ヲ賦課セサルノ件 (明治十六年四月十六日 本縣達乙第十三號)

郡區町村

官用ノ船舶車馬ハ明治十六年度以降地方税ヲ賦課スルヲ得サル旨其筋ヨリ達有之候條此旨相達候事

○皇族所有ノ馬車ハ地方税ヲ賦課セサルノ件 (明治十六年六月 内務大藏兩省達乙第三十號)

皇族所有ノ車馬ハ明治十六年度以降地方税賦課不相成候條此旨相達候事

二五〇

二五一

○他管ヨリ船車ノ賣買、讓渡ノトキ取扱方ノ件 (明治三十年二月二十五日 訓令第九號ヲ以テ各市役所へ訓令)

本縣下人民ニシテ他管ヨリ船車ノ賣渡若クハ讓渡ヲ受タル旨ノ届出アリタル時ハ其所轄郡市役所ニ於テ元所有者所屬ノ郡市役所ニ其旨通知スヘシ

○他管ヨリ船車ノ賣買讓渡ノトキ取扱方ノ件ニ付各府縣へ通知ノ件 (明治三十一年二月二十五日 地第四二號)

本縣下人民ニシテ他管ヨリ船車ヲ買受若クハ讓受タル旨ノ届出アリタル時其所轄郡市役所ヨリ元所屬郡市役所へ通知方ニ關シ往々他縣ヨリ依頼ノ向モ有之候ニ付今般前陳ノ場合ニハ必ス元所屬郡市役所へ通知ヲ致旨管下各郡市役所へ訓令致置候間御承知置相成度此段及通牒候也

○公用ニ供スル船車自轉車ニ關スル件 (明治三十七年八月廿六日 訓令第五十一號ヲ以テ内務部警察部 郡役所 所管長 市役所 町村役場 町村組合、水利組合へ訓令)

縣郡市町村其他公共組合ノ所有ニシテ直接公用ニ供スル船、車、自轉車ニハ官公署名ヲ記シタル烙印ヲ押捺スルカ又標識ヲ其物件ニ附着スヘシ

註記

本件中自轉車ニ付テハ大正六年九月ヨリ縣所定ノ免稅鑑札ヲ交付スルコトニ改メラル

○縣稅賦課取扱方ノ件 (明治二十一年五月十九日 地第一六八二號)

稅務主任書記協議會ヲ開キ候際主任ヨリ及御答候事項別紙ノ通り應議決定候條右ニ依リ御取扱相成度此段及通牒候也

十四、船車ハ勿論總テ物件ノ取得ノ日ヲ以テ納稅義務發生ノ起算點トス又其消滅ハ實際届出タル其ノ日ヲ以テ消滅シタルモノトス

○徵發物件ニ課稅セサル件 (明治三十八年四月十三日內一地第二五五五號) 各郡市長ニ通牒

今回ノ事變ニ際シ軍用トシテ徵發セラレタル各種荷積車及馬匹等ニシテ其補充ノタメ新ニ同種ノ物件ヲ取得シタルモノニ對シテハ自今其ノ期ノ縣稅ヲ其一ニ就キ算定シ重複ニ課稅セサル様御取扱相成度依命此段及通牒候也

○車臺新調ノモノニ課稅ノ件 (大正三年十二月二日地第六八五〇號) 內務部長ヨリ各郡市長ニ通牒

荷積車、荷積馬車ノ車臺若クハ車輪ノ全部ヲ新調シタルモノニ對シテハ新規取得ト見做シ取扱フコトニ豫メ決定致シ置候處往々右ニ據ラサル取扱ヲ爲ス向モ有之趣キ相聞得候條右ハ新規得ト見做シ無洩課稅候様御取扱相成度此段及通牒候也

○産業組合ノ物件ニ課稅スル件 (明治四十三年三月二十八日地第一七七二號) 內務部長ヨリ桃生郡長ニ回答

産業組合ニ於テ所得シタル物件ニシテ專ラ組合ノ事業ニ使用スルモノニ對シ縣稅賦課ノ件ニ關シ桃生財第 四六五號ヲ以テ御問合相成候處右ハ賦課規則中不賦課ノ規定ニ該當セサルモノナルヲ以テ相當賦課スヘキモノト存候條御承知相成度候也

○小船ト遊船トノ區分ノ件 (明治四十五年二月八日地第二五七〇號) 內務部長ヨリ宮城郡長ニ回答

宮財第三八七一號ヲ以テ松島鹽釜間ヲ航海スル小船中其船體ノ周圍ニ硝子窓ヲ据付主モニ松島遊覽客ノ乘

用ニ供スル小船ニ對シ遊船稅ヲ課スルノ可否ニ關シ照會相成候處右假令構造ヲ異ニスルモノナルニセヨ其供用ノ程度ニシテ他ノ遊覽客ノ運送船ト異ナラサルトキハ課目課額ノ遊船ニ該當セサル儀ト存候條此段及回答候也

○車積計算ニ關スル件 (大正元年十月十一日地第一二一九號) 內務部長ヨリ宮城郡長ニ回答

宮財第一〇六一號ヲ以テ船車検査手續ニ依ル荷積車ノ測定方法ニ關シ照會相成候處右ハ凡テ外法ニ依リ測定スヘキ儀ニ有之候又前棧ヲ車臺中ニ計算スルヤ否ニ關シ前棧ニシテ實際荷物ヲ搭載スルニ適當ナル構造ノモノハ車臺トシテ計算スルヲ相當ト存候條此段及回答候也

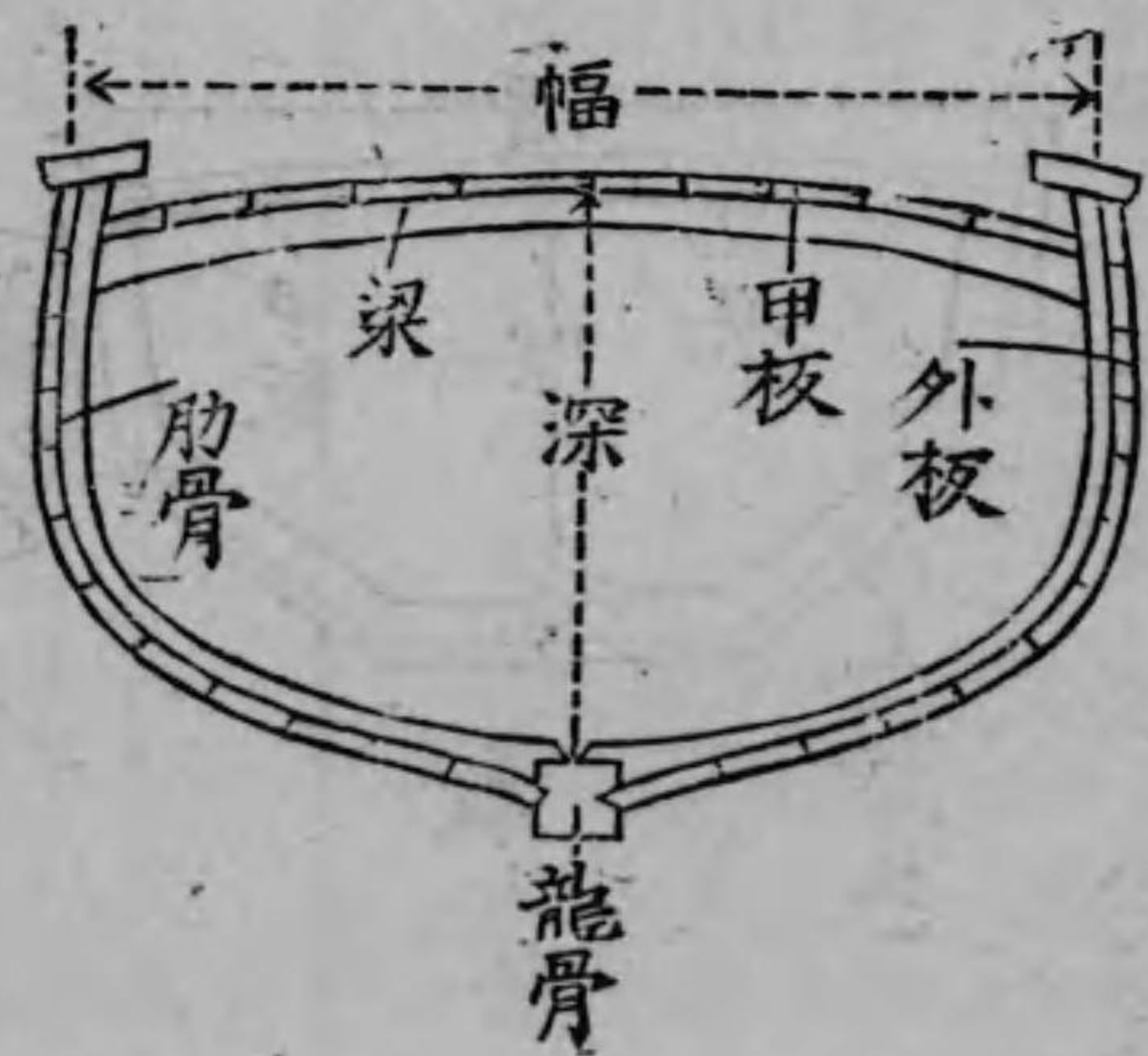
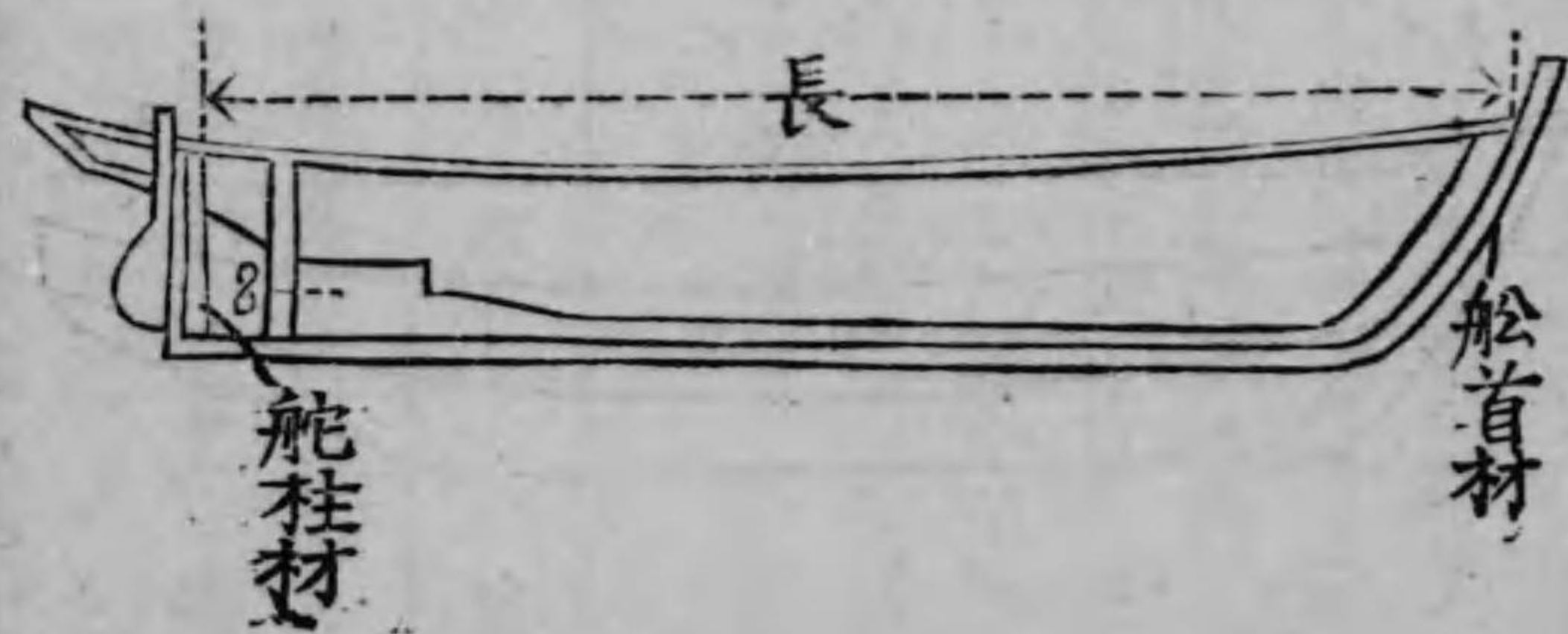
○船車ノ烙印ニ關スル件 (大正六年九月各郡市財務主任書記會ニ於テ指示)

船車ノ烙印ハ届出ト同時ニ之ヲ押捺スヘキモノナルニ届出濟ノ物件ニシテ往々烙印ナキモノヲ認ムル所ナリ殊ニ小船ニ最モ多キカ如シ如斯取扱ヲ爲ストキハ届濟ノモノト否ラサルモノトノ區別明カナラス縣稅賦課取縮上支障不尠ヲ以テ今後ハ届出ノ都度必ラス烙印ノ押捺ヲ爲サシムル様注意セラルヘシ

○荷積車体區分ニ關スル件 (大正六年九月各郡市財務主任書記會ニ於テ指示)

荷積車稅ハ車体ノ大小ニ依リ稅率ヲ異ニシ其測定方法ハ船車検査手續等ニ規定セラル、所ナルモ往々車臺ノ内法ヲ測定シテ區分スル向アルカ如シ人力車ハ内法ニ依ルモ其他ハ總テ外法ニ依リ計算スヘキ筋ニ付新規取得届出ノ場合ハ勿論船車検査ノ場合ニ於テ充分注意シ測定ニ誤謬ナキヲ期セラルヘシ

西 洋 型 船 ノ 部



○荷積車、荷積馬車ニ關スル件 (大正七年七月二十日開會) (各郡市主任書記會へ指示)

荷積馬車、荷積車ニシテ破損ノタメ車臺ヲ新調シ舊車輪ト組立テ使用スルモノハ新ニ納稅義務ノ起リタル物件トシテ取扱フヘキ事ハ大正三年十二月地第六八五〇號通牒ノ次第モアリ然ルニ近來之レヲ修繕トシテ處理セシモノアリ右ハ課稅上忌ムヘキ取扱ニ付總テ新車トシテ無洩課稅スル様注意ヲ要ス

○漁船ノ課稅方ノ件 (大正七年七月二十日開會) (各郡市主任書記會ニテ指示)

日本形小船(漁船)ニ石油發動器ヲ据付ケタルモノニ對シ往々西洋風帆形船稅トシテ噸數ニヨリ課稅スルモノアルモ右ハ從來ノ通り小船トシテ噸數ニヨリ課稅スヘキモノトス

註記

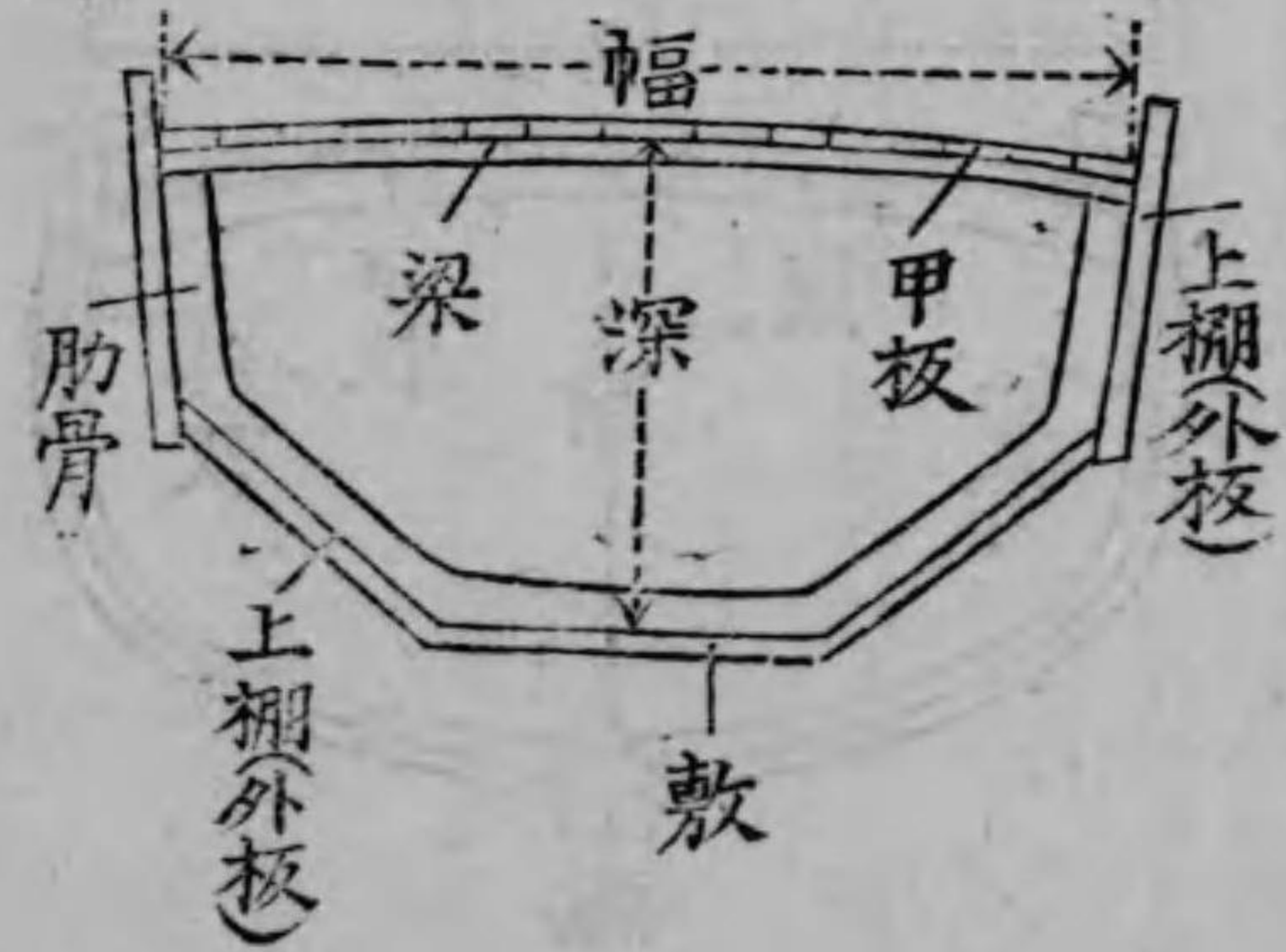
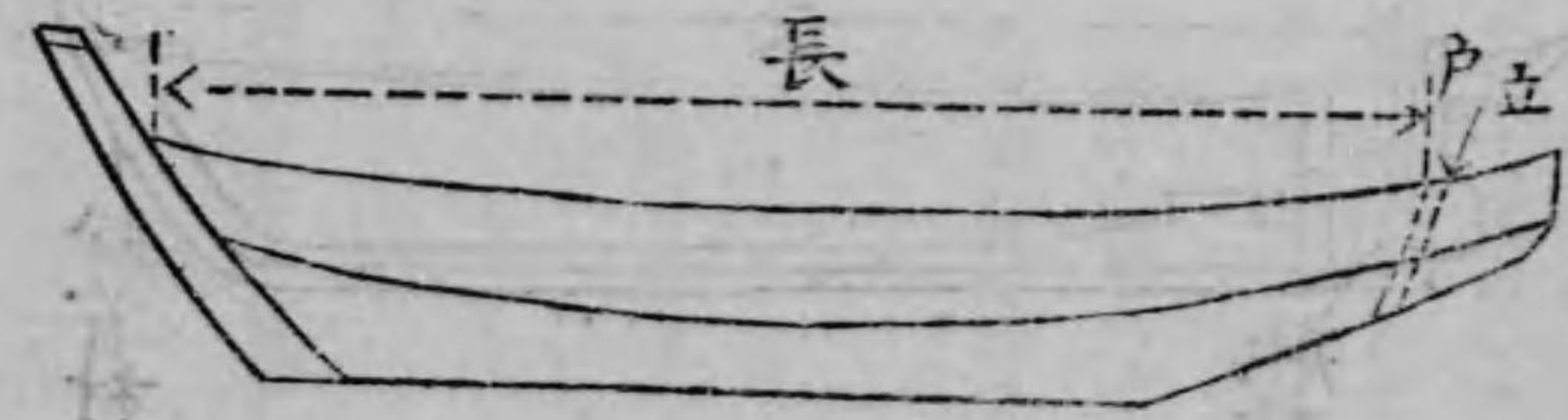
大正八年度ヨリハ課稅間數九間以上ノモノニ限リ西洋形トシテ取扱フコトニ改メラル

○實例

(船ノ區分形体)

課目課額ニ於テ區分シアル西洋形船及日本形船ノ形体區分ハ大概左ノ如シ

部ノ船型本日



第十編 縣稅賦課規則

二四四

二五六

○例判

(一定ノ年度ニ於ケル船舶ヲ縣沿岸ノ航行ニ配用シタル事實)

一定ノ年度ニ於テ船舶ヲ某縣沿岸ノ航行ニ配用シタルトキハ府縣制第百六條ニ所謂府縣内ニ於テ物件ヲ使用スルモノニ該當スルヲ以テ之ニ對シ縣稅船稅ヲ賦課シタルハ正當ナリ(大正二、九、二七、判決)

(所謂定繫所ト船舶航行ノ本據)

高知縣營業稅雜種稅取締規則第二條ニ所謂定繫所船舶航行本據ヲ指スルモノナルヲ以テ他ニ船籍港ヲ有スル船稅ニ付テモ亦其ノ適用アルモノトス(大正二、九、二七、判決)

(他府縣ニ於ケル納稅事實ト縣稅船稅ノ賦課)

他府縣ニ於ケル納稅ノ事實ハ府縣制第百六條ニ基ク縣稅船稅ノ賦課ヲ違法ト爲スニ足ラス(大正二、九、二九、判決)

二十九 水 車

○郡市長委任條件ニ關スル願届差出方拔萃

(大正三年四月十七日 縣令第二十二號)

左記載スニル一乃至二十一ノ事件ハ郡長ニ其五ノ事件ハ市長ニ委任セシニ依リ該件ニ關スル願届等ハ郡長市長ニ差出スヘシ

第五、水車設置願處分ノ事但縣負擔ノ河川道路及補助河川ニ係カルモノハ除ク

二五七

○郡市長委任條件拔萃 (大正三年四月十七日) 訓令甲第十九號

郡市長委任條件左ノ通改正ス

郡長委任條件

第五、水車設置願處分ノ事但縣負擔ノ河川道路及補助河川ニ係ルモノハ除ク

○判例

(水車税ノ賦課)

營業税法ニ依リ府縣稅ノ賦課ヲ受サル水車營業者ニ對シ尙ホ雜種稅トシテ水車ヲ目的トシ春臼、搗臼ノ個數ニ依リ縣稅ヲ賦課スルモ同法第三十六條ノ規定ニ抵觸セス(三六、二二、判決)

三	十	牛
三十一	一	馬

○牛馬稅納入ノ濟否等報告方ノ件 (明治三十八年五月訓令第一八號ヲ以テ) 郡役所、市役所、町村役場訓令

本年訓令第十七號(牛馬籍登錄規則)ニ依リ牛馬ノ異動ヲ報告又ハ通知スルトキハ報告書ニ別欄ヲ設ケ又ハ便宜ノ方法ニ依リ其ノ期ノ稅額賦課及納入ノ濟否(乳牛及乘馬ヲ除ク)ヲ報告又ハ通知スヘシ

○營業許可ノ際、郡、市長へ通知方ノ件 (明治卅八年五月) 郡訓示第三十四號

警察官署ノ許可ヲ受ケ若クハ届出ヲ要スル營業行爲又ハ製造場等ノ設置ニシテ縣稅ノ賦課ニ關係アルモノハ其ノ許可又ハ届出ノ都度其ノ營業行爲等ノ種別場所共氏名許可届出ノ年月日並ニ廢業、轉居、改氏名其他異動アル事項左記該當ノモノニアリテハ其ノ附記ノ事項ヲ其所轄郡市長へ通知セララルヘシ
一、乳牛 所有者ノ住所氏名及牛乳ノ頭數

○縣稅賦課ニ關シ取扱事項拔萃 (明治三十八年四月十四日內一地第二五五六號) 內務部長ヨリ各郡市長ヘ牒

縣稅ヲ賦課スヘキモノ及其稅率ヲ變更シタルモノニ關シテハ大要左ノ各項ニ依リ御取扱相成度(以下略ス) 依命此段及通牒候也

六、乳牛

乳牛ノ數ハ所轄警察署ニ於ケル乳牛許可ノ數ト突合セシメ確定スルヲ要ス

乳牛ハ其所在地ニ於テ所有者ニ賦課スヘキモノトス

○乳牛稅ニ關スル件 (明治四十三年十一月十四日地第八八四六號) 內務部長ヨリ宮城郡ニ回答

宮財第三五六八號ヲ以テ縣稅雜種稅中乳牛所有者カ一期ノ中間ニ於テ乳牛ヲ廢シタル場合ニ於テ乳牛稅以外更ニ牛稅ヲ賦課スヘキヤ否ヤノ件ニ付照會相成候右ハ牛乳稅而已ヲ賦課スヘキ儀ト存候條此段及回答候也

○賦課額三十錢以上ノモノ課稅方ノ件 (大正二年十月三日內務) 部長ヨリ本吉郡ニ回答

本財第一六七三號ヲ以テ二頭以上ノ牛馬ヲ所有スルモノニシテ其ノ賦課額三十錢ヲ超ユルモノニ對シテハ水車稅納稅義務者ニシテ搦曰ニ基以上ヲ所有スルモノト同様上半年期下半年期二期ニ賦課スヘキモノナルヤ否ヤノ件ニ關シ御問合相成候處右ハ水車稅ノ搦曰ハ水車稅賦課額計算ノ標準タルニ止マリ曰毎ニ賦課スヘキモノニアラサルヲ以テ年額三十錢以上ノ水車稅ヲ二期ニ賦課スヘキモノナルモ牛馬稅ハ賦課規則第十四條第二項ニ依リ一物件毎ニ賦課スヘキモノナルヲ以テ假令二頭以上ヲ所有スルモ一頭毎ニ賦課額ヲ定メ一期ニ賦課スヘキモノト存セラレ候條此段及回答候也

○牛馬稅賦課ニ關スル件

(大正六年九月各郡市財務主任書記會ニ於テ指示)

牛馬ハ賣買交換等頻繁ニ異動アルモ所有者ハ其異動届出ヲ怠ルモノ少ナカラズ就中納稅義務發生ニ係ルモノ、届出遲滯スルカ如シ今後ハ一層此等異動ノ届出ヲ勵行セシメラル、ト共ニ牛馬登錄規則施行細則ニ依ル牛馬ノ檢査ヲ實行シテ牛馬籍名簿ノ對照ヲ行ヒ且異動届出ノ際ハ速カニ其加除ヲ行ハシメ賦課資料ヲ正確ニシ以テ縣稅賦課ノ洩レナキヲ期セラルヘシ

○牛馬稅ニ關スル件

(大正七年七月二十日開會各郡市主任書記會指示事項)

縣稅牛馬稅ハ牛馬登錄規則ニ依ル牛馬名簿ニ登錄シタル牛馬數ヲ課稅ノ資料トシテ其ノ納稅義務額ノ測定ヲ爲スヘキ取扱ナルニ近來該名簿ノ整理ヲ欠キ課稅資料ト爲スニ足ラサル町村アリ如此各種ノ方面ニ於テ重要ノ効果ヲ有スル公簿ノ整理ヲ欠カカ如キハ看過スヘカラサル儀ニ付此ノ際完全ナル整理ヲ遂ケシメ一見其ノ異動ノ沿革ヲ明瞭ナラシメ一面ニハ牛馬稅ノ隨時賦課ヲ行ヘ課稅上遺憾ナキヲ期セラルヘシ

牛馬名簿ノ整理ニ關シテハ左記事項注意勵行スルヲ要ス

- 一、届出年月日記入スル事
- 一、除籍年月日及除籍ノ事由ヲ記入スル事
- 一、賣買人ノ住所氏名ヲ記入スル事
- 一、異動ヲ關係市町村長ニ通知スルトキハ同時ニ納稅ノ濟否モ必ス記入通知スル事
- 一、規定ニ依ル牛馬ノ檢査ヲ勵行スル事
- 一、除籍ニ係カルモノ、名簿ハ別綴トシテ必ス保存スル事
- 一、牛馬異動ノ場合隨時分ノ課稅ヲ爲サ、ルモノ甚タ多キハ不都合ニ付必ス課稅スル事
- 一、納稅ノ濟否不明ナル牛馬ニ對シテハ課稅スル事
- 一、牛馬名簿整理ノ狀況ハ事務監査、縣稅檢査、滯納處分等ノタメ町村へ出張ノ際ハ必ス調査スル事

三十一ノ二 畜

犬

○畜犬ニ對スル課稅ニ關スル件拔萃

(明治四〇年三月地第三七二〇號第一部長ヨリ各郡市長へ通牒)

明治四十年度縣稅中建物建築及畜犬ハ新規ノ課稅ナルヲ以テ納稅義務者ノ届出ニ關シテハ充分御注意相成尙左記各項御含ミ相成度依命此段及通牒候也

記

- 四、畜犬税ハ其ノ家犬ナルト獵犬ナルト其ノ他用途ノ如何ヲ問ハス總テ賦課スルモノトス
- 五、不課税ニ屬スル當歳ノ畜犬ハ滿一歳迄トス
- 六、畜犬ニハ鑑札ヲ下付スルヲ要セス

○賦課額三十錢以上ノモノ課税方ノ件

(大正二年十月三日内務部
長ヨリ本吉郡長ニ回答)

本財第一六七三號ヲ以テ二頭以上ノ畜犬ヲ所有スルモノニシテ其ノ賦課額三十錢ヲ超ユルモノニ對シテハ水車税納稅義務者ニシテ搗臼ニ基以上ヲ所有スルモノト同様上半年期下半年期ノ二期ニ賦課スヘキモノナルヤ否ヤノ件ニ關シ御問答相成候處右ハ水車税ノ搗臼ハ水車税賦課額計算ノ標準タルニ止マリ白毎ニ賦課スヘキモノニアラサルヲ以テ年額三十錢以上ノ水車税ヲ二期ニ賦課スヘキモノナルモ畜犬税ハ賦課規則第十四條第二項ニ依リ一物件毎ニ賦課スヘキモノナルヲ以テ假令二頭以上ヲ所有スルモノ一頭毎ニ賦課額ヲ定メ一期ニ賦課スヘキモノト存セラレ候條此段及回答候也

○畜犬税賦課ニ關スル件

(大正六年九月各郡市財務主任
書記會ニ於テ指示)

畜犬ノ數ハ年ヲ逐フテ増加スルノ傾向アリト雖トモ其ノ届出ヲ爲スモノ稀ナリトス是等ノ調査ハ極メテ容易ナルヲ以テ此際一齊ニ調査ヲ遂ケ届出洩レナキヲ期セラルヘシ

○畜犬取締ニ關スル件

(大正六年十二月六日地第五八六八號ヲ以テ
警察部長内務部長ヨリ警察署ニ通訓)

畜犬ヲ所有スル者ハ縣稅納稅義務者届出規則第二條ニ依リ取得ノ日ヨリ五日以内ニ市町村長ニ届出ヘキ規定ナルニ近來其届出ヲ爲サス飼育スル者著シク増加シ逋脫稅者取締上甚遺憾ノ次第ニ付是等逋脫稅者ノ取締ニハ畜犬ト野犬トノ區別ヲ明カニスルノ必要有之候條畜犬取締規則ニ依ル首輪ノ附着ヲ勵行セシメラレ度此段及通牒候也

三十一ノ三 自 働 車
三十二 自 轉 車

○他管ヨリ船車ノ賣買讓渡ノトキ取扱方ノ件

(明治三十年二月二十五日訓令第
九號ヲ以テ各郡市役所ニ訓令)

本縣下ノ人民ニシテ他管ヨリ船車ノ賣渡若クハ讓渡ヲ受タル旨ノ届出アリタル時ハ其所轄郡市役所ニ於テ元所有者所屬ノ郡市役所ヘ其ノ旨通知スヘシ

○他管ヨリ船車ノ賣買讓渡ノトキ取扱方ノ件ニ付各府縣ヘノ通知ノ件 (明治三十年二月二十五日地第四四二號) (ヲ以テ各府縣ヘ通知)

本縣下人民ニシテ他管ヨリ船車ヲ買受若クハ讓受タル旨ノ届出アリタル時其所轄郡市役所ヨリ元所屬郡市役所ヘ通知方ニ關シ往々他縣ヨリ依頼ノ向モ有之候ニ付今般前陳ノ場合ニハ必ス元所屬郡市役所ヘ通知可致旨管下各郡市役所ヘ訓令致置候間御承相成度此段及通牒候也

○縣稅賦課取扱方ノ件 (明治三十年五月十九日地第一六八二號) (ヲ以テ內務部長ヨリ各郡市長ヘ通牒)

稅務主任書記協議會ヲ開キ候際主任ヨリ及御答候事項別紙ノ通り應議決定候條右ニ依リ御取扱相成度此段及通牒候也

記

十四、船車ハ勿論總テ物件ハ取得ノ日ヲ以テ納稅義務發生ノ起算點トス又其消滅實際届出タル其ノ日ヲ以テ消滅シタルモノトス

○自轉車鑑札交付手續 (大正六年九月訓令甲第六號) (大正八年三月三十日) (六年九月訓令第二十一號改正) (訓令甲第九號改正)

一、自轉車鑑札ノ交付ヲ請フモノアルトキハ郡市役所ニ於テ之ヲ車臺前方ニ卷キ付ケ分解シ得サル様取付ケヲ爲スヘシ

二、自轉車修繕又ハ解車ノ爲鑑札ノ返納ヲ申出タルトキハ市町村長ニ於テ之ヲ切離シ市長ハ知事町村長ハ郡長ニ送付スヘシ

三、自轉車修繕ノ爲メ鑑札ヲ返納シ又ハ鑑札ヲ亡失毀損シ鑑札ノ押收セラレタルニ依リ再渡請フモノアルトキハ物件臺帳ニ對照シ鑑札ノ存在スルモノハ其番號ヲ照查シテ且ツ鑑札再交付手数料納入濟證ヲ認メタル後ニ於テ再交付ノ手續ヲ爲スヘシ

四、縣稅納稅義務者届出規則改正ニ依リ自轉車鑑札ノ交付ヲ申出タルトキハ物件臺帳ニ對照シ其登記濟ノモノニ限リ第一項ノ手續ニ依リ舊鑑札引換ニ交付スヘシ

五、郡長ニ於テ自轉車鑑札ヲ交付シタルトキハ其番號及住所氏名ヲ町村長ニ通知スヘシ

六、鑑札再交付手数料ハ郡市長ニ於テ納入ニ納入書(收入科目及住所氏名ヲ記入ノ上)ヲ交付シ直チニ縣支金庫ニ納入セシムヘシ

但市ニアリテハ縣廳內縣支庫ニ納入セシムヘシ

七、鑑札ノ再交付ヲ了シタルトキハ手数料納入濟領收證ニ左記雛形ノ印ヲ押捺スヘシ

自轉車再交付濟

○自轉車異動通知書ニ鑑札番號記載ノ件 (大正二年九年地第六〇八四號) (內務部長各ヨリ郡市長ヘ通牒)

縣稅賦課細則第二十一條ニ依ル自轉車ノ異動通知書(第十號)ニハ鑑札番號ヲ記載スヘキ取扱ニ無之課稅物件ノ取締上往々支障ヲ生スル場合有之趣ニ付自今自轉車ノ異動通知ヲ爲ストキハ通知書中適宜鑑札番號ヲ記入セシメ候様致度此段及通牒候也

○執達吏役場ノ物件ニ課税スル件 (大正二年十月廿三日地第五九九九號) (内務部長ヨリ本吉郡長ニ回答)

本庶第一七〇〇號ヲ以テ執達吏役場備付ノ自轉車ハ不賦課物件トシテ處理スヘキヤ否ヤニ關シ御照會ノ處右ハ縣稅賦課規則第二十三條第十五號ニ該當セサルヲ以テ課稅物件トシテ御取扱相成可然此段及回答候也

○三等郵便局ニ於ケル電信用自轉車ニハ課稅セサル件 (大正四年九月伊具郡長照會) (大正五年三月内務部長回答)

三等郵便局ハ其局ニ於ケル電報用ノ自轉車ハ請負事業ニ屬スルヲ以テ電信法第十一條及賦課規則第二十三條第十五項ノ範圍外ト認メ課稅スヘキモノト被存候ヘ共一應御意見承知致度候條御取調ノ上何分ノ御回報ヲ煩度此段及御照會候也

(大正五年三月地第一三九七號) (内務部長回答)

伊財第一〇九三號ヲ以テ三等郵便局ニ於ケル電信用自轉車ニ對スル課稅ノ件照會相成候處右ハ電信專用ノ物件トシテ其ノ筋ノ承認アルモノニ限り電信法第十一條ニ該當シ縣稅ヲ課セサル物件トシテ御取扱相成度此段及回答候也

○三等郵便局ニ於ケル自轉車ニ課稅方ノ件 (大正五年三月三日地第一三九八號) (内務部長ヨリ各郡市長ニ通牒)

普通三等郵便局ニ於テ電信用トシテ設備スル自轉車ハ電信法第十一條ニ該當スル物件トシテ縣稅ヲ課スルヲ得サルモノナルヤ否ヤノ件往々疑義ヲ生シ伺出ノ向モ有之候處右ハ電信專用ノ物件トシテ其筋ノ承認アルモノニ限り電信法第十一條ニ該當シ縣稅ヲ課セサル物件トシテ御取扱相成度此段及通牒候也

○自轉車取締ニ關スル件 (大正六年九月七日地第四五〇一號ヲ以テ) (警察部長及内務部長ヨリ各警察署長ヘ通牒)

自轉車ヲ所有スルモノハ縣稅納稅義務者届出規則第二條ニ依リ取得ノ日ヨリ五日以内ニ市町村長ニ届出テ鑑札ノ交付ヲ受クヘキ規定ナルニモ係ハラス近來其届出ヲ爲サス無鑑札ノ儘乗用シ若クハ交付ヲ受ケタル鑑札ヲ恣ニ他ノ自轉車ニ取付ケ使用スルモノ有之通脫稅者取締上遺憾ノ點不少候ニ付今般該鑑札様式ヲ改正シ絶對ニ取り離シ得サル装置ト爲シタルニ依リ今後無鑑札ニテ乗用ノモノ又ハ其取付ヲ破壊シタル者ハ同届出規則第十二條違反者トシテ相當處分ヲ行ヒ其取締ヲ嚴重ニ執行相成度此段及通牒候也

○自轉車鑑札ノ再交付者ノ氏名報告方ノ件 (大正六年九月二十六日地第四七四五號) (内務部長ヨリ各郡市長ヘ通牒)

自轉車鑑札ヲ紛失又ハ盜難等ニ依リ返納シ得サル者アル場合ハ其都度縣報ニ掲載シ取締ヲ嚴重ニ致シ度候ニ付紛失等ノ届出アルトキハ左記様式ニ依リ御報告相成度此段及通牒候也

左記

紛失又ハ盜難 年月日	自轉車鑑札 番號	紛失又ハ盜難 場所	事由	納稅義務者 住所一氏名

備考

事由欄ニハ自轉車ニ附着ノ儘盜難ニ罹リ若ハ鑑札ノミ取離サレタル等其狀況ノ要領ヲ記載ス

○自轉車免稅鑑札交付ノ件

(大正六年九月十五日地第四六〇〇號)
縣ヨリ縣内ノ官公署及學校へ通牒)

官廳公署學校等ノ備付ニシテ専用又學校等ノ用ニ供スル自轉車ニハ其官廳公署學校名等ヲ記シタル標識ヲ附着スルコトニ豫テ御協議致シ置キ候處近來官廳公署等ノ標識ニ紛ラシキモノヲ附着セル自轉車有之取締上支障不尠候ニ付今後官廳用等ノ自轉車ニ屬シ免稅鑑札ヲ附着シ有稅自轉車トノ區分ヲ明カニ致度候ニ付左記事項御諒承ノ上此際所轄郡市役所ニ鑑札ノ取付ケヲ御要求相成候様致度此段及照會候也
追テ御所管ノ廳署其他ノ出張所等有之候場合ハ本文ノ趣旨御示達相煩シ度申添候也

記

一、免稅鑑札ハ官廳公署學校等ノ經費ヲ以テ購入シ又ハ其備品トシテ讓受ケ直接其使用ニ供スル自轉車ニ限ルコト

但寄附ヲ受ケタル自轉車ニシテ寄附者ノ専用ニ係ルモノハ本鑑札ヲ交付セサルコト

二、鑑札御要求ノ際ハ購入又ハ讓渡年月日並用途ノ定メアルモノ又専用者アルトキハ其官職氏名ヲ指示相成度コト

三、解車又ハ公用ヲ應シタルトキハ便宜鑑札ヲ切取り當初交付ヲ受ケタル郡市役所ニ還付スルコト

四、遠距離ノ地ニシテ鑑札ヲ受ケタル爲メ出張スルヲ困難ナリトスル場合ハ郡吏員ノ出張取付ケヲ御要求相成差支無之コト

以上

○公用専用ノ自轉車ノ課稅方ノ件

(大正六年十月五日地第四七九三號)
ヲ以テ本縣ヨリ三重縣へ回答)

警察官署ノ備品ニアラスシテ警察官吏カ職務ノタメ使用シ又ハ所有スル自轉車ニ對シ課稅方ノ件御照會相成候處右ハ何レモ課稅致シ居リ候此段及回答候也

○公用ノ自轉車區分ノ件

(大正七年十一月地第五七四三號)
内務部長ヨリ栗原郡ニ通牒)

貴郡内村有ノ自轉車ニシテ免稅鑑札ノ交付ヲ受ケ其ノ村内巡查駐在所ノ専用車ニ供シ居ルモノ有之趣ニ候處右ハ縣稅賦課規則第二十三條第十五項ノ公用ニ供スル物件ニ該當セサル義ニ候條交付濟鑑札ハ之レヲ取上ケ候様御取扱相成度此段及照會候也

○自轉車取締及課稅方ニ關スル件

(大正七年七月廿日開會各)
郡市主任書記會ニ指示)

自轉車鑑札ヲ毀壞剝離シ之レヲ新車ニ附着乘用シ脫稅ヲ企ツルモノ漸ク多カラントスルノ傾向アリ各位ハ左記事項ニ依リ取締ヲ嚴重ニシ課稅洩レナキヲ期セララルヘシ

一、解車届出ヲ爲スタメ納稅義務者ニ於テ鑑札ヲ撤去提出シタルモノニ對シテハ毀壞ノ事由及車体ノ實地ヲ調査シ其ノ事由ヲ記述セシ書面ヲ徵スル事

一、解車トナラサル車輛ヲ解車トシテ届出テ脫稅ヲ計ルモノアリ其ノ届出アル時ハ事實ヲ精査シテ届書ヲ受理スル事

一、破損ノタメ修繕又ハ車臺ノ塗替ニ名ヲ籍リ新車臺ヲ買入レ舊車輪ヲ組立テ修繕出來トシテ鑑札ノ再下付ヲ乞ヒ脫稅ヲ計ル奸詐手段アリ之等ハ精密注意ヲ拂ヒ取締ヲ要ス若シ木件ニ該當ノ物件ヲ發見シタ

ルトキハ新ニ納稅義務ノ起リタル物件トシテ課稅スルヲ要ス
一、本年度ノ船車檢査施行ノ際ハ特ニ鑑札ノ毀壞ノ有無鑑札番號等一輛毎ニ臺帳ニ對照點檢シ脫稅ノ有無ヲ精査スル事

一、毀壞シタル鑑札ヲ附着シタル物件ハ脫稅ヲ計リタルモノト見做シ課稅ノ取扱ヲ爲ス事

一、町村長ヨリ送付セラレタル返納自轉車鑑札ハ町村長ニ於テ切り取りタルモノナリヤ將タ納稅義務者ニ於テ毀壞シタルモノナルヤ精査ヲ遂ケ脫稅ノ有無ヲ取調フル事

一、舊鑑札ト改正鑑札トノ交換ヲ要求セサルモノ往々アリトノコトナリ右ハ反則者トシテ此際嚴重處理ヲ要ス

一、改正自轉車鑑札ノ毀壞ヲ爲シタルモノハ事情ノ如何ヲ問ハズ郡市町村長ハ反則者トシテ告發處分ヲ爲ス事

此ノ場合鑑札毀壞破者カ自轉車ノ所有者ニアラサルトキハ刑法第二百六十一條違犯者トシテ知事ノ委任ヲ受ケ告發ノ手續ヲ爲スヘシ

○自轉車鑑札取扱方ニ關スル件 (大正八年一月九日地第(二五號)ヲ以テ各郡市長へ通牒)

縣稅納稅義務者届出規則第十條ニ依リ自轉車鑑札ノ返納ヲ申出タル者有之場合ハ市町村長ニ於テ之レヲ切離シ撤去スヘキ規程ニ有之候處納稅義務者ニ於テ毀壞剝離シ提供シタルモノヲモ町村長ニ於テ切離シタルカ如ク裝ヒテ之ヲ郡長ニ送付シ其ノ再渡ヲ請ハシメタル者有之哉ニ相聞エ候處右ハ犯則ヲ幫助スル取扱ニ

シテ甚ダ不都合ノ次第ニ候條監督上十分ノ注意ヲ拂ヒ違反者ト認メタルモノ對シテハ假籍ナク告發ノ手續ヲ爲シ嚴重御取締相成度此段及通牒候也

三十二ノ二 炭 竈

○產物賣拂ノ際通報方ノ件 (大正七年八月十五日地四六一〇號ヲ以テ宮城縣ヨリ盛、銀治谷澤、仙臺、石巻、白石ノ各小林區署へ照會)

調査上入用ノ義有之候條本縣地内所在ノ國有林野ニ於ケル產物中、薪製炭用ノ原木其他立木ノ拂受ノ出願又ハ入札ノ結果其許可ヲ與ヘラレタルモノ有之候ハ、其ノ拂受人ノ氏名等別紙様式ニ依リ賣拂許可ノ都度御通報ヲ煩ハシ度此段及御依頼候也

追テ大正六年一月ヨリ同七年八月マテノ間ニ於テ賣拂ヲ爲シタルモノ有之候ハ、御取調ノ上御通報ヲ煩ハシ度此段申添候也

(別紙様式)

賣拂國有林野所在地名	受買出願ノ目的	賣拂林野ノ面積及材積	賣拂許可年月日	賣拂物件搬出期限	賣拂人所氏名	備考
何(町)村大字(何)	製炭用(又薪用)	何町歩又(何百石)	年月日	年月日	郡市町村番地	某

備考

一、賣拂條件トシテ炭竈築造個數ニ制限ヲ與ヘタルモノハ其制限數共備考欄ニ記入スル事

○炭竈調査資料ニ關スル件

(大正八年一月七日地第七一號ヲ以テ縣ヨリ廢、澁谷谷澤、仙臺、石巻、白石ノ各小林區署長ヘ依頼)

薪炭材トシテ國有林野產物拂下ノ結果炭竈築造ノタメ敷地ヲ使用スル者ニ對シ其ノ使用料ヲ徵收セラル、
趣承知致シ候處右ハ本縣々稅炭竈稅ノ賦課調査資料トシテ入用有之候ニ付時々本縣吏員ヲ出張セシメ調査
致サセ候條其ノ調査ノ際ハ諸事便宜ヲ與ヘラレ候様御取計ヲ煩度此段及御依頼候也

○炭竈調査方ノ件

(大正七年七月二十日開會各郡市財務主任書記會ニテ指示)

炭竈稅ハ大正七年度ヨリ課稅スヘキ新稅ニ屬シ其竈數ノ調査容易ナラサルヘキモ各町村長ハ豫メ其町村内
ノ製炭生産高ヲ大凡ソ一竈ノ生産高ヲ以テ除シ大体ノ炭竈數ヲ調査シ置キ時々各區長ヲシテ毎戶炭竈ノ築
造有無ヲ調査セシムル等努メテ逋脫稅者ナキヲ期セラルヘシ

○實例

(土地使用料)

炭竈築造ノタメ土地使用料ヲ林區署ニ於テ徵收スルモノハ其拂下區域外ニ於ケル林業付帯ノ貸付ニ付テ
ノミ料金ヲ徵スルモノトス

三十三 電 柱
三十三ノ一 (削 除)

○電柱稅ハ電柱建設届書ヲ受理シタル市町村ニ於テ徵收ノ件

(大正三年四月地第三一五三號) (内務部長ヨリ各郡市長ヘ通牒)

大正三年度ヨリ新設ニ係ル縣稅電柱稅ノ賦課徵收ニ關シテハ縣稅納稅義務者届出規則第十一條但書(三月
三十一日縣令第十七號改正)ニ依リ届書ヲ受理シタル市町村ニ於テ賦課徵收ノ御取扱相成度依命此段及通
牒候也

追テ本稅ニ伴フ市町村稅附加稅ノ賦課徵收ニ關シテハ届書ヲ受理シタル市町村長ヨリ之カ課稅標準ヲ關
係市町村長ニ通知スル様御取計相成度申添候也

○電柱稅賦課ニ關スル件

(大正三年五月十四日地第三三一七號) (内務部長ヨリ仙臺市長ニ通牒)

仙臺賦第一四七二號ヲ以テ上申相成候市ノ公用ニ供スル電柱ニ對シ縣稅電柱稅ヲ賦課セサルノ件ハ御意見
ノ通リニ候條經伺ノ上此段及通牒候也

○電柱ノ支柱支線ハ課稅標準中ニ算入セサル件

(大正三年九月地第五六七八號) (内務部長ヨリ各郡市長ヘ通牒)

縣稅雜種稅電柱稅賦課ノ標準タル電柱ハ本柱ノミヲ計算スルモノナルヤ又ハ支柱支線ヲモ算入スルモノナ
ルヤ疑義ヲ生スル向モ有之哉ニ及開候處今回支柱支線ハ課稅標準中ニ算入セサルコトニ決定相成候條右ニ
依リ御取扱相成度依命此段及通牒候也

○市送電線ト市外送電線トニ混用スル電柱等ニ對スル課稅ニ

關スル件

(大正八年一月地第六五三四號) (内務部長ヨリ各郡市長ヘ通牒)

仙臺市長伺出ニ係ル電柱稅賦課ニ關スル疑義ニ付左記ノ通同市長ヘ通牒致置候御心得ノ爲メ此段及通牒候
也

電柱税賦課ニ關シ左記事項疑義ニ相涉リ候條至急何分ノ義御指示相仰キ度此段稟申候也
(大正三年十月仙電發第七二九號)
仙臺市島伺

記

一、市ノ送電線(營造物)ト市外送電線トニ混用スル電柱(白石發電所ト沼邊變電所間ノ如キモノ)ニ對シテハ課税スヘキモノト心得可然哉又其ノ混用線ヨリ更ニ岐レテ單純ナル市内送電線用ニ供スル電柱(沼邊變電所ト仙臺市間)ニ對シテハ不課税ノ取扱ヲ爲スヘキモノト心得可然乎

附記

沼邊變電所ニテハ仙臺、角田、大河原、村田等ニ送電ス

(大正三年一月地第六〇五號)
內務部長通牒

仙電發第七二九號ヲ以テ電柱税賦課ニ關スル疑義稟申相成候處右ハ御意見ノ通御取扱相成可然ト存候此段及通牒候也

○電柱税課税區分ニ關スル件

(大正四年三月地第一七〇二號)
內務部長ヨリ各郡市長ヘ通牒

大正四年度ヨリ電柱税ハ配電用ト送電用トノ税率ヲ異ニセラレ候處右ハ左ノ區分ニ依リ課税スルコトニ廳議決定相成候條此段及通牒候也

記

一、引込線又ハ電燈ヲ有シタル電柱ハ配電用トス

二、配電用ニ屬セサル電柱ハ總テ送電用トス

三十三ノ二 財產取得

○縣稅雜種稅財產取得稅賦課手續

(明治四十一年五月五日訓令甲第二十二號)
內務部郡市役所町村役場ヘ訓令

第一條 縣稅雜種稅財產取得稅ノ課稅標準ハ仙臺市所在ノ登記官署ノ管轄ニ屬スルモノハ內務部ニ於テ其他ハ登記官署所在地郡役所ニ於テ毎年四回登記官署ニ就キ其事項ヲ調査スヘシ

前項財產ノ所在地他郡ニ屬スルモノアルトキハ直ニ(財產取得ノ契約他郡ニ涉ルモノニシテ登記價格區分ナキモノハ其決定ノ郡度)調査ヲナシタル內務部長又ハ郡長ヨリ財產所屬ノ郡長ニ通知スヘシ

第二條 財產取得ノ契約ニ市町村以上ニ涉ルモノニシテ其市町村毎ノ登記價格區分ナキモノアルトキハ新所有者ヨリ市町村毎ノ價格ヲ申告セシメ之ヲ區分ス

前項該當ノ事實市ト郡トニ涉ルモノハ內務部長ヨリ市長ニ、町村ニ係ルモノハ郡長ヨリ新所有者居住地ノ町村長(新所有者ノ居住地他郡市ニ係ルトキハ重モナル財產所在地ノ町村長)ニ其要領ヲ移牒シ市町村長ハ相當期限ヲ指定シ新所有者ヲシテ市町村毎ノ價格ヲ申告セシムヘシ

市町村長前項ノ申告ヲ受ケタルトキハ直ニ市長ハ知事ニ、町村長ハ郡長ニ進達スヘシ若シ指定ノ期限迄ニ申告セサルモノアルトキハ其旨報告スヘシ

前項申告額ヲ不相當ト認ムルトキ及指定ノ期限迄ニ申告セサルモノアルトキハ市ト郡トニ涉ルモノハ知事、町村ニ係ルモノハ郡長之ヲ査定ス其郡ト郡トニ涉ルモノニ在リテハ關係郡長協議ノ上之ヲ査定スヘシ

第三條 第一條ノ調査ヲ了シ(第二條ニ該當スルモノヲ除ク)又ハ通知ヲ受ケタルトキ及第二條ノ價格決定シタルトキハ之ニ基キ財產取得稅ヲ測定スヘシ

前項ノ測定ニ基キ發スル徵稅令書ニハ納稅義務者ノ一人別調査ヲ添付スヘシ

第四條 市町村長ハ前條一人別調査ニ土地登記濟通知ヲ對照シ若シ符合セサルモノアルトキハ市長ハ知事ニ、町村長ハ郡長ニ報告スヘシ

郡長ハ前項ノ報告中他郡市所在ノ登記官署ノ管轄ニ屬スルモノアルトキハ之ヲ登記官署所在地ノ郡長又ハ內務部長ニ通知スヘシ

前二項ノ報告又ハ通知ヲ受ケタル事項ハ次回調査ノ際其事由ヲ調査スヘシ

第五條 財產取得稅收入年度所屬ハ登記濟ノ日ニ依リテ區分ス

第六條 第一條ニ依ル調査、他郡ニ屬スルモノ、通知書及測定一人別調査ハ別記様式ニ依ルヘシ

前項ノ調査及通知書ハ財產取得稅測定ニ關スル要領ヲ記載シ一括編綴シ置クヘシ

(別記様式)

財產取得稅一人別調査(通知書)

財產所在地	財產種別	登記濟年月日	所有權移轉ノ原因	價格	稅額	新所有者	舊所有者	備考
計								

備考

一 此調査ハ一市町村毎ニ別紙トナスヘシニ市町村以上ニ涉ル不動産ノ價格區分ナキモノニ付テモ亦

- 同シ
- 二 財産所在地欄ニハ市町村名ヲ記載スヘシ
- 三 財産種別欄ニハ「土地」「建物」「土地建物」ト記スヘシ
- 四 新所有者及舊所有者ノ欄ニハ其住所ヲモ記載スヘシ
- 五 他郡ヘノ通知書ニハ税額ヲ記スルニ及ハヌ通知ヲ受ケタル郡役所ニ於テ調定ノ際其税額ヲ算出記入スヘシ

○課税期間ノ件

(大正七年二月十九日内務省六城地
第二七三號内務大臣許可)

大正六年十二月十八日地第六〇八一號稟請特別税新設及増率ノ件動力使用税増率ヲ除キ許可ス但財産取得税ハ大正十一年度限リトス

三十四	漁業
三十五	採藻

○漁業税採藻税賦課規則

(明治三十八年三月十一日) (大正八年四月十一日)
(縣令第二號) (縣令第二十號改正)

- 第一條 漁業税採藻税ハ河海池沼其他公有水面ニ於テ漁業採藻ヲ爲スモノニ賦課ス其課額ハ毎年度課目課額ニ於テ之ヲ定ム
- 第二條 此規則ニ於テ漁業ヲ爲スモノトハ營利ヲ目的トスルト否トニ拘ハラヌ水産動物ノ捕獲又ハ養殖ヲ爲スモノヲ謂フ
- 第三條 此規則ニ於テ採藻ヲ爲スモノトハ水産植物ノ採取ヲ業トスルモノヲ謂フ
- 第四條 課目課額ニ於テ市町村別ニ課額ヲ定メタルトキハ其課額ヲ以テ四月一日現在該當業者ノ負擔總額トス
- 前項課額ヲ各當業者ニ賦課スル方法ハ毎年六月二十日迄ニ市町村會ニ於テ之ヲ議決スヘシ
- 漁業組合ニ於テ漁業權ヲ獲得シタルモノニ對シテハ賦課方法ノ定ムル處ニ依リ漁業組合ニ賦課スルコトヲ得
- 第五條 課目課額ニ於テ税率ヲ定メタル漁業ニ對シテハ年税ヲ一時ニ賦課ス
- 捕鯨ニ對スル漁業税ハ捕獲頭數ヲ標準トシ其時々賦課ス
- 第六條 左記ノ各號ニ該當スル者ニ對シテハ漁業税採藻税ヲ賦課セス
 - 一 學校又ハ試驗場等ニ於テ教授又ハ試驗ノ爲メ採捕スルモノ
 - 二 主トシテ海獸捕獲(捕鯨ヲ除ク)ヲ目的トスル漁業

三、年拾拾參歲未滿六拾歲以上ノモノニシテ自ラ採捕ニ從事スルモノ

第七條 此規則ニ規定スルモノ、外漁業稅採藻稅ノ賦課ニ關シテハ縣稅賦課規則ヲ準用ス

附則

此規則ハ明治三十八年度所屬ノ縣稅ヨリ之ヲ施行ス

明治三十四年(三月)縣令第十九號漁業稅採藻稅賦課規則ハ此規則施行ノ年度ヨリ之ヲ廢止ス

○管外漁業者ニ賦課スルヲ得ル漁業種目ノ件 (明治三十七年十二月十九日 地農第一一號ノ內地方局長照會)

各府縣ノ沿海ニ於テ漁業スル者ニ對シ其府縣ニ於テ之ニ府縣稅ヲ賦課スルハ法律上固ヨリ支障之ナシト雖トモ其漁業ノ種類ニ依リテハ納稅ノ手續上頗ル困難ヲ感スルモノアルノミナラス關係府縣ニ於テ夫々課稅セラルルニ於テハ其負擔ノ重キニ堪ヘス遂ニ漁業ヲ廢止スルノ已ムヲ得サルニ至リ漁業ノ發達上至大ノ關係有之候ニ付大体左ノ如ク漁業ノ種類ニ依リ課稅スルモノト然ラサルモノトノ區分相立度旨農商務省ヨリ協議ノ次第有之候處右ハ貴縣ノ稅源ニ關係有之候ニ付其利害ニ關シ御意見承知致度此段及照會候也

記

一、管外人ニモ賦課スルコトヲ得ヘキモノ

一、漁業法第三條及第四條ニ依ル免許漁業

二、免許漁業ニ非ラサルモ特定ノ設備ヲ爲ス漁業

例之

於采漁業(浸水、漬柴、根抄漬、根掛漬等ヲ含ム)

固筭漁業

威繩漁業

鰻時漁業

石打投網漁業

鮭卷持網及鱒持網漁業

四手網漁業(棚ヲ架スルモノ)

鰻漬漁業

鳥賊巢曳網漁業

簀張漁業

三、前二號ノ外操業ノ區域一定セル漁業

但其區域ノ廣濶ナルモノ又ハ沿岸ヨリ其區域遠隔ナルモノ及釣延繩漁業ヲ除ク

例之

定置漁業ニ該當セサル築、魚堰、魚笠、角建網、掛網、張網、建干網、建網、(曲立、漁法ニ依ルモノ)及

瀬張網漁業

特別漁業ニ該當セサル地曳網、地漕網、船曳網、鰻待網、敷網、碇錨ヲ用ユルモノ、氷下曳網及藻曳網漁業

- 練待網漁業
- 烏賊籠漁業
- 潜水器漁業
- 鯛鱒漱曳網漁業
- 鯛大網漁業
- 鮫鱒網漁業
- 鵜繩網漁業
- 藻場ニ於テ使用スル卷網漁業
- 採藻業
- 管外人ニ賦課スヘカラサルモノ等
- 打瀬網漁業(鮪流網、鯉流網、旗魚、漁網、鯛流網、鰭流網、鰻流網等)
- 揚繰網漁業
- 蝦漕網漁業
- 鮪卷網漁業
- 突捧漁業
- 鯛建廻網漁業
- 鵜飼漁業
- 飯蛸繩網漁業
- 玉筋魚曳網漁業
- 鯛底曳網漁業
- バツシヤ網漁業
- カラチ網漁業
- 磯魚刺網漁業
- 寄魚漁業
- 採具業(桁網ニ依ルモノヲ除ク)
- 中網漁業
- 桁網漁業(海鼠桁網ヲ除ク)
- 五智網漁業
- 珊瑚網漁業
- 二艘張網漁業
- 寶曳網漁業
- 蛸壺漁業(蛸箱ヲ含ム)
- 海酸漿付漁業
- 練網漁業(天保網ヲ含ム)
- 囊待網漁業
- 大手押網漁業(手押網ヲ含ム)
- 居繰網漁業
- 藻魚刺網漁業
- 海鼠曳網、同桁網、同預、同抄網漁業

六人網漁業

三艘張網漁業

延繩漁業

以上列記漁業ト雖トモ前各號ニ該當シ又ハ其管内ニ漁舎、漁具庫、船車、魚見所、捕獲物ノ製造場生洲餌料ノ畜養場等漁業上必要ナル設備ヲ有スルモノハ此ノ限リニアラス

右ノ回答 (明治三十八年三月三十日内地第一八六五號 知事ヨリ地方局長ニ回答)

客年十二月地農第一一號内御照會ニ係ル沿海漁業者ニ對スル府縣稅賦課區分ニ關スル件ハ御申越ノ區分ニテ差支無之ト存候此段及回答候也

○通稅脫稅ノ取締ニ關スル件拔萃 (明治三十八年四月十一日内地第二四五八號 内務部長ヨリ各郡市長ヘ通牒)

縣稅雜種稅ノ通稅脫稅取締ニ關シテハ縣稅檢査ノ結果ニ依リ其都度及通牒尙稅務主任會同ノ際主務課ヨリ及協議置候次第モ有之課稅ニ關シテハ夫々御注意相成居候事ト被存候處尙一般通稅者ヲ生セシメサルハ勿論左ノ各項ニ關シテハ一層御注意相成様致度爲念此段及通牒候也

記

- 二、漁業法又ハ漁業取締規則ニ依リ免許又ハ鑑札ヲ受クルモノニシテ其免許又ハ鑑札ノ交付ヲ受ケサルモノト雖トモ現ニ漁業行爲ヲ爲シ居ルモノニハ總テ漁業稅ヲ賦課スヘキモノニ付其免許又ハ鑑札ヲ受領セサルカ爲メ賦課漏ヲ生スルカ如キコト無之様注意スルコト
- 三、淡水漁業者中ニハ鑑札ヲ受クス又ハ縣稅ヲ納付セサルモノ多キヲ以テ脫稅者ヲ生セサル様注意スルコト

四、採藻業者ハ其鹹水ナルト淡水ナルトヲ問ハス一般ニ通脱稅者多キヲ以テ精々調査ヲ遂ケ課稅スルコト

○縣稅賦課ニ關シ取扱事項拔萃 (明治三十八年四月十三日內一號第二五五六號)
內務部長ヨリ各郡市長へ通牒

縣稅ヲ賦課スヘキモノ及其稅率ヲ變更シタルモノニ關シテハ大要左ノ各項ニ依リ御取扱相成度(以下略ス) 依命此段及通牒候也

記

九、漁業

鹹水漁業中ノ定置漁業稅ヲ納ムルモノ及淡水漁業中引網、流網漁業稅ヲ納ムルモノト雖トモ其他ノ漁業ヲ營ムモノハ其町村課額又ハ課目課額ニ於テ定メタル稅率ニ依リ各別ニ課稅スヘキモノトス 町村課額ノ賦課方法ヲ定ムルニ當リテ漁業ノ種類又ハ漁船漁具等ヲ標準トシ其種類又ハ物件毎ニ賦課額ヲ定ムルヲ得サルモノトス

漁獲價格又ハ其見積價格ヲ標準トシテ課稅スルモノニアリテハ其ノ標準ニ關シテハ精細ニ其調査ヲ爲スヲ要ス

十、前各項ニ依ルモノ、外課稅上穩當ヲ缺ク嫌ヒアリト認メラルモノ其他特殊ノ事項ハ縣廳ニ協議スルコト

○捕鯨業者ニ對シ二府縣以上ニ於テ課稅スル場合ノ件 (明治四十二年十月四日農甲第五十)
七號ノ內、內務省地方局長通牒

捕鯨業者ニ對シ二府縣以上ニ於テ課稅スル場合ハ他ノ水產稅ニ比シ其負擔往々重キニ過クルノ傾向有之候處今般農商務省ヨリ協議ノ次第モ有之詮議ノ末右賦課ハ來ル明治四十三年度ヨリ關係府縣ヲ通シ賣上金高ノ千分ノ二十五ノ範圍ニ止ムヘキコトニ決定相成候條右ノ範圍ヲ超過スル分ニ對シテハ夫々協議ノ上課稅相成候樣致度依命此段及通牒候也

○管外來漁者ニ對スル課稅ニ關スル件 (明治四十二年一〇月地甲第八四號)
內務省地方局長通牒

府縣ニ於テ賦課スル漁業稅ニ付テハ管外來漁者ニ對シ賦課スル向有之候得共本籍地並出漁地双方ニ於テ各一般課率ニ依リ課稅スルトキハ其ノ負擔重キニ過キ殊ニ地方ニ依リテハ管外來漁者ニ對シテ一層高率ノ課稅ヲナスモノアリ是等ハ更ニ酷ニ失シ妥當ナラスト存候條出稼者ニ對シ課稅スルノ舊慣ナキ地方ニ在テハ可成之ニ課稅セサルコト、シ其舊慣アリテ本籍地並出漁地双方ニ於テ各課稅スル場合ニ於テハ關係地方廳協議ノ上適度ノ課稅ヲナシ他ノ一般漁業者トノ權衡ヲ失セサル樣措置相成度依命此段及通牒候也

○浮線漁業者ニシテ打瀬網ノ漁法ヲ模倣シ漁業ヲ爲スモノニ對シテハ

打瀬網稅ヲ賦課セサル件 (大正五年四月地二三七六號內務部長ヨリ直
理、名取、宮城、桃生、牡鹿、本吉郡長へ通牒)

鹹水漁業ヤ浮線漁業者ニシテ偶打瀬網ノ漁法ヲ模倣シ漁業ヲ爲スモノニ對シ往々縣稅漁業稅打瀬網稅ヲ賦課セラル、向モ有之候處這回右漁業ニ對シテハ現行營業稅雜種稅課目課額、鹹水漁業中打瀬網漁業ノ稅率ヲ適用セサルコトニ應議決定相成候條依命此段及通牒候也

○漁業者臺帳設備ニ關スル件 (大正八年二月十八日地第九〇七號)

(内務部長ヨリ各郡長ヘ通牒)

縣稅賦課細則第二十三條ニ依リ設備スヘキ免許又ハ許可及届出漁業ノ漁業者臺帳ハ明治三十五年訓令第六十三號ニ依リ設備セシ該臺帳ヲ代用シ差支ナキ規定ニ有之候處右ニ關係アル臺帳ノ設備ヲ爲ササル向有之哉ニ相聞候處右ハ甚タ不都合ノ次第ニ候條其設備ヲナササル町村ニハ設備(該當漁業者ナキモノハ除ク)セシメ又設備シアルモ其ノ加除整理ノ全タカラサル者ニ對シテハ同時ニ整理ヲ行ハシメ其結果町村毎ニ狀況三月末日限リ御回報相成度此段及照會候也

(註 町村臺帳ハ何レモ整理濟ノ旨報告アリ)

○漁業者臺帳様式ノ件 (明治三十五年十一月十四日訓令第六十三號)

(ヲ以テ郡役所町村役場ニ附令)

漁業免許、許可、又ハ届出アリタルトキハ左ノ帳簿ヲ備ヘ置キ所管内ノ漁業ニ關スル一切ノ事項ヲ記載スヘシ

知事

- 一、免許漁業簿
- 二、免許漁業共同人名簿
- 三、許可漁業簿
- 四、届出漁業簿

- 第一號式
- 第二號式 甲、乙、
- 第三號式
- 第四號式

第一號式 免許漁業簿

免許番號	免許年月日	漁業種類及名稱	漁獲物種類	漁業者又ハ代表者姓名	休業期間	事由
漁場ノ位置	免許期間	漁業ノ時期	條件又ハ制限	漁業者又ハ代表者姓名	休業期間	事由

相續讓渡	共有	貸付	事記

第二號甲 免許漁業共同人名簿

免許 番號	共有者住所氏名	持分	相續讓渡共有貸付	記	事

第二號乙 免許漁業共同人名簿

免許 番號	共同借主住所氏名	持分	相續讓渡共有	記	事

第三號式 許可漁業簿

備考	年月日	廢業 制限	條件又ハ 場所ノ	漁業 期ノ	漁業 時ノ	漁獲物ノ 種類	漁業ノ種 類及名稱	許可 年月日	鑑札 番號	住所	氏名	生年月日	轉住所	改名	再下付 鑑札番號	再下付 年月日	事由

第四號式 届出漁業原簿

二七八

備考	漁業時期	漁業場所	漁獲物	漁業名稱	鑑札番號	鑑札下付年月日	漁業名	住所	氏名	生年月日	轉住所	改名	再下付番號	再下付年月日	事由
					再下付番號	再下付年月日									

○ 鮫刺網ニ關スル件

(大正八年四月二十三日地第二二四七號)
(ヲ以テ内務部長ヨリ本吉郡長ヘ回答)

本財第一二四三號ヲ以テ鮫刺網ニ關スル件御照會相成候處右ハ船一艘ニ於テ使用スル網全部(約三百間ヲ

二九〇

二九一

一張トス)ヲ指示セシ義ニ有之候此段及回答候也

○ 同上ノ件

(大正八年四月十八日日本財第一、二四三號)
(ヲ以テ本吉郡長ヨリ内務部長ヘ照會)

本年度新設ニ係ル鮫刺網一張トハ地方ニ於ケル一反(長約三間位ノモノ)ヲ指シタルモノナルヤ又其ノ船一艘ニ於テ使用スル網全部ヲ指シタルモノナルヤ不明ニ付申告書蒐集上疑義相生シ候條御明示相成度此段及照會候也

○ 捕魚、遊魚者區分ノ件

(大正八年八月八日地第四三一七號)
(ヲ以テ内務部長ヨリ各郡市長ヘ通牒)

本年度縣稅課目課額中漁業稅ノ内ニ捕魚者遊魚者ノ區分有之候處捕魚者トハ捕魚ヲ專業トスル營業者ヲ謂ヒ他ハ總テ遊魚者トシテ取扱フ義ニ候條爲念此段及通知候也

○ 漁業稅賦課ニ關スル件

(大正六年九月各郡市財務主任書記會ニ於テ指示)

漁業稅ハ營利ヲ目的トスルト否トニ拘ハラズ總テ賦課スヘキコトハ漁業稅採藻稅賦課規則ノ定ムル所ナルモ該規則ノ趣旨一般ニ周知セス遊漁者又ハ一時ノ捕魚者ハ其届出ヲ爲スモノ少ナキカ如シ殊ニ遊漁者ハ夏期ノミニ於テ從事スルモノ多ク自然通脫發見ニ困難スル所ナルヲ以テ平素此等從事者ヲ調査シ置キ豫メ注意ヲ與フル等相當ノ方法ニ依リ届出シムルニ努メラルヘシ

○ 採藻稅賦課ニ關スル件

(大正六年各郡市財務主任書記會ニ於テ指示)

採藻稅中柴海苔採取ノ興建坪數ハ實際ニ違フ申告ヲ爲スモノ多ク其他ノ採藻ニ至リテモ亦無届ノ儘從事スルモノ少ナカラサルカ如シ此等營業者ノ調査ハ平素沿海又ハ池沼岸地方ノ狀況ヲ調査シ置キ各種ノ資料ニ

基ツキ審案スルトキハ實際ニ反スル申告又ハ無届従事者ヲ發見スルニ難カラサルヘシト信ス爾來一層調査ヲ周到ニシ通脱稅者ナキヲ期セラルヘシ

○許可又ハ免許ヲ受ケサル定置漁業者ニモ課稅スルノ件 (大正七年七月二十日各郡市財務主任會ニテ指示)

定置漁業、特別漁業、打瀬網等ハ免許許可又ハ届出ヲ要スルモノナルヲ以テ調査頗ル簡易ノ如クナルモ免許又ハ許可ヲ受ケサルモノニシテ往々漁業ヲ營ムモノアルヲ以テ各町村長ヲシテ隨時其町村内ノ漁業者ヲ調査セシメ努メテ通脱稅者ナキヲ期セラルヘシ又捕魚者遊漁者ノ通脱稅ハ頗ル多キヲ以テ之亦隨時調査ヲ勵行セラルヘシ

○實例

(管外來漁者ニ課スル漁業稅ト課稅率)

府縣稅漁業稅ノ賦課ニ關シテハ管外來漁者ニシテ住所府縣ニ於テ納稅セル者ニ對シ管内漁業者ト同率ノ課稅ヲ爲スハ苛酷ニ過クルトキハ別ニ相當ノ低率ヲ定メ賦課スヘキモノトス

(府縣ノ其沿海ノ漁業稅)

府縣ニ於テ其ノ沿海ニテ漁業ヲ爲スノ故ヲ以テ管外來漁者ニ對シ漁業稅ヲ賦課スルモ差支ナキモノトス

○判例

(特定行爲ト其附加稅)

漁場ハ單ニ魚類ノ捕獲ヲ爲ス場合ニシテ本條ニ所謂營業ヲ爲ス場合ニ非サルヲ以テ町村内ニ住居ヲ有セス又ハ三ヶ月以上滞在セサル者ニ漁場ノ收益ニ對スル所爲ノ附加稅タル村稅所得稅ヲ賦課スルハ違法ナリ(大元二一、一七、判決)

(漁業組合ト法人ノ區分)

漁業法第四十條ニハ「一定ノ區域内ニ住所ヲ有スル漁業者ハ行政官廳ノ許可ヲ得テ漁業組合ヲ設立スルヲ得」第四十六條ニハ「漁業組合云々其設立ハ之ヲ登記スルニアラサレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得」漁業組合第四十八條ニハ「組合員ハ事業年度ノ終ニ於テ組合ヲ脱退スルコトヲ得」トアリ其他令ノ全法趣旨ニ徴シ國家カ其機關トシテ該組合ノ存在ヲ認メルモノニアラサルコト明カナリ又漁業法第四十三條ニハ「漁業組合ハ漁業權者ハ入漁權ヲ取得シ又ハ漁業權ノ貸付ヲ受ケ組合員ノ漁業ニ關スル共同ノ施設ヲ爲スヲ目的トス」アリテ其ノ目的タル事業モ亦本來ノ公共事務ニアラサルコト勿論ナリ故ニ漁業組合ハ公法人ニアラスシテ私法人ナリ(六年六月六日列事部宣告)

第十四條 第十二條 第十三條第一號乃至第四號

料理店業
飲食店業
一
二
三
四
湯屋業

第六號(代書業)第十八號ノ一乃

第十三條第一號乃至第四號^(一)料理店業^(二)第十九號(劇場)第二十號(人寄席)ノ稅額^(三)課目課額ニ於テ除キタルモ^(四)以下同シハ每年四月一日現在營業者人員ニ課目課額ニ規定シタル該市町村相當課額ヲ乘シ得タル金額ヲ以テ其市町村該營業者ノ負擔總額トス

○專決處分ニ關スル件 (明治三十八年四月廿九日決議)

- 參事會ニ於テ議決スヘキ左記事件ハ知事ニ於テ專決スルコトヲ得但縣參事會開會中ハ此限リニアラス
- 二、縣稅賦課規則第七條ニ關スル事項
 - 三、縣稅賦課規則第十五條第二項但書ニ關スル事項

○實例

(商、工業稅ノ市町村課額更正方ノ件)

縣稅賦課規則第十五條第二項ノ義務消滅ノ稅額ハ商業、工業ヲ通シテ其ノ消滅ノ超過額カ市町村課額ノ五分ノ一以上ニ達シタルモノニアラサレハ減額更正セサルモノトス

第十六條 前條第二項ノ賦課額及第三項ノ市町村負擔總額ヲ各納稅義務者ニ賦課スル方法ハ每年六月二十日迄ニ市町村會ニ於テ議決スヘシ

市町村別ノ營業稅額又ハ料理店業、飲食店業、席貸業若クハ劇場、人寄席ノ負擔總額ハ各交互

増減スルヲ得ルモ其課額又ハ負擔額ノ通算額ヲ減スルコトヲ得ス

第十七條 年度開始後新ニ納稅義務ノ生シタル商業^(一)工業及第十三條第一號乃

至第四號^(二)料理店業^(三)第十九號(劇場)第二十號(人寄席)ノ營業者ノ稅額ハ既ニ定マリタル賦課方法ニ依リ之ヲ賦課ス若シ其賦課方法ニ依リ難キトキハ市町村會ニ於テ特ニ賦課方法ヲ議決スヘシ但本條ノ賦課額ハ第十五條第二項第三項ノ外トス

市町村ニヨリ稅率ヲ異ニスル物件ニシテ納稅地ニ異動アルモノハ賦課期日ニ於ケル納稅地相當ノ稅額ヲ賦課ス

第十八條ノ一 貸金穀ハ營業ト否トニ拘ハラズ貸付高^(一)貸付高^(二)ニ換算ス^(三)ヲ標準トシ現ニ貸付ヲ爲スモノニ賦課ス

前項ノ課稅標準ハ每年四月一日現在貸付高ニ依リ新ニ納稅義務ノ生シタルモノハ其當時ノ見積ニ依ル

第十八條ノ二 貸家稅ハ貸家ノ貸賃價格ヲ標準トシ其所有者ニ賦課ス

貸賃價格ノ算定方法ハ國稅營業稅法ニ於ケル建物貸賃價格算定ノ方法ヲ準用ス

課稅標準額ハ每年四月一日ノ現在額^(一)新ニ貸家ヲ開始シタル^(二)ニ依リ爾後貸賃價格ニ高低アルモ之ヲ増減セス

第十九條ノ一 建物建築税ハ建物ノ建築ヲ爲シタル者ニ對シ竣成ノ坪數ヲ標準ト爲シ之ヲ賦課ス
 但假小屋外廊下及便所ハ賦課ノ標準ニ算入セス
 壹坪未滿ノ坪數ハ四拾五入シテ算定ス
 第十九條ノ二 法人建物税ハ店舗其他ノ營業場ヲ定メ營業ヲ爲ス法人ニ其使用スル建物ヲ標準ト
 シ坪數ニ依リ賦課ス
 數種ノ營業ヲ兼スル法人ノ建物ハ其營業所ノ區畫ヲ異ニスルモノハ各營業毎ニ區畫ナキモノハ
 重キモノニ依リ算定ス
 壹坪未滿ノ坪數ハ四拾五入シテ算定ス
 第十九條ノ三 財産取得税ハ賣買、贈與、遺贈、交換其他ノ事由ニ依リ財産ヲ取得シタルモノニ
 對シ其ノ價格ヲ標準トシ取得ノ際一時ニ賦課ス

○實例

(財産取得ト課税方)

本税ハ相續ノタメ取得シタルモノノ財産ニ對シテハ課税セサルモノトス

第十九條ノ四 倉庫税ハ倉庫ノ建物ヲ標準トシ坪數ニ依リ其使用中タルト否トニ拘ハラヌ其所有者
 ニ賦課ス
 第二十條 狩獵税ハ狩獵免許ノ際其年額ヲ一時ニ賦課ス
 第二十一條 漁業税採藻税ノ賦課方法ハ別ニ之ヲ定ム
 第五章 國稅附加税
 第二十二條 國稅附加税ハ年税トシ本税ニ對スル課率ハ毎年度豫算ニ於テ之ヲ定ム
 鑛業税附加税、砂鑛區稅附加税、賣藥營業税附加税ハ年額ヲ一時ニ賦課ス

○營業稅法第三十六條ニ依リ營業稅ニ附加スル府縣稅又ハ地方稅ノ

賦課徵收等ニ關スル件 (明治二十九年十二月二十五日縣甲第三九號 大藏省主稅局長內務省縣治局長通牒)

營業稅法第三十六條ニ依リ營業稅ニ附加スル府縣稅又ハ地方稅ノ賦課徵收等ニ關スル件左ノ通決定相成候
 條爲御心得此段及通牒候也
 一、營業稅ニ附加スル府縣稅又ハ地方稅ハ會計年度内ニ於ケル國稅ノ賦課額ニ附加スヘキモノトス
 二、營業稅ノ附加税ハ本稅十分ノ二以内ヲ附加スルノ外府縣稅又ハ地方稅ヲ課スルコトヲ得サルモノナル
 ニ依リ附加税ニ非サル府縣稅又ハ地方稅ヲ賦課徵收シタル營業者ニシテ營業稅法第二條乃至第五條及
 第七條乃至第十條ノ規定ニ依リ國稅ノ賦課ヲ受クルニ至ルトキハ過納ニ係ル府縣稅又ハ地方稅ハ下戻

スヘキモノトス

二八八

三 營業税法第三十一條ノ規定ニ依リ國稅金ヲ減額セラレタル營業者アルトキハ其ノ附加税タル府縣稅又ハ地方稅モ其ノ割合ニ應シ減額シ徵收スヘキモノトス

四 營業税法第三十條ノ規定ニ依リ國稅ノ徵收ヲ猶豫セラレタル營業者アルトキハ其ノ附加税タル府縣稅又ハ地方稅ノ徵收モ猶豫シ國稅ノ納額確定ノ上附加税ヲ徵收スルヲ便トス但府縣稅ニ關シテハ府縣制第七十條ノ規定ニ依リ府縣參事會ノ議決ヲ經ルヲ要ス

五 附加税ノ徵收ヲ猶豫シ又ハ附加税ヲ減額徵收スル等取扱上ノ便宜ノ爲メ營業稅ニ附加スル府縣稅又ハ地方稅ハ營業税法第二十條ニ規定セル國稅ノ納期ト同一若クハ其以後ニ納期ヲ定メ徵收スルヲ可トス

○營業税法第三十六條ニ依リ附加スル縣稅ハ會計年度ニ於テ徵收スヘキ
國稅額ヲ率トシテ徵收ノ件 (明治三十年五月五日第一五三號)
(內務部長ヨリ各郡市長ヘ通牒)

營業税法第三十六條ニ依リ附加スル縣稅ノ儀ニ付別紙之通其筋通牒有之候條御參考マテ此段及御通牒候也
(別紙) (明治三十年三月十六日縣甲第一七號ノ內)
(內務省縣治局長通牒)

營業税法第三十六條ニ依リ附加スル府縣稅(地方稅)ニ關スル件別紙ノ通熊本縣問合ニ對シ決定相成候條爲御心得及通牒候也

熊本縣問合 (明治二十九年十二月二十八日)

營業税法三十六號ニ關シ本年十二月五日付縣甲第二一九號ヲ以テ通牒セラレタル第一項ニ依レハ府縣稅ハ

三〇〇

三〇一

會計年度内ニ於ケル國稅ノ賦課ニ附加スヘシ云々トアリテ會計年度内ノ賦課ト云フノ成文ヨリ解釋スルトキハ假令ハ國稅ハ一月ヨリ十二月迄ヲ賦課徵收スルモ附加税ハ其四月ヨリ十二月迄即九ヶ月分ノ國稅ニ附加シテ其翌年一月ヨリ三月迄分ハ會計年度内ニ拘ラス其本稅タル國稅ノ未徵收ナル爲メ遂ニ附加税ハ其年度内ニ賦課徵收スルヲ得サル結果ヲ生シ隨テ府縣ノ會計上少ナカラサル支障有之候義ト存候處右ハ會計年度内ニ於ケル國稅ノ徵收額ニ附加スヘキ意味ニ解釋シ尙國稅ニシテ營業税法第二十條ニ依リ年稅額ノ一半ヲ五月ニ徵收スルハ會計年度ヨリ云ヘハ前年度三ヶ月分ヲ包有スルニ拘ハラス會計規則年度區分ノ法ニ依リ其徵收期日ノ屬スル年度ノ歲入トスルカ如ク府縣稅モ右ノ主旨ニ則リ國稅ノ徵收額ニ附加シ徵收期日ノ屬スル年度ノ歲入ト爲スヘキ主旨ト心得可然哉

縣治局長回答 (明治三十年三月一日)

右附加税ハ會計年度間ニ於テ徵收スヘキ國稅額ヲ率トシ徵收シ可キ義ニ有之候

○營業稅附加税賦課稟請書ニハ賦課ノ歩合ヲ規定シ
差出スヘキ之件 (明治三十二年十二月二十七日地甲第一三九號)
(大藏省主稅局長、內務省地方局長通牒)

府縣制第八條營業稅附加税賦課ノ件許可稟請書面中往々賦課ノ歩合ノ規定無之單ニ標準ノミニ付稟請セラレ候得共第八條ハ標準ニ依リ割出シタル歩合ヲ許可スヘキ旨趣ニ有之隨テ標準ノ如キハ唯タ其參考タルニ過キササルモノニ候條將來稟請書面ハ右賦課ノ歩合規定相成度爲念此段及通牒候
追テ本文賦課ノ場合ハ關係府縣協議ノ上稟請可相成筋ニ候條右連署ヲ以テスルカ又ハ一縣ヨリ稟請相成

ニ於テハ總代ノ名義ヲ以テ具申相成度此段申添候也

○所得稅額稅務署ヨリ郡市長へ通報方ノ件 (明治三十三年二月九日內五第一〇三四號) (內務部長ヨリ各郡市長へ通報)

所得稅附加稅賦課ニ關シテハ納稅者ノ縣外ニ於ケル所有ノ土地家屋又ハ營業ヨリ (店舗ヲ定メサ) 收入スル所得ハ控除スヘキ筈ニ有之又本稅賦課額確定ノ都度通報方ノ件ハ仙臺稅務管理局へ照會之未回答ヲ得候ニ付別紙應答書寫添へ依命此段及通牒候也

(別紙)

仙臺稅務管理局長へ照會 (明治三十三年一月十七日) (內五第四九八號)

今般本縣ニ於テ所得稅ニ附加稅ヲ賦課スルニ付必要有之候條本稅賦課額確定ノ都度市町村毎其稅額且ツ納稅者中其所得他府縣ニ所有ノ土地家屋物件等ヨリ生スルモノニ對シテハ右之外尙一人別其稅額縣内外ニ區分取調稅務署ヨリ各所屬ノ郡市長へ直接通報相成候様各稅務署ニ達方御取計相成度此段及御照會候也
追テ確定後稅額並ニ納稅者ニ異動ヲ生シ候ハ、其都度本文同様通報候様御取計相成度又本年度ニ於テハ後期ノ所得稅額ヨリ本文ノ通御取計相成度此段申添候也

回答 (明治三十三年二月五日) (仙直第四三號)

一月十七日內五第四九八號ヲ以テ御照會相成候所得稅額確定ノ都度稅務署ヨリ各所屬郡市長へ通報方ノ件ハ客月十九日ヲ以テ各稅務署へ達方取計置候條御了知相成度此段及回答候也

○營業稅額稅務署ヨリ郡市長ニ通報方ノ件 (明治三十年五月十一日內第一五九八號) (內務部長ヨリ郡市長へ通報)

營業稅額郡市長ニ通報方之義ニ付仙臺稅務管理局長へ別紙ノ通照會ノ上回答相成候ニ付御參考マテ此段及通牒候也

(別紙)

管理局ニ照會 (明治三十年二月十日) (內一第二八八號)

營業稅法第三十六條ニ依リ縣稅ノ附加稅賦課ニ關シ必要有之候條賦課確定ノ都度住所氏名並ニ其稅額業目ヲ取調稅務署ヨリ各所屬ノ郡市長ニ直接通報相成候様各稅務署ニ達方御取計相成度此段及御照會候也

追テ確定後稅額並納稅者ニ異動ヲ生シ候ハ、其都度本文同様通報候様御取計相成度此段申添候也

回答 (明治三十年二月十二日) (仙庶第二六一號)

營業稅額等郡市長へ通報方ノ儀ニ付本月十日付內一第二八八號ヲ以テ御照會之趣了承致候此段及回答候也

○國稅營業稅附加稅ニ關スル件 (大正七年七月二十三日地第四〇八二號) (ヲ以テ內務部長ヨリ各郡市長へ通報)

縣稅營業稅ノ納稅者ニシテ國稅營業稅ノ納稅者ト爲リタル場合國稅ハ曆年ニ依リ課稅ヲ爲ス結果其年一月ヨリ三月迄ノ營業ニ對シテハ附加稅ノ課稅ト重複スルコト、相成リ此場合ニ於テハ明治四十一年法律第三十七號第二條ノ規定ニ抵觸スルモノト被認候ニ付右三ヶ月間ノ縣稅營業稅ハ月割ヲ以テ還付スルヲ相當ト被認候得共往々還付ヲ爲サ、ル向有之様被存候ニ付テハ右ハ將來還付スヘキモノト其筋ヨリ通牒有之候ニ付爾今右ニヨリ還付スヘキ様御取扱相成度此段及通牒候也

追テ國稅營業稅ノ納稅者ニシテ縣稅營業稅ノ納稅者ト爲リタル場合ハ其年一月ヨリ三月迄ノ營業ニ對シ

テハ隨時下半年期ノ縣稅ヲ從來ノ通り賦課相成度申添候也

○營業場ニ關スル件 (大正七年八月十日直第三四五號ヲ以テ)

客月二十六日地第四三八二號ヲ以テ御依頼相成候製糸業者ニシテ本店所在ノ府縣以外ノ府縣ニ建物ヲ建築シ乾燥場ヲ設ケ季節ノミ出張シ購買入ヲ爲スモノ、如キハ營業稅法ノ營業場ト認ムヘキモノニ無之モ右建物ハ固定資本及建物賃賃價格トシテ計算スヘキ義ト被存候
右及回答候也

○所得稅附加稅ニ關スル件 (明治四十二年二月十五日地第一二一六號)

他府縣ニ於テ所得稅ヲ納ムルモノ、本縣内所得ニ對スル縣稅ノ所得稅附加稅ノ賦課ニ關シテハ別紙手續ニヨリ御取扱相成度依命此段及通牒候也

○他府縣ニ於テ所得稅ヲ納ムルモノ本縣内所得ニ對スル

縣稅所得稅附加稅賦課手續

一、郡長ハ毎年六月末日迄ニ各町村長ヲシテ他府縣居住者及本縣内居住者ノ其町村内ニ於ケル財產營業其
他ノ所得ニ對シ他府縣ニ於テ所得稅ヲ納ムルモノト認ムルモノ、財產種別所得概算又ハ其ノ他ノ所得
種別所得概算ヲ調査報告セシメ更ニ七月末日迄ニ便宜ノ方法ニ依リ其郡所屬ノ稅務署ノ調査ニ照合ヲ
求ムヘシ

二、前項ノ調査ヲ終リタルトキハ別紙様式ノ調査ヲ作成シ納稅地ノ稅務署ニ送付シ所得額決定ニ基キ町村
及所得種別毎所得額並所得稅納稅義務者ノ總所得ニ對スル稅率(定率)ノ記入ヲ求ムヘシ
三、前項調査ノ結果ニ依リ其郡内ニ於ケル所得稅額ヲ算出シ之ニ對スル所得稅附加稅ヲ調査スヘシ但町村
ニ對シ徵稅令書ヲ發スルトキハ一人別調査ヲ添付スヘシ

町村	所得種別	財產種別又ハ所得概算	所得額	所得總額ニ對スル稅率(定率)	住所氏名
某町	貸家所得	貸家何棟 賃賃價格何程			某縣某郡町村 何
同上	土地ノ所得	田何反歩 畑何畝歩			某
某村	營業所得	何々業 所得概算何程			
同上	給料所得	何處ヨリ受クル 俸給何程			
計					

○所得稅附加稅ニ關スル件 (明治四十二年二月十五日地第一二一七號)

所得稅附加稅上必要有之候條貴市内ニ於ケル財產營業其他ノ所得ニ對シ他府縣ニ於テ所得稅ヲ納ムルモノ
ト認ムルモノ、貴市内ニ於ケル所得ヲ調査シ毎年七月末日迄ニ別紙様式ニ依リ報告相成度依命此段及通牒

候也

(別紙様式)

財別	數量	業		其他ノ所得	住 所	氏 名
		營業場	營業地			
市街	坪	何々業	何町何番地	何ニヨリ受 タル給料	某縣某郡某市町	何ノ某
宅地	坪	何々業	何町何番地	何々ヨリ受 タル給料	村	
貸家	棟	何々業	何町何番地			

○他府縣ヨリ轉入シタルモノニ對スル所得稅附加稅課稅ニ

關スル件 (明治四十二年五月廿四日地第四一六一號)
(內務部長ヨリ各都長へ通牒)

毎年一月ヨリ三月迄ノ間ニ於テ他府縣ヨリ轉入セル所得稅納稅者ニ對スル縣稅附加稅ノ義ニ關シ別紙甲號
仙臺市長伺出ニ對シ乙號ノ通り通牒候條參考マテ此段及通牒候也

甲號 仙臺市長ヨリ知事宛照會文 (明治四十二年四月三十日)
(仙臺縣第三五八八號)

所得稅納稅者ニシテ四十二年壹月以降三月マテ他府縣ヨリ轉入シタルモノニ對スル課稅ハ會計年度間ニ
於テ徵收スヘキ所得稅ノ本稅ヲ率トシテ本縣々稅徵收期限中所得稅ノ部第二項ニ基キ徵收期限後新ニ納

稅義務發生者トシテ課稅スル義ト被存候得共疑義相生シ候條御指揮相成度此段相伺候也

○內務部長ヨリ仙臺市長へ通牒 (四十二年五月二十四日)
(地第三五五二號)

四十二年一月以降三月マテノ間ニ於テ他府縣ヨリ轉入シタルモノニ對スル所得稅附加稅課稅ノ件ニ關シ伺
出相成候處右ハ例令其本稅ヲ轉入地ニ於テ徵收セラル、トスルモ該所得稅ハ轉入前ニ於ケル前年中ノ他府
縣ノ所得ニ對シ課稅セラレタルモノニシテ本縣ニ於テハ四十二年以後ノ所得ニ對スルモノ、外ハ附加稅ヲ
課スルヲ得サル儀ト存候條御承知相成度候伺出ニ對シテハ別ニ指令不相成候依命此段及通牒候也

○所得稅附加稅賦課取扱ニ關スル件 (大正元年十月)
(九日決議)

所得稅納稅義務者ニシテ年度ノ中間ニ於テ住所ヲ移轉スルモノニ對スル所得附加稅ノ賦課ニ關シテハ其七
月以前ノ轉出ニ係ルモノハ附加稅上半期ヲ賦課シ下半年期ヲ賦課セス又七月以後ノ轉入ニ係ルモノハ附加稅
下半年期ヲ賦課シ上半期ヲ賦課セサルコトニ決定相成可然哉

○所得稅調定期日ニ關スル件 (大正八年七月九日議第一四三六號)
(大阪府ヨリ北海道及各府縣へ照會)

府縣制第八條該當者ニ係ル所得稅附加稅賦課歩合御提案ノ際ハ乍御手數所得稅調定期日御記入相煩度及
照會候也

○營業稅、所得稅、決定期日ニ關スル件照會 (大正八年七月十七日八地第二七二四號)
(ヲ以テ長崎縣ヨリ宮城縣ニ照會)

府縣制第八條該當者ニ係カル營業稅、所得稅附加稅賦課歩合御提案ノ際ハ乍御迷惑本稅決定期日御記入
相成様致度

○所得稅附加稅賦課歩合ノ件 (大正八年八月四日神內地發第二〇六〇號) (ヲ以テ神奈川縣ヨリ本縣へ通知)
府縣制第八條該當者ニ係ル所得稅附加稅賦課歩合御提案ノ際ハ御手數ナカラ本稅決定ノ期日御記入相成度候

○鑛業稅附加稅賦課上ニ關スル件 (明治四十一年一月十八日) (本財第八九號本吉郡長照會)

鑛業稅附加稅賦課上ニ關シ左記事項聊カ疑義有之候ニ付至急御回答相成度此段及照會候也

- 一、鑛區ノ位置他縣ニ亘ル物ニ對シ其徵收確定額ヲ標準トシテ賦課スルコトヲ得ヘキヤ
- 二、前項ノ場合及鑛區ノ位置數町村ニ亘リ徵收確定額其町村每區分シ難キモノニ對シテハ直ニ納稅義務者ニ徵稅令書ヲ發シ差支ナキヤ

右回答 (明治四十一年二月一日地第一六二號) (內務部長回答)

鑛業稅附加稅賦課ニ關スル件左ノ通りト存候此段回答候也

- 一、第一項ハ本稅ヲ徵收スル地(稅務署所屬)ニ於テ賦課スヘキモノトス(現行ハ分割賦課スルヲ改正セラル)
- 二、第二項ハ現行徵收細則ノ規定上郡長ニ於テ直接納稅義務者ニ對シ徵稅令書ヲ發スルコトヲ得サルニ付時前項ニ依リ町村ヲシテ徵收セシムヘキモノトス

○鑛業稅附加稅賦課ニ關スル件 (明治四十一年四月六日) (地方課ヨリ桃生郡ニ回答)

納期中權利ノ移轉シタル場合ニ於ケル鑛業稅附加稅ノ徵收方ニ付御照會相成候處右ハ本稅ノ調定當時ノ納稅義務者ヨリ徵收シ爾後義務移轉スルモ其ノ賦課ノ變更ヲ要セサル義ト存候右回答候也

○鑛業ニ從事者區分ノ件 (大正二年五月二十六日內務部長) (ヨリ栗原郡長ニ回答)

鑛山ニ於ケル鑛業用建物及工作物ノ作業ニ從事スル大工、鍛冶等ノ職工ニ對シ縣稅工業稅ヲ賦課スル件ニ關シ栗財第二六號御照會相成候處右ハ鑛業法第八條ニ依ル鑛夫ナルト否トニ拘ハラズ一定ノ賃錢ヲ收得シテ勞役ニ從事スル職工ハ總テ工業稅ヲ賦課スヘキ義ニ候條御承知相成度此段及回答候也
追テ鑛業法第八十八條第二項ノ規定ハ鑛夫鑛產物等ヲ標準トシテ鑛業權者ニ課稅スルヲ得サル旨ト存候條御承知相成度候也

○鑛業稅附加稅賦課ノ件 (大正六年七月二十七日) (地第三八七號各郡長ニ通牒)

府縣制第八條第二項ニ依リ課稅スヘキ鑛區稅附加稅ハ本年度以降貴官ニ於テ本稅額ヲ分割シテ同附加稅ヲ賦課候様取扱ハレ度此段及通牒候也

○取引所營業稅附加稅ノ收入科目ノ件 (大正三年七月發地第五五號) (內務省地方局長、大藏省主稅局長回答)

本年法律第二十三號取引所稅法第二十三條ハ大正四年四月一日ヨリ施行セラル、ニ就テハ道府縣市區町村ニ於テ取引所營業稅附加稅ヲ賦課スルトキハ歲入ニ取引所營業稅附加稅ノ科目ヲ設ケテ整理シ可然從前許可相成候市稅取引所附加稅ハ改正取引所稅法施行ノ日(本年九月一日)以後ニアリテハ取引所ニ對シ取引所營業稅ノ附加稅ヲ課スルノ外稅法第五條ノ取引稅ニ對シテハ附加稅ヲ賦課スヘキモノニ無之候條錯誤無之様取扱ハレシメラレ度候

○取引所營業稅額通報方ノ件 (大正四年十四日地第二四〇一號) (知事ヨリ仙臺稅務監督局長へ照會)

大正四年度ヨリ取引所營業稅ニ對シ縣稅取引所營業稅附加稅ヲ課稅スル事ト相成候ニ付本稅額決定相成候ハ・其稅額月別、納人住所氏名等各郡ニ係カルモノハ各郡役所ニ仙臺市ニ係ルモノハ本廳ニ毎月通報方各稅務署ニ達シ方御取計相成度此段及依頼候也

右回答

(大正四年度四月十七日
局開第二五四號回答)

取引所營業稅額通報方ノ件關係稅務署ニ通牒致置キ候條御承知相成度此段及回答候也

○實例

(府縣ノ内外ニ涉リ會計ヲ共通スル本店支店ト營業稅賦課ノ振合)

府縣ノ内外ニ涉リ本店支店ヲ有スル法人カ其ノ會計ヲ共通スルモノナルトキハ該法人ニ對シ法令中何等規定スル所ナキニ依リ營業稅附加稅ノ振合ニ準シ關係府縣ノ協議ヲ以テ適宜其ノ步合ヲ定メ賦課スルノ外無シ尙ホ各納稅者ヨリ届出ヲ徵スルカ如キモ亦適宜ノ一方法ナラン

(明治四十四年勅令第二四一號第二條第二項ニ所謂營業所ノ意義)

右ノ中ニハ直接鑛物ノ採掘製練等ノ事務ヲ管理スル事務所ハ勿論是等ヲ總括スル營業事務ヲ包含スルモノトス

(發電所ト營業所)

電氣會社カ其經營スル電氣事業ニ關シ有スル所ノ發電所ナルモノハ所謂一ノ營業所ト認メ可然モノトス

(支店ニ對スル課稅賦課)

一、營業稅法第十五條ノ規定ハ國稅ヲ徵スル便宜法ニ過キサレハ他ニ法令ノ規定アラサル限りハ之ノミヲ以テ營業稅ノ所在ハ本店所在地ナリト謂フヲ得ス

一、支店ノ營業稅ヲ合算シ本店ニ於テ納付スルモ此營業稅ノ所在ハ支店所在地ナルヲ以テ之ニ賦課セラレタル附加稅ヲ拒ムコトヲ得ス

(或場合ニ於テハ營業稅ノ附加稅ヲ賦課スヘキ餘地ヲ存セサルコトアリ)

府縣制施行前本稅ノ納稅地ニ於テ既ニ營業稅十二分ノ二ノ附加稅ヲ賦課シ返還セサル場合ニ於テハ同制施行行正支店所在地ノ府縣ニ於テ協議ノ上其步合ヲ定ムルモ同年度ニ在テハ最早課稅ヲ爲スヘキ餘地ナキモノトス

(營業稅附加稅ノ步合ハ國稅ニ依準セシム)

營業稅附加稅ノ步合ヲ定ムルニハ可成國稅ニ於テ定メタル標準ヲ基本トシ其標準ニ依準シ以テ步合ヲ算定スルコトヲ要ス

(步合許可ノ稟請ハ關係知事ノ連署ヲ正則トス)

本條步合許可ノ稟請ハ關係府縣知事連署ノ上之ヲ爲スヲ正則ト爲スト雖モ便宜關係府縣知事ノ内總代ノ肩書ヲ以テ稟請スルモ妨ケナシ

(府縣稅ノ賦課ト住所滞在一府縣以上ニ涉ル者ノ收入)

住所滞在一府縣以上ニ涉ルモノ、收入ニ對シ府縣稅ヲ賦課スルトキハ云々トアルハ例ハ甲府縣ニ住所ヲ有シ乙府縣ニ滞在スル者ノ所有ニ係ル株券公債證書等ノ所得ニ對スル府縣稅ハ其所得ヲ甲乙兩府縣ニ平分シ其一部ニ對シ賦課スヘシト云ヘルノ意ナリ

(軍艦港所屬海軍艦艇乗組員中ノ所得稅義務者ト所得稅附加稅タル縣稅)

單ニ軍所屬ノ海軍艦艇ニ乗組ミ居ルノ事ノミヲ以テ當該市ニ住所ヲ有シ又ハ三ヶ月以上滞在スル者ト云フヲ得サルニ付假ヒ其市ニ於テ所得稅ヲ納付スルモ市ニ住所ヲ有シ又ハ三ヶ月以上滞在スルノ事實ナキ者ニ對シテハ其附加稅ヲ賦課シ得ヘキ筋ノモノニアラス

(鑛業稅附加稅ノ分別)

鑛區稅ニ對シ鑛業法九條ニ依リ分別シ得ヘキ地表ノ坪數ニ應シテ本稅ヲ區分シ鑛產稅ニ對シテハ關係町村毎ニ其本稅額ヲ區分シ届出テシムル等便宜ノ方法ニ依リ賦課シ然ル可シ

(鑛業權ノ意義)

鑛業權トハ一定ノ鑛區ニ於テ特定ノ鑛物ヲ採掘及ヒ取得スル絶體權ヲ云フ之レヲ分析スレハ

- 一、鑛業權ハ特定ノ鑛物ヲ採掘及ヒ取得スル權利ナリ
- 二、鑛業權ノ目的タル鑛物ハ特定スルヲ要ス
- 三、鑛業權ハ一定ノ鑛區内ニ限り之ヲ行使スルモノナリ
- 四、鑛業權ハ私權ナリ

五、鑛業ハ物權ナリ

六、鑛業權ハ不可分ナリ

七、鑛業權ニ二種アリ 一試掘權、二採掘權

(鑛區ノ意義)

鑛區トハ鑛業權行使ノ範圍ヲ云フ

一、土地ノ一定セルコトヲ要ス(鑛業法ハ之レヲ土地區域ト稱ス海面ニハ鑛區ノ設定スルコトヲ得サルモ土地タル以上ハ池沼、水澤ハ勿論海底タルモ鑛區ノ設定ニ妨ナシ)

二、鑛業ヲ目的トスルヲ要ス

三、登録ヲ得タルコトヲ要ス

(鑛夫ノ意義)

鑛夫トハ鑛業ニ従事スル勞役者ヲ謂フ故ニ鑛夫タルモノハ

一、鑛業ニ従事スル者タルコトヲ要ス

鑛業トハ試掘採掘及ヒ之ニ附屬スル事業ヲ云フガ故ニ坑内ニ於テ鑛物ヲ採掘スル者モ、工場ニ於テ選鑛製練ニ従事スル者モ皆鑛夫ニシテ其範圍汎ナリト云フヘシ

然レトモ鑛業ニ従事セサルモノハ鑛夫ニアラス例ヘハ鑛業用工作物ノ建築ニ従事スル大工左官ノ如キ又ハ鑛業用ノ炭燒人足、製練鑛物、運搬夫其他雜役ニ従事スル勞働ノ如キハ鑛夫ニアラス

要スルニ鑛物ヲ採掘シテ經濟上ノ貨物ト爲ス業ニ直接ニ従スル勞役者ノミヲ鑛夫ト稱スルナリ
二、勞役者タルコトヲ要ス

勞役者トハ體力活動ヲ本務トスル勞働者ヲ指シ智力活動ヲ中心トスル勞務者ヲ包含セス故ニ技師、
設計者、製圖者ノ如キ專ラ學術應用ニ従事スル者ハ鑛夫ニアラス
但シ實際技術者ト雖トモ本務ノ外ニ鑛業權者トノ雇傭契約ニ依リ鑛夫名簿ニ記入セラレタル者ハ鑛
夫トシテ法律上ノ取扱ヲ受クルモノトス

普通觀念ヨリ云フトキハ鑛夫ナルモノハ坑内ニアリテ鑛物掘採ニ従事スル者ノミヲ指スニ似タリ
(支店ト課稅方)

事務所ヲ市内ニ有シ營業所ヲ朝鮮ニ設クル會社ニ對シテハ市ハ會社ノ納ムヘキ本稅ノ全部ニ對シ附加稅
ヲ課スルコトヲ得サルモ市内ノ營業所ノ所得ニ對シ所得稅附加稅ヲ賦課スルコトヲ妨ケス而シテ此場合
明治四十四年勅令第二四一號ノ適用若クハ準用ナキカ故ニ市内ノ收入額及之ニ對スル所得稅額ノ歩合ヲ
定ムルニハ市ニ於テ適當ト認ムル方法ニ依ルノ外無シ

○判例

(營業稅ノ賦課)

二會社ヲ合併シ其營業ノ繼續シタル會社ハ營業稅法第三十三條ニ依リ前營業者タル二會社ニ依リテ納稅

ノ義務ヲ有ス(三七、二二、二八、判決)

(營業稅附加稅賦課)

鐵道株式會社カ營業用ノ車輛ヲ製作シ又ハ之ヲ修繕スルハ其ノ營業ノ準用ヲ爲スニ過キサレハ該製作所
ハ會社ノ營業場ニアラス(三八、四、二〇判決)

(營業稅ノ賦課)

一、公法ニ基ク徵稅權ハ民法ノ規定ニ羈束セラル、コトナシ

二、會社ノ解散後ト雖トモ納稅義務ノ確定シタル國稅ハ之ヲ徵收スルコトヲ得(三八、一〇、一一、判決)
(附加稅賦課)

一、株式會社ノ支店ハ反證ナキ限り本店ト同一ノ業務ヲ取扱フ場所ト認ム

二、本支店間資本ヲ區分セサル法人ハ縱令本店所在地ニ於テ營業稅又ハ所得稅ノ全部ニ對スル附加稅ヲ
納付シタル場合ト雖トモ之ヲ以テ支店所在地ノ町村ニ於ケル附加稅ノ賦課ヲ拒ムノ理由ト爲スヲ得
ス

三、公文書ハ當事者ノ不認ニ依リテ其證據力ヲ失フヘキモノニ非ラス(四一、二、二八、判決)
(所得稅ノ決定)

所得金額ハ豫算ヲ以テ定ムヘキ規定ナレハ實際收入セシ金額ト些少ノ差異アルモ之ヲ以テ所得金額ノ決
定ヲ不當ナリト謂フヲ得ス

(取引所ノ營業)

取引所ノ業務ハ其ノ會員組織ナルト株式會社組織ナルトヲ問ハス一ノ營業ナリ(三五、四、二、判決)

第六章 不課税

第二十三條 恤救規則ニ依リ恤救ヲ受クルモノニハ戸數割ヲ賦課セス

本縣有ノ土地ニ對シテハ地租割ヲ賦課セス

左ニ掲クル營業行爲又ハ物件ニ對シテハ營業稅雜種稅ヲ賦課セス

一 政府ヨリ發行スル印紙切手類ノ賣捌

二 製作ヲ加ヘスシテ自家取得ノ蠶絲其他ノ農產物果實苗木ヲ賣ル者及獵師漁者ニシテ自家

獲得ノ禽獸魚介類ヲ賣ル者但店舗ヲ設クルトキハ此限ニアラス

○縣稅賦課取扱方ノ件

(明治二十年五月十九日地第一六八二號
ヲ以テ內務部長ヨリ各郡市長ヘ通牒)

稅務主任書記協議會ヲ開キ候際主任ヨリ及御答候事項別紙ノ通り廳議決定候條右ニ依リ御取扱相成度此段及通牒候也

記

三、梨園ヲ所有シ店舗ヲ設ケ梨ヲ販賣スルモノハ物品販賣業稅ヲ賦課スル事

七、炭燒吳座織業等ハ他ヨリ原料ヲ買入レ使用スルト否トニ拘ハラス人工ヲ加ヘ物質ヲ變換シテ販賣スル

ヲ業トスルモノニハ製造業稅ヲ賦課スル事

○實例

(豆芽シ製造ニ課稅ノ件)

自家取得ノ原料タルト他ノ供給原料タルトヲ問ハス豆芽シヲ製造シテ卸賣スルモノニ對シテハ製造業稅ヲ課稅スヘキモノトス又店舗ヲ設ケ小賣ヲ兼スル者ハ物品販賣業稅ヲ併課スヘキモノトス

(附言) 豆芽ハ栽培ニ屬スルモノト云フ論者アルモ現今ノ學說トシテハ製造ニ屬スルモノトセリ

(些少物品販賣ノ意義)

些少物品トハ容積ノ大、小、輕重數ノ多少又ハ小ニシテ高價大ニシテ安價ノモノヲ云フニアラスシテ一年間ニ於ケル賣上金額ノ僅少ナルモノニシテ戸數割及市町村稅ノ免除者ノ販賣スル物品ヲ云フ意ナリ免稅者ニアラサルモ檐下シ草履、草鞋類ノ一品ヲ釣シ販賣スルモノ、如キハ本項ニ準シテ取扱フヘキモノトス

○參考

(農業ノ定義)

佐藤信淵翁ノ定義

草木ノ繁蕪ナル群品中ヨリ日用ノ最ニ緊要ナルモノ、ミヲ撰ヒ之レヲ植ヒ之ヲ作り良ク成熟セシメ取り

收メ以テ人生ノ需メニ供スル耕農ノ業トス

(ターヤ氏ノ定義)

農業ハ最モ貴重ナル動植、物質、生産ヲ土地ヨリ生ゼシムル術ナリ此ノ術ニ從事スルモノハ土地ノ動
物質生産ヲ増大セシメ又利用シテ利益ヲ得ント欲ス故ニ多クノ利益ヲ生ゼシメ其ノ目的ヲ良ク達セント
植、スルモノナリ

(ワルツツ氏ノ定義)

農業ハ永久ニナル可キ大ナル利益ヲ納メツ、有要ナル動植物質生産ヲナサン爲メ耕種養畜ヲ行フモノナ
リ耕種ト養畜トハ單ニ獨計營スルヲ得ラルルモ我カ氣候及ヒ普通ノ狀況ニテハ二者ヲ結合スルヲ常トス
(ビルンバウム氏ノ定義)

農業ハ耕種ト養畜トヲ營業セシメンタメ結合セシメタル營業ナリ通有ノ目的ハ動植物質ノ生産ニシテ特
異ノ目的ハ永久最大ノ利益ヲ得ルニアリ

(コルツツ氏ノ定義)

農業ハ動植物質ノ粗品ヲ生産スルヲ目的トシ土壤ノ耕作利用及ヒ家畜ヲ行フ營業ナリ

(クラット氏ノ定義)

農業ハ凡テ土壤及ヒ空氣ニ固結セラル、物質及ヒ勢力ヲ植物及ヒ動物ノ生活ニヨリテ遊離セシメ人生ノ
需要ニ滿ツルヲ目的トセシムルヲ包含スルモノトス

三 貸座敷渡世ニシテ同一家屋内ニ於テ料理シタル飲食物ヲ販賣スル者

四 赤貧又ハ癡疾不具ニシテ些少ノ物品ヲ販賣又ハ製作スル者

實例 赤貧トハ戸數割チ賦課セラレサルモノヲ程度トス

五 社寺境内又ハ路傍檐下等ニ於テ店舗ヲ設ケス些少ノ物品ヲ販賣スルモノ

六 祭典又ハ法會等ニ際シ一時路傍ニ於テ物品ヲ販賣スル者

七 製糸紡績機械裁縫ノ工女又ハ癡疾及六十歳以上十五歳未滿ノ職工

八 製糸紡績生絲揚返ノ水車

九 二歳牛馬ノ市場

十 祭典又ハ法會等ニ際シ放樂或ハ奉納ト唱ヒ木戸錢棧敷代敷物代ヲ受ケス又ハ營利ノ

目的ニアラスシテ慈善教育衛生勸業等ノ爲演劇興行ヲ爲シ又ハ遊覽所ヲ設ケルモノ

十一 路傍ニ於テ演技スルモノ

十二 癡疾ニシテ遊藝師匠又ハ遊藝稼人ヲナス者

十三ノ一 六十歳以上十五歳未滿ノ理髮業ニシテ職人又ハ助手ヲ使役セサル者及理髮業納稅

義務者ニ備役セラル、理髮職工

十三ノ二 災害ニ因リ亡失毀損シタル建物ヲ復舊スルカ爲メ五箇年以内ニ爲シタル建物建築

- 十四ノ一 貸付金穀高百圓未満ノモノ
- 十四ノ二 一市町村内ニ於ケル貸賃價格ノ總額三十圓未満ノ貸家
- 十五 官廳、縣、郡、市、町、村公共組合又ハ産業組合ニ於ケル貸金穀、貸家、財産取得及直接公用ニ供スル建物、建築、物件
- 十六ノ一 官公私立學校、公立病院又ハ専ラ慈善事業ノ用ニ供スル建物建築、物件及學生生徒等ノ共同所有ニシテ運動ノ用ニ供スル物件
- 十六ノ二 神社、寺院、佛堂其他祭祀、宗教ノ用ニ供スル建物建築、及財産取得
- 十六ノ三 肥料製造及貯藏用ノ建物建築
- 十六ノ四 主トシテ公會場青年夜學同武術會場ノ類ノ用ニ供スル建物建築
- 十六ノ五 貧困ノ爲メ市町村稅ヲ賦課セラレサル者ノ爲シタル建物建築
- 十七 非常專用ノ船車
- 十八 製造業者ノ製作品又ハ物品販賣業者ノ商品ニシテ使用ニ供セサル船、車、自轉車、自働車
- 十九 差押中ノ船、車、自轉車、自働車
- 二十 橋梁ニ換ヘ渡場ノミニ用ユル船
- 二十一 船橋ノ組成ニ用ユル船

- 二十二 航海中本船ニ揚ケ置ク傳馬船、舢舨
- 二十三 田船(水田ニ限リ使用スルモノ)
- 二十四 製造所又ハ鑛山借區内ノ如キ工場内ニ專用スル車
- 二十五 祭典用ノ山車ノ類
- 二十六 十三歳未満ノ酌婦
- 二十七 二歳以下ノ牛馬及當歳ノ畜犬

第十一編 縣稅賦課細則

第十一編 縣稅賦課細則

目次

縣稅賦課細則.....る一
 縣稅營業者其他課稅物件ノ檢査ニ關スル件.....る四
 諸帳簿其ノ他様式.....る八

目次

○縣稅賦課細則

第一章 總 則

第一條 市町村會ノ議決ヲ經ヘキ各年度ノ縣稅賦課方法(商業、工業、料理店業、飲食店業)ハ市町村長ニ於テ其議

決期限ノ拾日前迄ニ賦課規則第十七條第一項末段(一項末段條文若シ其ノ賦課方法ニ依リ難キトキハ市町村會ニ於テ特
外ト(營業稅及雜種稅)ノ場合ニ於テハ其事件ノ生シタルトキヨリ二十日以内ニ之ヲ市町村會ニ提出スヘシ
ス(ノ負擔額ノ事)ノ場合ニ於テハ其事件ノ生シタルトキヨリ二十日以内ニ之ヲ市町村會ニ提出スヘシ

第二條 第一條ノ期限内ニ賦課方法ヲ市町村會ニ提出スルヲ得サル場合ハ市長ハ知事ノ町村長ハ郡長ノ認
可ヲ受クヘシ

賦課規則第七條(第七條、市町村會ニ於テ議決スヘキ事項ニシテ規定ノ期間内ニ議決スルヲ得
サル特別ノ事情アルトキハ縣參事會ノ議決ヲ經テ其期限ヲ延期スルコトヲ得)ニ該當ノ場合ニ於テハ市町
村長ハ其事由ヲ知事ニ開申スヘシ

第三條 逋稅脫稅ノ稅額ニシテ各其年度ノ賦課方法ニ依リ難キトキ(賦課規則第五
條第二項末段(賦課方法ニ依リ難キトキハ當該
キトキハ縣參事會ノ議
決ヲ經テ之ヲ定ム)ハ市町村長ハ其調書ヲ添ヘ知事ニ具狀スヘシ

第四條 市町村會ニ於テ賦課規則ニ定メタル期限内(毎年戶數制ハ四月二十日マテニ
營業稅雜種稅ハ六月二十日マテニ)ニ其賦課方法ヲ議決セ
サルトキハ市町村長ハ市町村會ニ提出シタル書類ヲ添ヘ知事ニ具申スヘシ

第五條 市町村會ニ於テ賦課方法ヲ議決シタルトキハ議決後五日以内ニ其計表(第三條、第四條、第五條)ヲ製シ
賦課方法及一人別調書(第六號式)戶數制ヲ添ヘ知事又ハ郡長ニ報告スヘシ但市ニ在リテハ一人別調書ノ添

付ヲ要セス

第六條 市町村會ニ於テ議決シタル賦課方法ハ市ニ係ルモノハ知事町村ニ係ルモノハ郡長之ヲ査定スヘシ
其新ニ納稅義務發生シタルモノ、稅額及賦課規則第五條第二項(第二項ハ逋稅脫稅ノ稅額ハ各其年
度ノ賦課方法ニ依リ之ヲ決定ス)ニ該當スル
モノ、稅額モ亦同シ郡長ニ於テ意見アルトキハ其書類ヲ添ヘ知事ニ具申スヘシ

第七條 此細則ニ依リ報告ヲ要スルモノハ市ニ係ルモノハ知事町村ニ係ルモノハ郡長トス
町村長ヨリ知事ニ提出スル書類ハ郡長ヲ經由シ郡長ハ意見ヲ添申スヘシ

第二章 戶數割

第八條 市町村長ハ毎年實地ニ就キ十二月三十一日現在一戸ヲ構ヘタルモノ、戶數ヲ調査(第一號式)シ町村
ニアリテハ翌年一月二十日迄市ニアリテハ二月十日迄ニ知事又ハ郡長ニ報告スヘシ

郡長ハ前項ノ報告ヲ調査シ郡計表(第二號式)ヲ製シ二月十日迄ニ知事ニ報告スヘシ

第九條 郡長ニ於テ戶數割賦課方法ヲ査定シタルトキハ郡計表(第七號式)ヲ製シ各町村ノ賦課方法ヲ添ヘ
其方法ノ同一ナルモノハ一通ニ
町村名ヲ列記スルモ妨ケナシ五月二十日迄ニ知事ニ報告スヘシ但町村ノ賦課方法ハ前年度ト異ナル部分ノミ
ヲ摘記添付スルコトヲ得

(註記)

賦課方法ハ前年度ト異ナル部分ヲ摘記ノモノハ調査上不便アルヲ以テ全條文ノモノニ其ノ改正部分ニ朱線又ハ朱點ヲ附シテ提
出セラルハ宜トス

第十條 市町村長ハ戶數割ノ納期前實地ニ就キ納稅義務者ノ異動ヲ調査スヘシ

第十一條 賦課規則第十一條第四項(第四項ハ新ニ納稅義務ノ發生シタルモノノ稅額ハ市
町村會ニ於テ議決シタル賦課方法ニ依リ之ヲ決定ス)ニ依リ賦課スヘキモノアル
トキハ知事又ハ郡長ニ報告(第九號式)スヘシ

第十二條 戶數割ノ納稅義務ヲ有スルモノ戶數割ヲ賦課
セサル者共ニシテ縣内他町村ニ移轉シタル者又ハ納稅義務消
滅シタルモノアルトキハ市町村長ハ其都度知事又ハ郡長ニ報告(第十號式)スヘシ其移轉シタルモノニアリ
テハ移轉地同郡内ナルトキ轉入町村長ヲ經連署ノ上郡長ニ報告シ郡市ナルトキハ知事又ハ郡長ニ報告ト
同時ニ市ニ在リテハ轉入地郡長町村長ニ町村ニアリテハ轉入地市町村長ニ通知(第十號式)スヘシ

前項轉入ノ通知ヲ受ケタルトキハ市長ハ之ヲ知事ニ報告シ郡長ハ其移轉地他郡ナルトキハ轉入地郡長ニ
通知(第十號式)スヘシ

第三章 營業稅雜種稅

第十三條 市町村長ハ新ニ營業稅雜種稅ノ納稅義務發生シタルモノ、届出ニ際シ課稅上必要ナル事項ヲ指
示スルコトヲ得

市町村長ハ市町村會ノ議決ヲ經ヘキ營業稅雜種稅ノ課稅標準ニ關シ各營業者ヨリ必要ノ事項ヲ申告セシ
ムルコトヲ得

第十四條 市町村長ニ於テ縣稅ニ關スル届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ其要領ヲ翌月三日迄ニ知事又ハ
郡長ニ報告(第二十五號式)スヘシ但届書ニ報告事項ヲ記入(第二十四號式)シテ進達スルコトヲ得

第十四條ノ二 縣稅納稅義務者届出規則第十三條漁業稅採藻稅納稅義務者届出規則第七條ニ依リ口頭ヲ以テ届出又ハ申告ヲ爲スモノアルトキハ市町村長ハ口頭申告簿(第二十三號式ノ二)ニ其要領ヲ登記シ届出又ハ申告人ヲシテ之レニ捺印セシムヘシ

第十五條 市町村長ハ毎年一月ヨリ三月迄ノ間ニ於テ其部内ニ於ケル營業ノ狀況其他課稅ニ關スル事項ヲ調査スヘシ

市町村長ハ營業稅雜種稅ノ各納期其部内ニ於ケル納稅義務者ノ異動ヲ調査スヘシ

第十六條 郡市長ハ營業稅雜種稅ニ關シ隨時一般檢査ヲ行フヘシ但船車自働車自轉車水車ハ毎年八九兩月ノ間ニ於テ檢査ヲ執行スヘシ

前項ノ檢査ニ際シ他郡市居住者ノ逋稅脫稅ニ係ルモノヲ發見シタルトキハ檢査書ヲ作成シ且ツ承印セシメタル後正本ヲ交付シ其ノ謄本ヲ關係郡市長ニ送付スヘシ

郡市長ニ於テ前項謄本ノ送付ヲ受ケタルトキハ相當處理スヘシ

一般檢査(船車檢査手續ニ依リ)ヲ行ヒタルトキハ十日以内ニ知事ニ其結果ヲ報告スヘシ

○縣稅營業者其他課稅物件ノ檢査ニ關スル件

(大正六年九月各郡市財務主任書記會ニ於テ指示)

縣稅營業者其他課稅物件ハ每年度隨時檢査ヲ行フヘク殊ニ船車ハ一定ノ期月ニ檢査スヘキコトハ

縣稅賦課細則ノ明示スル所ナルモ大正五年度ニ於テ船車以外ノ一般檢査ヲ施行シタルハ僅カニ七郡アルノミニシテ其ノ他十郡市ハ之ヲ施行セサルカ如シ又船車ノ檢査ニ至リテモ或ル一部ノ地方ニ限り全郡市ニ及サル向アリテ課稅物件等ノ取締上誠ニ遺憾トスル所ナリ今後ハ努メテ事務ノ綜合セテ爲シ必ラス檢査ヲ施行シ逋稅脫稅者ノ取締ヲ勵行セラルヘシ

第十七條 賦課規則第十五條第二項但書(但書條文ハ前年度中ニ於テ納稅義務消滅シタルモノト納稅義務起リタルモノトノ稅額ヲ相殺シ其義務消滅ノ超過額其市町村稅ノ五分ノ一以上ニ當ルトキハ縣參事會ノ議決ヲ經テ其課額ヲ減少スルコトアルヘシ)ニ該當スル市町村ハ前年度中納稅義務者人員稅額表(第十一號式)ヲ製シ尙其一人別稅額住所氏名調(第十二號式)ヲ添ヘ市町村長ヨリ知事ニ開申スヘシ

第十八條 郡長ニ於テ營業稅雜種稅ノ賦課方法ヲ查定シタルトキハ郡計表(第八號式)ヲ製シ各町村ノ賦課方法ヲ添ヘ(其方法ノ同一ナルモノハ一通ニ町村名ヲ列記スルモ妨ケナシ)七月二十日迄ニ知事ニ報告スヘシ但町村賦課方法ノ添付ニ關シテハ

第九條但書(但書ハ市町村ノ賦課方法ハ前年度ト異ナル部分ノミヲ摘記添付スルコトヲ得)ノ例ニ依ル

(註記) 本文ノ賦課方法提出方ニ就テハ第九條ノ註記ニ依ラレタリ

第十九條 市町村長ハ縣稅納稅義務者届出規則第三條第一項第一號乃至第四號

一號 牛馬賣買業者及畜生系屠物賣買業者ハ一ヶ年賣上(其年一月ヨリ十二月マテノ分)見積金高請負業者ハ一ヶ年(其年一月ヨリ十二月マテノ分)請負見積金高

二號 理髮業者ハ其年四月一日現在從業人員及委見鏡(女髮結ヲ除ク)ノ總員數

三號 貸金業者ハ其年四月一日現在貸金總高

四號 貸家所有者ハ其年四月一日現在貸賃價格

及漁業稅採藻稅納稅義務者届出規則第二條第一號乃至第四號

柴海苔 以外ノ 採藻ヲ

一號 定置漁業中前大綱及前大綱漁業ヲ營ムモノハ前三年間ノ漁獲價格其業ヲ開始シタルモノニアリ

二號 定置漁業(前大綱及前大綱ヲ除ク)特別漁業(前大綱及前大綱ヲ除ク)刺網漁業ヲ營ムモノハ一ヶ年漁獲見積價格及使用スル其網數共

三號 (前除) 柴海苔ノ採取者ハ其採取區劃場ノ採取者ハ其採取見積價格其他

四號 柴海苔ノ採取者ハ其採取區劃場ノ採取者ハ其採取見積價格其他

調査シ六月十五日迄ニ一人別調書(第十五號式ノ一)市ニ在リテハヲ添ヘ知事又ハ郡長ニ(第十四號式)報告スヘシ
前項ノ稅額市ニ係ルモノハ知事町村ニ係ルモノハ郡長之ヲ査定スヘシ其新ニ納稅義務發生シタルモノノ稅額亦同シ

郡長ニ於テ本條ノ稅額ヲ査定シタルトキハ(前項未段ノ場合ヲ除ク)郡計表(第十四號式)ヲ製シ七月十日迄ニ知

事ニ報告スヘシ

第二十條 市町村長ハ毎年四月一日現在ニ依リ市町村會ノ議決ヲ要セサル各營業者及物件(不課稅事)等ヲ調査シ四月三十日迄ニ知事又ハ郡長(第十六號式、第十七號式、第十八號式)ニ報告スヘシ

郡長ハ前項ノ報告ヲ調査シ郡計表(第十六號式、第十七號式、第十八號式)ヲ製シ五月三十一日迄ニ知事ニ報告スヘシ

第二十一條 縣稅納稅義務者届出規則第五條第一項第五號(第五號ハ店舖其他ノ營業場物件所在地及常置ノ場所又ハ住所町村役場ヲ經由シ他郡市ニ涉ルトキ)ニ該當スルモノ及物件(課稅共)ヲ賣渡讓渡シタルトキ又ハ納稅義務ノ消滅シタルモノニ關シテハ第十二條ノ例ニ據ルヘシ

船、車、自動車、自轉車ノ所有者他府縣ニ移轉シ(常置ノ場所)ノ移轉トモ又ハ他府縣ノモノニ賣渡讓渡シタルモノアルトキハ郡市長ヨリ其府縣ノ郡市長ニ通知シ他府縣ヨリ其移轉、買受、讓受ニ關スル通知ヲ受ケタルトキハ其取得者又ハ移轉者ヲシテ届出ヲ爲サシムルノ手續ヲ爲スヘシ

第四章 帳簿及様式

第二十二條 郡市役所町村役場ニ於テハ戶數臺帳(第十九號式第二十號式)ヲ設備シ戶數割納稅義務者ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

第二十三條 郡市役所町村役場ニ於テハ營業稅雜種稅營業者臺帳(第二十一號式)及物件臺帳(第二十二號式)ヲ設備シ義務發生又ハ消滅ニ關スル届書又ハ口頭申告ニ依リ課稅及不課稅事項ヲ記載スヘシ但不課稅ニ關スルモノハ之ヲ區別シテ別冊ト爲スヘシ

漁業法又ハ漁業取締規則ニ依リ免許又ハ許可ヲ受ケ若クハ届出タルモノニ關シテハ該臺帳ヲ代用シテ前
項ニ依ル臺帳ノ設備ヲ爲サ、ルモ妨ケナシ

第二十四條 此細則ニ依ル帳簿計表及調書ハ別冊様式ニ據ルヘシ但郡役所ニ於テハ第五條及第十九條ノ一
人別調書ヲ以テ前條第一項ニ依ル臺帳ニ代用スヘシ様式ニ示シタル區分ニシテ課目課額ノ變更ニ依リ符
合セサルモノヲ生シタルトキハ當該年度ノ課目課額ニ依リ便宜ニ更正スヘシ

附 則

此細則ハ明治三十八年度所屬ノ縣稅ヨリ施行ス

明治三十一年(三月)訓令第十號ハ此細則施行ノ年度ヨリ廢止ス

乳牛及乘馬以外ノ牛馬ニ關シテハ別ニ定ムル處ニ依ル

(別冊)

○諸帳簿其他ノ様式

目 次

第一號式	戶數報告ノ一	細則第八條
第二號式	戶數報告ノ二	同上
第三號式	戶數割毎戶賦課額及賦課方法報告	同第五條

第四號式	營業稅賦課額及賦課方法報告	同上
第五號式	雜種稅中料理店業外六業賦課額及賦課方法報告	同上
第六號式	營業稅雜種稅賦課額一人別調書	同上
第七號式	戶數割賦課方法査定報告	同第九條
第八號式	營業稅雜種稅賦課方法査定報告	同第十八條
第九號式	戶數割納稅義務者增加報告	同第十一條
第十號式	納稅義務者異動報告及通知書	同第十二條
第十一號式	營業稅納稅義務發生消滅人員稅額表	同第十七條
第十二號式	營業稅納稅義務發生消滅一人別調書	同上
第十三號式	縣稅連脫稅ニ關スル調書	同第三條
第十四號式	營業稅雜種稅中馬買賣業外八種員數現額表	同第十九條
第十五號式ノ一	雜種稅課稅標準一人別調書	同上
第十五號式ノ二	貸家所有者一人別調書	同上
第十六號式	營業稅雜種稅員數稅額表	同第二十條
第十七號式	營業稅雜種稅中不課稅營業者員數表	同上
第十八號式	雜種稅中不課稅物件員數表	同上

- 第十九號式 戶數臺帳ノ一
- 第二十號式 戶數臺帳ノ二
- 第二十一號式 營業稅雜種稅當業者臺帳
- 第二十二號式 雜種稅物件臺帳
- 第二十三號式 法人建物臺帳
- 第二十三號式ノ二 營業稅雜種稅口頭申告簿
- 第二十四號式 縣稅ニ關スル届書進達ノ際押捺スヘキ印形
- 第二十五號式 縣稅納稅義務者届出報告
- 第二十六號式 傭人臺帳
- 第二十七號式 借家臺帳
- 第二十八號式 倉庫臺帳
- 第二十九號式 縣稅檢査書
- 第三十號式 縣稅檢査施行結果報告
- 第一號式

一現住戶數 何 戶 大正何年年十二月三十一日現在

戶數調書

三〇

- 同 第二十二條 上
- 同 第二十三條 上
- 同 上
- 同 第十四條ノ二 上
- 同 第十四條
- 同 第十四條
- 同 第二十三條 上
- 同 上
- 同 上
- 同 第十六條 上
- 同 上

三三三

納稅義務ヲ有スルモノ 何 戶
 納稅義務ヲ有セサルモノ (賦課規則第廿三條第一項ニ該當スルモノ) 何 戶

年 月 日

知事(郡長)宛

市町村長

本調書ノ戶數ハ戶數臺帳ノ十二月三十一日現在戶數(未書戶數ヲ除ク)ト符合スヘキモノトス

第二號式

大正何年十二月末日現在戶數報告

何 郡

町村名	現住戶數	内		事由
		納稅義務ヲ有スル戶數	納稅義務ヲ有セサル戶數	
計				

右及報告候也

第十一編 縣稅賦課規則

一一

三三三